高千穂町文化財調査報告書 第11集

宮ノ前第２遺跡（第２・３次調査）

今狩平横穴墓群第２号横穴墓

１９９９年３月

宮崎県西臼杵郡高千穂町教育委員会

高千穂町文化財調査報告書第11集
「宮の前第２遺跡（第２・３次調査）
今狩平横穴墓群第２号横穴墓」

正誤表	誤	正
Ｐ40の表10の20	浄土江遺跡「	浄土江遺跡Ⅱ
Ｐ42下から8行目	県北に多い	県北に少ない

高千穂町文化財調査報告書第１１集

宮ノ前第２遺跡（第２・３次調査）

今狩平横穴墓群第２号横穴墓

１９９９年３月

宮崎県西臼杵郡高千穂町教育委員会

序文

この報告書は、平成５年～６年度に「町道猿渡線道路改良工事」に先立って発掘調査を行った宮ノ前第２遺跡の第２・３次調査と平成５年８月の豪雨で発見された今狩平２号横穴墓の発掘調査の記録です。

私たちの先祖が残したこれらの文化財を大切にし、地域の歴史や文化を学ぶ資料として活用して行くことが、これからの高千穂町の町づくりへつながるものと考えます。学校教育および社会教育の資料として幅広く御活用いただければ幸いです。

なお、調査にあたって御協力いただきました関係各位に深甚の謝意を表しますとともに、積極的な御尽力をいただきました地元の方々に心から厚く感謝申し上げます。

平成１１年３月

高千穂町教育委員会
教育長　出口　哲郎

例言

１．本書は、平成５年～６年度に「町道猿渡線道路改良工事」に先立って発掘調査を行った宮ノ前第２遺跡の第２・３次調査と平成５年８月豪雨で発見された今狩平２号横穴墓の発掘調査の記録である。

２．遺跡の所在地は、次のとおりである。

①宮ノ前第２遺跡第２次調査：宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井字宮ノ前1630-1他
②宮ノ前第２遺跡第３次調査：宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井字宮ノ前1633-1他
③今狩平２号横穴墓：宮崎県西臼杵郡高千穂町大字田原字今狩平1220番地

３．遺跡の調査期間と調査関係者は、次のとおりである。

①宮ノ前第２遺跡（第２次調査）：
調査期間　平成５年３月９日～１１日
調査主体　高千穂町教育委員会
教育長　　安田繁
教育次長　　戸高昭十
社会教育課長　　河内和郷
社会教育課長補佐　興梠政則
文化財係長　　田尻隆介
ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ係主任主事　坂本由美子（庶務）
文化財主事　　緒方俊輔（調査担当）

②宮ノ前第２遺跡（第３次調査）：
調査期間　平成６年５月１２日～３０日
調査主体　高千穂町教育委員会
教育長　　出口哲郎
教育次長　　奈須印史
社会教育課長　　河内和郷
社会教育課長補佐 興梠政則
文化財係長　　田尻隆介
ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ係主任主事　坂本由美子（庶務）
文化財主事　　緒方俊輔（調査担当）

③今狩平２号横穴墓：
調査期間　平成６年５月３１日～６月１日
調査主体　高千穂町教育委員会
教育長　　出口哲郎
教育次長　　奈須印史
社会教育課長　　河内和郷
社会教育課長補佐 興梠政則
文化財係長　　田尻隆介
ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ係主任主事　坂本由美子（庶務）
文化財主事　　緒方俊輔（調査担当）

４．整理作業期間と関係者は、次のとおりである。
整理作業期間　平成９年４月１日～平成１１年３月３１日
調査主体　高千穂町教育委員会
教育長　　出口哲郎
教育次長　　奈須印史（平成９年度）
　　甲斐栄夫（平成１０年度）
社会教育課長　　花田忠則（平成９年度）
　　工藤忠則（平成１０年度）
社会教育課長補佐兼係長田尻隆介
社会教育係主任主事　　抜屋洋子（平成９年度庶務）
ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ係主事　　南條由紀（平成９年度庶務）
社会教育係主事　　南條由紀（平成１０年度庶務）
ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ係主事　　古城貴代（平成１０年度庶務）
文化財主任主事　　緒方俊輔（調査担当）

５．遺構実測、遺物実測、製図及び写真撮影は緒方が行った。伝・田原梶原平横穴墓出土鉄鏃の実測は鎌田次郎（平成７年４～５月、高千穂町埋蔵文化財嘱託調査員／現在、東臼杵郡西郷村教育委員会主事）が行った。なお、梶原平横穴墓の甲斐有雄建立石碑の拓本は、冨高則夫氏（高千穂町大字河内在住の郷土史家）の採拓による。製塩土器の出土地地名表作成にあたっては、平山弥生（別府大学学生）の協力を得た。
６．本書の執筆・編集は緒方が行った。
７．英訳には、高千穂町国際交流員ミシカ・マキネニー（Mischa Mc Inerney）による。
８．出土遺物は高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）で保管している。

高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）
所在地：〒882-1101 宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井1515番地
電話：0982-72-6139
ファックス：0982-72-6140
休館日：１２月２８日～１月３日
（※この他、２年に一度、西暦奇数年に燻蒸作業のため４日間臨時休館）
入館料：大人・高生２００円、小・中生１００円
（※２０人以上の団体は大人・高生１５０円、小・中生５０円）
第２・第４土曜日は小・中生無料。

総目次

①宮ノ前第２遺跡（第２次調査）……４～４４
②宮ノ前第２遺跡（第３次調査）……４５～５９
③今狩平２号横穴墓……６０～７０
④抄録……１２１～１２２

１．宮ノ前第２遺跡（第２次調査）
例言
１．遺構実測は、国土座標第Ⅱ座標系で行った。
２．土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帳」1994 年版を参考にした。
３．遺構名は、アルファベッド記号を用いて以下のように定めた。
　ＳＣ＝竪穴住居跡、ＳＫ＝土壙、ＳＰ＝ピット（柱穴）、ＳＤ＝溝

本文目次

Ⅰ．発掘調査に至る経緯……８
Ⅱ．遺跡の位置と環境……８
Ⅲ．遺跡の概要……２２

Ⅳ．調査の経過……２２
Ⅴ．調査の結果……２２
Ⅵ．まとめ……４２
Ⅶ．Summary ……４４

挿図目次

第１図　高千穂町遺跡詳細分布地図（三田井・押方・向山地区）……９～１０
第２図　宮ノ前第２遺跡周辺地形図……２３
第３図　宮ノ前第２遺跡第２次調査・第３次調査調査区配置図……２４
第４図　宮ノ前第２遺跡第２次調査遺構実測図……２６
第５図　宮ノ前第２遺跡第２次調査SC01実測図及びピット土層断面図……２７
第６図　宮ノ前第２遺跡第２次調査黒色土出土土器実測図……２８
第７図　宮ノ前第２遺跡第２次調査SC01出土土器実測図①……２９
第８図　宮ノ前第２遺跡第２次調査SC01出土土器実測図②……３０
第９図　宮ノ前第２遺跡第２次調査SC01出土土器実測図③……３１
第１０図　宮ノ前第２遺跡第２次調査SC01出土土器実測図④……３２
第１１図　宮ノ前第２遺跡第２次調査SK02及びSK03出土土器実測図……３３
第１２図　宮ノ前第２遺跡第２次調査SC01ピット出土土器
及び宮ノ前第２遺跡第２次調査出土石器・金属器・獣骨実測図……３６
第１３図　宮崎県下の焼塩壷出土遺跡分布調査地図……３７

表目次

表１　高千穂町遺跡詳細分布地図（三田井地区）遺跡地名表①……１１
表２　高千穂町遺跡詳細分布地図（三田井地区）遺跡地名表②……１２
表３　高千穂町遺跡詳細分布地図（三田井地区）遺跡地名表③……１３
表４　高千穂町遺跡詳細分布地図（三田井地区）遺跡地名表④及び
高千穂町遺跡詳細分布地図（押方地区）遺跡地名表①……１４
表５　高千穂町遺跡詳細分布地図（押方地区）遺跡地名表②及び
高千穂町遺跡詳細分布地図（向山地区）遺跡地名表……１５
表６　高千穂町関連文献目録一覧表①……１６
表７　高千穂町関連文献目録一覧表②……１７
表８　宮崎県下焼塩壷出土遺跡一覧表①……３８
表９　宮崎県下焼塩壷出土遺跡一覧表②……３９
表１０　宮崎県下焼塩壷出土遺跡文献目録一覧表①……４０
表１１　宮崎県下焼塩壷出土遺跡文献目録一覧表②……４１
表１２　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その１）…７３

表１３　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その２）…７４
表１４　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その３）…７５
表１５　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その４）…７６
表１６　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その５）…７７
表１７　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その６）…７８
表１８　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その７）…７９
表１９　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その８）…８０
表２０　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その９）…８１
表２１　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土土器観察表（その１０）…８２
表２２　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土石器観察表（その１）…８２
表２３　宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ2-2）出土石器観察表（その２）及び
　　鉄器観察表……８３

図版目次

図版１　１＝調査区遺構面確認状況（南から）……９５
　　２＝調査区遺構面確認状況（南から）……９５
　　３＝調査区遺構面確認状況（南から）……９５
図版２　４＝ＳＣ01検出状況（拡張前）……９６
　　５＝ＳＫ02検出状況（拡張前）……９６
　　６＝霜柱立つ発掘現場（西から）……９６
図版３　７～１０＝ＳＣ01掘り下げ状況（東からベルト除去前）……９７
　　１１＝ＳＣ01掘り下げ状況（東からベルト除去後）……９７
　　１２＝ＳＣ01ピット完掘状況（東から）……９７
図版４　１３＝土器（１～９）表……９８
　　１４＝土器（１～９）裏……９８
　　１５＝土器（１０～１７，１９）表……９８
　　１６＝土器（１０～１７，１９）裏……９８
図版５　１７＝土器（１８）表……９９
　　１８＝土器（１８）裏……９９
　　１９＝土器（２０）表……９９
　　２０＝土器（２０）裏……９９
　　２１＝土器（２１）表……９９
　　２２＝土器（２１）斜め……９９
図版６　２３＝土器（２２～３０）表……１００
　　２４＝土器（２２～３０）裏……１００
　　２５＝土器（３１～３９）表……１００

２６＝土器（３１～３９）裏……１００
２７＝土器（４０～４８）表……１００
２８＝土器（４０～４８）裏……１００
図版７　２９＝土器（４９～５７）表……１０１
３０＝土器（４９～５７）裏……１０１
３１＝土器（５８～６６）表……１０１
３２＝土器（５８～６６）裏……１０１
３３＝土器（６７～７５）表……１０１
３４＝土器（６７～７５）裏……１０１
図版８　３５＝土器（７６～８４）表……１０２
３６＝土器（７６～８４）裏……１０２
３７＝土器（８５～９３）表……１０２
３８＝土器（９４～９９，１０１～１０３）表……１０２
３９＝土器（９４～９９，１０１～１０３）裏……１０２
図版９　４０＝土器（１００）裏……１０３
４１＝土器（１００）表……１０３
４２＝土器（１００）斜め……１０３
４３＝土器（１０４）表……１０３
４４＝土器（１０４）裏……１０３
４５＝土器（１０４）斜め……１０３
図版10　４６＝土器（１０５）裏……１０４
４７＝土器（１０５）表……１０４
４８＝土器（１０５）斜め……１０４
４９＝土器（１０６～１１４）表……１０４
５０＝土器（１０６～１１４）裏……１０４
図版11　５１＝土器（１１５～１２３）表……１０５
５２＝土器（１１５～１２３）裏……１０５
５３＝土器（１２５～１３２）表……１０５
５４＝土器（１２５～１３２）裏……１０５
図版12　５５＝製塩土器（１２４）表……１０６
５６＝製塩土器（１２４）裏……１０６
５７＝石器（１３３）表……１０６
５８＝石器（１３３）裏……１０６
５９＝石器（１３４）表……１０６
６０＝石器（１３４）裏……１０６
６１＝石器（１３５）表……１０６
６２＝石器（１３５）裏……１０６

６３＝石器（１３６）……１０６
６４＝石器（１３７）表……１０６
６５＝石器（１３７）裏……１０６
６６＝鉄器（１３８）表……１０６
６７＝鉄器（１３８）裏……１０６

Ⅰ．発掘調査に至る経緯

高千穂町教育委員会では、開発関係部課に開発予定地の照会文書により埋蔵文化財の発掘調査について協力を呼びかけているところであるが、平成５年１１月の広報「たかちほ」３２６号にて町道猿渡線の道路改良工事の情報を入手した。その場所が、高千穂町教育委員会「高千穂町遺跡詳細分布調査報告書（三田井・押方・向山地区）」1983年による縄文～弥生時代の遺物散布地のNo.1047宮ノ前第２遺跡であるところから、「周知の遺跡」であるので発掘調査を行なうこととなった。早速、平成５年度１２月補正で町単独で予算を確保し、建設課から用地売買完了の連絡待ちとなった。平成６年３月５日、ようやく建設課より用地売買完了がしたので、調査に入れますとの連絡が入る。年度末も押し迫り、当初は人手でトレンチ調査の予定であったが、建設課より工事もできれば今年度中に手掛けたいとの要請があり、期間短縮を図るために「建設課予算で業者に小型ユンボを発注し、教育委員会の指示通りに表土除去をしていただけないか。」と協力をお願いする。平成６年３月９日、建設課の協力があり、工事発注業者（高千穂産業）のユンボによる表土除去後、１１日まで人手による調査を行った。

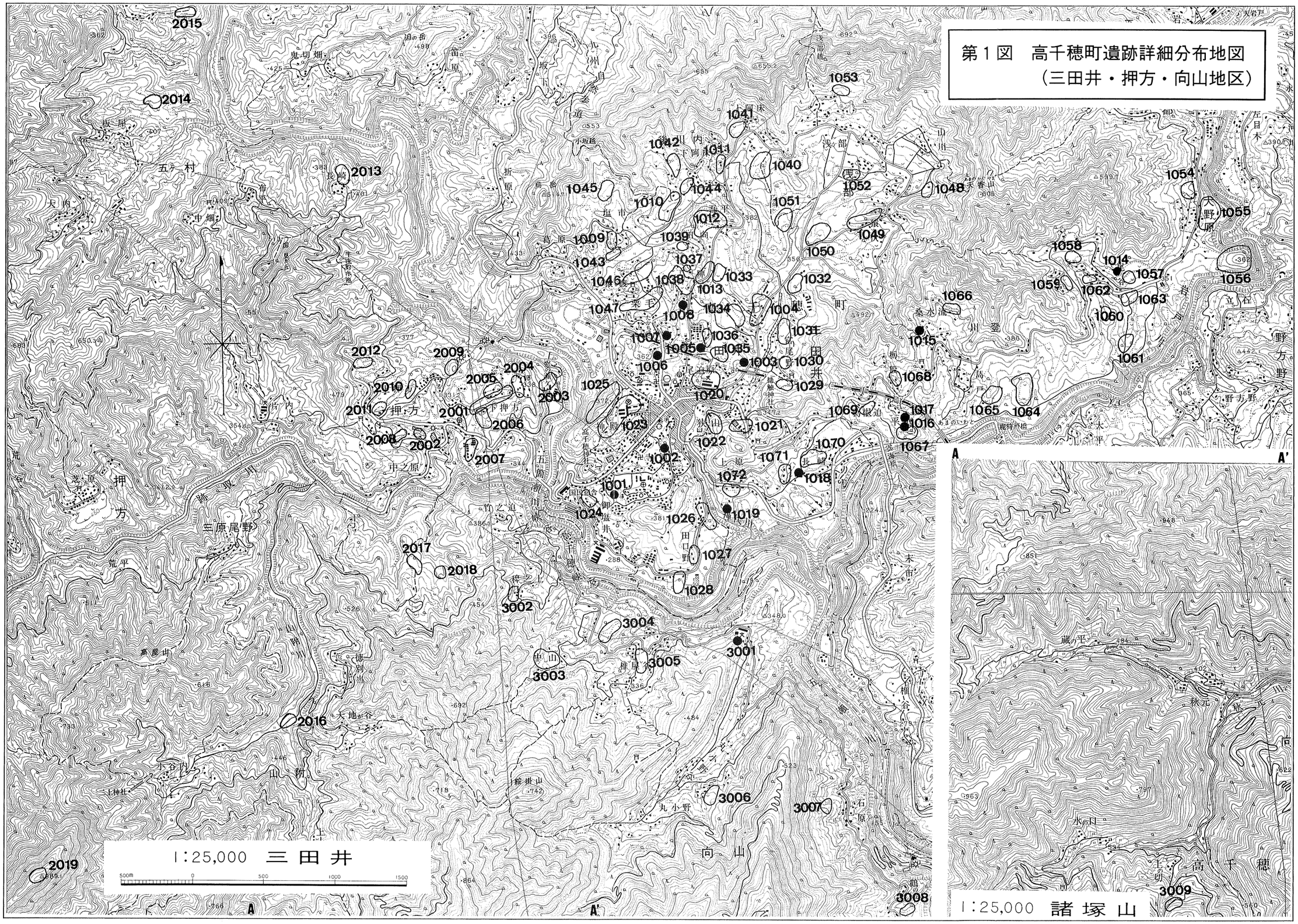
調査の結果、土器・石器・鉄器などの破片１３８点が出土した。平成６年度に整理を行い、報告書の刊行に至った。

Ⅱ．遺跡の位置と環境

高千穂町は、宮崎県の西北部に位置する人口１万６千人、面積237.20㎢の町で「九州のへそ」と言われる熊本県蘇陽町の（上空から見て）向かってやや右にあるため「九州の心臓」とも言われている。

「古事記」、「日本書紀」、「風土記」等の文献史料に記るされている天孫降臨伝説も残り、中でも「日向国風土記（逸文）」の「臼杵郡智穂郷」という記述は当町説の論拠ともなっているが、「襲」の解釈では鹿児島県曽於郡という説もあり霧島の高千穂峯説などと古くから論争されてきた。戦後は考古学の成果から歴史を科学的に調べることがなされ、戦前は歴史と密接に結びついていた神話・伝説は人々の「いにしえへのロマン」をかきたてる材料、町づくりのCI（コーポレート・アイデンティティー）としてのキャッチフレーズ～神話と伝説のまち、高千穂町～として生きづいている。

考古学的発掘調査も早くから行われ、山あいにもかかわらず遺跡も数多く発見されている。以下、周辺での歴史的環境として各時代の遺跡の紹介をしたい。



第１図　高千穂町遺跡詳細分布地図
（三田井・押方・向山地区）

三田井地区　1001～1072

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号 台帳	旧番号 地図	文献	備考
1001	高千穂1号墳	大字三田井字御塩井	古墳（円）	古墳時代			6,7,16,22,31,35	
1002	高千穂5号墳	大字三田井字寺迫	古墳（円）	古墳時代			6,7,16,22,31,35	
1003	高千穂31号墳	大字三田井字吾平原	横穴	古墳時代			6,7,16,22,33,35	
1004	吾平原横穴群	大字三田井字吾平原	横穴	古墳時代		2-17	6,7,16,21,22,31,33,35	
	（号数）							
	26・27	大字三田井字吾平原	横穴2					消滅
	28	大字三田井字吾平原	横穴1					消滅
	29・30	大字三田井字吾平原	横穴2					消滅
	一本木	大字三田井字吾平原	横穴1				9	消滅
	32～40	大字三田井字吾平原	横穴9					消滅
	41	大字三田井字吾平原	横穴1					消滅
※	吾平原1～10号	大字三田井字吾平原	横穴10				55,56,58,59,60,62	消滅
1005	高千穂45号墳	大字三田井字尾迫原	古墳（前方後円とあるが自然丘陵）	古墳時代			6,7,9,16,22,31,35	
1006	高千穂9号墳	大字三田井字栗毛	古墳（円）	古墳時代			6,7,9,16,22,31,35	
1007	高千穂10号墳	大字三田井字栗毛	古墳（円）	古墳時代			6,7,9,16,22,31,35	
1008	高千穂6号墳	大字三田井字宮ノ前	古墳（円）	古墳時代		2-12	6,7,9,16,22,31,35	
1009	塩市横穴群	大字三田井字塩市	横穴	古墳時代		2-10	6,7,9,16,22,31,33,35	
	（号数）							
	7	大字三田井字塩市	横穴1					
	8	大字三田井字塩市	横穴1					消滅
1010	成木横穴群	大字三田井字成木	横穴	古墳時代			6,7,9,16,22,31,33,35	
	（号数）							
	22・23	大字三田井字成木	横穴2					消滅
	24	大字三田井字成木	横穴1					消滅
	20・21	大字三田井字池ノ川	横穴2					消滅
1011	池ノ川横穴群	大字三田井字池ノ川	横穴	古墳時代			6,7,9,16,22,31,33,35	
	（号数）							
	17	大字三田井字池ノ川	横穴1					消滅
	18	大字三田井字池ノ川	横穴1					
	19	大字三田井字池ノ川	横穴1					
1012	吾平古墳群	大字三田井字吾平	古墳	古墳時代		2-16	6,7,9,16,22,31,33,35	
	（号数）							
	11・12	大字三田井字吾平	前方後円墳					吾平山陵
	13	大字三田井字吾平	横穴1					不明
	14	大字三田井字吾平	横穴1					
	15	大字三田井字吾平	円墳1					
1013	車ノ迫横穴群	大字三田井字車ノ迫	横穴	古墳時代			6,7,9,16,22,31,33,35	
	（号数）							
	46・47	大字三田井字車ノ迫	横穴2					消滅
	25	大字三田井字吾平原	横穴1					消滅
	42	大字三田井字吾平原	横穴1					
	43	大字三田井字吾平原	横穴1					消滅
	44	大字三田井字吾平原	横穴1					
※	車ノ迫1～4号	大字三田井字車ノ迫	横穴4				55,56	消滅

表１　高千穂町遺跡詳細分布調査（三田井地区）遺跡地名表①

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号		文献	備考
					台帳	地図		
1014	高千穂48号墳	大字三田井字尾谷	古墳（円）	古墳時代			6,7,9,16,22,31,35	崩壊
1015	高千穂55号墳	大字三田井字桑水流	横穴	古墳時代			6,7,9,16,22,31	
1016	高千穂3号墳	大字三田井字栃又	横穴	古墳時代			6,7,9,16,22,31,33,35	
1017	高千穂4号墳	大字三田井字栃又	古墳（円）	古墳時代	1015		6,7,9,16,22,31,35	
1018	高千穂16号墳	大字三田井字長崎	古墳（円）	古墳時代			6,7,9,16,22,31,35	
1019	高千穂2号墳	大字三田井字上原	古墳（円）	古墳時代			6,7,9,16,22,31,35	
1020	高千穂小学校遺跡	大字三田井字尾迫原	散布地	縄文～弥生時代			8,13,16,21,22	
1021	狭山遺跡	大字三田井字狭山	散布地	弥生時代				
1022	松能橋遺跡	大字三田井字狭山	散布地	縄文～弥生時代		2-32		
1023	高千穂高校遺跡	大字三田井字神殿	散布地	縄文～弥生時代		2-28	2,8,13,16,21,22	
※	神殿遺跡	大字三田井字神殿	集落	縄文～奈良時代			54,55,56	
1024	セベット遺跡	大字三田井字御塩井	散布地	縄文～弥生時代		2-29	8,13,16,21,22	
1025	淡路城跡	大字三田井字神殿・城ノ平	城跡	中世			22	
1026	田口野第1遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代		2-30	21	
1027	田口野第2遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代				
1028	田口野第3遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代				
1029	荒立神社前遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代			21	
1030	宮尾野第1遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代			21	
1031	宮尾野第2遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代			21	
1032	宮尾野第3遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代			21	
1033	吾平原第1遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文～弥生時代			21	
1034	吾平原第2遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文～弥生時代			47	
1035	上原平遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文～弥生時代		2-15	2,8,15,16,22	
1036	尾迫原遺跡	大字三田井字尾迫原	散布地	縄文～弥生時代				
1037	陣内遺跡	大字三田井字車ノ迫	散布地	縄文～弥生時代		2-14	2,8,10,11,13,14,16,21,22,34	
1038	陣内第2遺跡	大字三田井字車ノ迫	散布地	縄文～弥生時代	650	2-11	2,8,10,22,34	
1039	田向遺跡	大字三田井字吾平	散布地	縄文～弥生時代		2-13	2,8,21,22	
1040	春芽遺跡	大字三田井字春芽	散布地	縄文～弥生時代				
1041	上阿床遺跡	大字三田井字上阿床	散布地	縄文時代				

表２　高千穂町遺跡詳細分布調査（三田井地区）遺跡地名表②

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号		文献	備考
					台帳	地図		
1042	下阿床遺跡	大字三田井字下阿床	散布地	縄文～弥生時代				
1043	塩市遺跡	大字三田井字塩市	散布地	縄文時代				
1044	池ノ川遺跡	大字三田井字池ノ川	散布地	縄文～弥生時代				
1045	梅ノ木谷遺跡	大字三田井字梅ノ木谷	散布地	縄文時代				
1046	宮ノ前第1遺跡	大字三田井字宮ノ前	散布地	縄文～弥生時代				
1047	宮ノ前第2遺跡	大字三田井字宮ノ前	集落	縄文～古墳時代			47,52,本書	
1048	柿ノ木水流遺跡	大字三田井字柿ノ木水流	散布地	縄文時代				
1049	長畑第1遺跡	大字三田井字長畑	散布地	縄文時代	1014		15,34	
1050	長畑第2遺跡	大字三田井字長畑	散布地	縄文時代				
1051	堂山遺跡	大字三田井字堂山	散布地	古墳時代				
1052	梅木遺跡	大字三田井字梅木	散布地、墳墓、銭出土地	縄文時代、中世	1118		8,16,22,34,43	
1053	西原遺跡	大字三田井字西原	散布地	縄文～弥生時代				
1054	大野原遺跡	大字三田井字大野原	散布地	縄文時代			2	
1055	古城遺跡	大字三田井字古城	集落	縄文～弥生時代			2,8,22,（平成10年度県調査）	
1056	亀山城跡	大字三田井字古城	城跡	中世	1016		8,22,34	
1057	禰宜ノ地遺跡	大字岩戸字禰宜ノ地	散布地、箱式石棺	縄文時代古墳時代				
1058	堂ノ元遺跡	大字三田井字陣内	散布地	縄文～弥生時代				
1059	今村遺跡	大字三田井字今村	散布地	縄文～古墳時代				
1060	松ノ原遺跡	大字三田井字松ノ原	散布地	縄文時代				
1061	長迫遺跡	大字三田井字長迫	散布地	縄文時代				
1062	尾谷遺跡	大字三田井字尾谷	散布地	縄文時代				
1063	梅ノ木原遺跡	大字三田井字梅ノ木原	散布地	縄文時代			2,8,22,40	
1064	尾久保第1遺跡	大字三田井字尾久保	散布地	縄文～弥生時代			8,22	
1065	尾久保第2遺跡	大字三田井字尾久保	散布地	縄文～弥生時代				
1066	桑水流遺跡	大字三田井字桑水流	散布地	弥生時代				
1067	栃又第1遺跡	大字三田井字栃又	散布地	縄文～弥生時代				
1068	栃又第2遺跡	大字三田井字栃又	散布地	縄文時代				
1069	馬門遺跡	大字三田井字馬門	散布地	縄文～弥生時代				
1070	長崎第１遺跡	大字三田井字長崎	散布地	縄文～古墳時代			8	

表３　高千穂町遺跡詳細分布調査（三田井地区）遺跡地名表③

1071	長崎第２遺跡	大字三田井字長崎	散布地	縄文～弥生時代			8	
1072	上原遺跡	大字三田井字上原	散布地、銭出土地	弥生時代、中世		2-33	8,10,16,21,22	
※	吾平遺跡	大字三田井字吾平	集石遺構・平地式住居	縄文時代			（平成7,9年度調査）	
※	古賀城	大字三田井字寺迫	城跡	中世			61,63	
※	車ノ迫陣内	大字三田井字車ノ迫	城跡	中世			61,63	
※	桑水流陣内	大字三田井字桑水流	城跡	中世			61,63	

押方地区　2001～2019

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号		文献	備考
					台帳	地図		
2001	押方横穴群	大字押方字南平	横穴	古墳時代		2-26	6,7,9,16,21,22,31,33,35	
	（号数）							
	52・53	大字押方字南平	横穴2					消滅
	58（=南平55-1）	大字押方字南平	横穴1				29	
※	南平55-2	大字押方字南平	横穴1				29	
	51	大字押方字南平	横穴1					消滅
	56・57	大字押方字南平	横穴2					
2002	辻平横穴群	大字押方字辻平	横穴	古墳時代			6,7,9,16,21,22,31,33,35	
	（号数）							
	49・50	大字押方字辻平	横穴2					消滅
2003	窓の瀬上遺跡	大字押方字東平	散布地	弥生時代			21	
2004	東平遺跡	大字押方字東平	散布地	縄文～古墳時代		2-27		
2005	北平遺跡	大字押方字北平	散布地	縄文～古墳時代				
2006	南平第1遺跡	大字押方字南平	散布地	縄文～古墳時代				
2007	南平第2遺跡	大字押方字南平	散布地	縄文～弥生時代		2-25	21	
2008	上押方本組遺跡	大字押方字辻平	散布地	縄文～古墳時代	653		8,13,16,21,22	
2009	尾崎遺跡	大字押方字尾崎・北平	散布地	縄文～弥生時代				
2010	宮野原遺跡	大字押方字宮野原	散布地	縄文～弥生時代		2-24		
2011	上押方第2遺跡	大字押方字本組	散布地	縄文～弥生時代	651		8,13,16,21,22	
2012	上押方第3遺跡	大字押方字本組・平野	散布地	縄文～弥生時代	652		8,13,16,21,22	
2013	押方長崎遺跡	大字押方字長崎	散布地	縄文時代				
2014	岩上遺跡	大字押方字岩上	散布地	縄文～弥生時代			8,13,22	
2015	河久保遺跡	大字押方字河久保	散布地	縄文時代				
2016	小渕遺跡	大字押方字小渕	散布地	縄文時代				

表４　高千穂町遺跡詳細分布調査（三田井地区）遺跡地名表④及び
高千穂町遺跡詳細分布調査（押方地区）遺跡地名表①

2017	柳原遺跡	大字押方字柳原	散布地	縄文～弥生時代				
2018	草津原遺跡	大字押方字草津原	散布地	縄文～弥生時代				
2019	二上遺跡	大字押方字二上	経塚	平安時代			3	嘉承２年銘
※	中野原遺跡	大字押方字中野原	落とし穴	縄文時代			（平成7年度県調査）	
※	南平第3遺跡	大字押方字南平	集落	縄文～弥生時代			（平成7年度県調査）	
※	南平第4遺跡	大字押方字南平	散布地	縄文時代			56,57	
※	片内山中遺跡	大字押方字片内	銭出土地	中世			46	
※	押方城跡	大字押方字東平・宮野平	城跡	中世			61,63	
※	太鼓原	大字押方字太鼓原	城跡	中世			61,63	
※	芝原囲	大字押方字芝原	城跡	中世			61,63	

向山地区　2001～2019

遺跡番号	名称	所在地	種別	時代	旧番号		文献	備考
					台帳	地図		
3001	高千穂54号墳	大字向山字大久保	横穴	古墳時代	107			
3002	稗ノ上遺跡	大字向山字の上	散布地	縄文～弥生時代			6,7,9,16,22,31,33,35	
3003	中山城跡	大字向山字中山	城跡	中世	904	2-31	22	
3004	椎屋平遺跡	大字向山字椎屋平	散布地	縄文～弥生時代				
3005	椎屋谷遺跡	大字向山字椎屋谷	散布地	縄文～弥生時代				
3006	下鶴遺跡	大字向山字下鶴	散布地	縄文～弥生時代				
3007	石原遺跡	大字向山字石原	散布地	縄文～弥生時代				
3008	水ヶ崎遺跡	大字向山字水ヶ崎	散布地	縄文～弥生時代		2-34	8	
3009	上ノ切遺跡	大字向山字上ノ切	散布地	縄文時代				
※	賀志原城	大字向山字中山	城跡	中世			61,63	
※	椎屋谷城（稲荷城）	大字向山字椎屋谷	城跡	中世			61,63	
※	黒仁田城	大字向山字黒仁田	城跡	中世			61,63	
※	谷城	大字向山字谷城	城跡	中世			61,63	
※	城ヶ崎	大字向山字城ヶ崎	城跡	中世			61,63	
※	上ノ切若狭屋敷	大字向山字猿迫	城跡	中世			61,63,64	

表５　高千穂町遺跡詳細分布調査（押方地区）遺跡地名表②及び
高千穂町遺跡詳細分布調査（向山地区）遺跡地名表

高千穂町関連文献目録

No.	編者	書名		発行年
1	川口武定	「従征日記」巻４		1878年
2	喜田貞吉	「日向国史　上巻」史談出版社		1929年
3	藤寺非宝	「高千穂特別記録文献資料」		1939年
4	石川恒太郎	「日向岩戸村の祭祀遺跡について」	（『考古学雑誌』第34巻第3号）	1944年
5	上代日向研究所	「日向上代遺跡遺物地名表」		1944年
6		「日向古墳地名表」	（『日向遺跡調査報告書』第１輯）	1952年
7	小手川善次郎	「西臼杵郡高千穂町古墳調査書」		1957年
8	田中熊雄	「宮崎県縄文弥生期考古遺物地名表」	（『宮崎県文化財調査報告書』第２輯）	1957年
9	柳宏吉	「横穴古墳（高千穂町）」	（『宮崎県文化財調査報告書』第３輯）	1958年
10	柳宏吉	「陣内縄文後・晩期遺跡（高千穂町）」	（『宮崎県文化財調査報告書』第４輯）	1958年
11	乙益重隆	「高千穂の先史文化」	（『高千穂阿蘇』）神道文化会	1960年
12	吉田章一郎	「高千穂の原史文化」	（『高千穂阿蘇』）神道文化会	1960年
13	宮崎県教育委員会	「陣内遺跡」	（『日向遺跡調査報告書』第２輯）	1962年
14	賀川光夫	「九州の縄文時代石刀・石剣（２）」	（『九州考古学』14）	1962年
15	浜田耕作・梅原末治	「三田井の遺跡」	（『宮崎県文化財調査報告書』第10集）	1965年
16	石川恒太郎	「宮崎県の考古学」吉川弘文館		1968年
17	石川恒太郎	「高千穂町吾平原横穴古墳調査報告」	（『宮崎県文化財調査報告書』第14集）	1969年
18	石川恒太郎	「西臼杵郡高千穂町横穴古墳調査書」	（『宮崎県文化財調査報告書』第16集）	1972年
19	石川恒太郎	「西臼杵郡高千穂町奥鶴の箱式石棺調査報告」	（『宮崎県文化財調査報告書』第16集）	1972年
20	石川恒太郎	「高千穂町田原染野平横穴古墳調査報告」	（『宮崎県文化財調査報告書』第16集）	1972年
21	沢皇臣	「宮崎県西臼杵郡高千穂町押方神社周辺の遺跡」	（『九州考古学』45）	1972年
22	高千穂町	「高千穂町史」		1973年
23	曽我部長良	「日向の横穴」		1975年
24	文化庁	「全国遺跡地図　宮崎県」		1977年
25	高千穂町教育委員会	「薄糸平遺跡」		1978年
26	北郷泰道	「薄糸平遺跡出土弥生式土器・再論」	（『宮崎考古』第４号）	1978年
27	石川恒太郎・内藤芳篤	「丸山石棺群発掘調査」	（『宮崎県文化財調査報告書』第21集）	1979年
28	石川恒太郎	「郷土史事典　宮崎県」昌文社		1980年
29	北郷泰道・田尻隆介	「南平横穴墓群発掘調査」	（『宮崎県文化財調査報告書』第23集）	1981年
30	本村豪章	「古墳時代の基礎研究稿―資料篇（１）―」	（『東京国立博物館紀要』第16号）	1981年
31	佐藤軍市	「古墳調査書」		不明
32	沢武人	「高千穂町上田原横穴古墳調査報告」	ガリ版刷	1979年
33	高千穂町教育委員会	「高千穂町横穴古墳調査台帳」		1974年
34	高千穂町教育委員会	「高千穂町埋蔵文化財包蔵地調査台帳」		1977年
35	高千穂町教育委員会	「高千穂町古墳管理台帳」		1980年
36	中村徳五郎	「日本開闢史」		1909年
37	北郷泰道	「祖母・傾山系山岳地域論序説」	（『考古学研究』第25巻第3号）	1978年
38	高千穂町教育委員会	「高千穂町遺跡詳細分布調査報告書（三田井・押方・向山地区）」		1983年
39	高千穂町教育委員会	「セベット遺跡」	高千穂町文化財調査報告書第３集	1984年
40	高千穂町教育委員会	「梅ノ木原遺跡」	高千穂町文化財調査報告書第４集	1985年
41	高千穂文化保存会	「梅木山長福寺」遺跡石塔群調査報告書	高千穂文化保存会調査報告書第１集	1986年
42	宮崎県総合博物館	「陣内第２遺跡・蓮ヶ池横穴墓群―遺物編―」	埋蔵文化財調査研究報告Ⅰ	1987年
43	高千穂文化保存会	「高千穂の石塔」	高千穂文化保存会調査（総輯編）	1989年
44	高千穂町教育委員会	「陣内遺跡・丸山石棺群・春姫登横穴墓」	高千穂町文化財調査報告書第８集	1989年
45	高千穂町教育委員会	「陣内遺跡保存整備報告書」	高千穂町文化財調査報告書第９集	1992年
46	甲斐畝常	「高千穂村々探訪」	川辺印刷所（自費出版）	1993年
47	宮崎県教育委員会	「吾平原第２遺跡・宮ノ前第２遺跡・城ノ平遺跡」		1993年
48	日高正晴	「古代日向の国」ＮＨＫブックス		1993年
49	富高則夫	「広野の灯―甲斐有雄翁伝―」		1995年
50	北郷泰道	「熊襲・隼人の原像」吉川弘文館		1995年

表６　高千穂町関連文献目録一覧表①

51	緒方俊輔	「故・有田正道氏コレクション―とくに漢式三翼銅鏃について―」	（『宮崎考古』第14号）	1995年
52	宮崎県教育委員会	「宮崎県文化財調査報告書第39集」		1995年
53	工藤寛	「平和の鐘」		1996年
54	宮崎県埋蔵文化財センター	「広木野遺跡・神殿遺跡A地区」	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第７集	1997年
55	宮崎県埋蔵文化財センター	「平成８年度埋蔵文化財発掘調査一覧」		1997年
56	宮崎県教育委員会	「宮崎県文化財調査報告書第41集」		1997年
57	宮崎県埋蔵文化財センター	「宮崎県埋蔵文化財センター年報」創刊号		1997年
58	金関恕・置田雅昭・Walter Edwards・Dean Goodman・桑原久男	「平成８年度　地下遺構探査の考古学的実践活用」宮崎県吾平原遺跡・西都原遺跡群での調査	「文部省科学研究費補助金重点領域研究『遺跡探査』第５回研究成果検討会議論文集」	1997年
59	藤原宏志・柳沢一男・武藤勲・佐々木章・宇田津徹郎	「宮崎：西都原および吾平原横穴墓の墓室におけるイネ科植物遺物」	「文部省科学研究費補助金重点領域研究『遺跡探査』第５回研究成果検討会議論文集」	1997年
60	和田俊・渡部徳子・木村茂・高橋和也	「遺構・遺物中の堆積物の化学分析による遺跡探査」	「文部省科学研究費補助金重点領域研究『遺跡探査』第５回研究成果検討会議論文集」	1997年
61	宮崎県教育委員会	「宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ（地名表・分布地図編）」		1998年
62	橋川敬子	研究ノート「ガラス玉からみた埋葬順序及び相対年代の試論」	（『宮崎考古』第16号）	1998年
63	緒方俊輔	高千穂町の中世城郭（前編）	（『南九州の城郭』第９号）	1998年
64	高千穂町教育委員会	国指定重要無形民俗文化財「高千穂の夜神楽」～秋元神楽保存会所蔵、神楽関係古文書資料集～	高千穂町文化財調査報告書第10集	1998年
65	梅原猛	「梅原猛、天皇家のふるさと日向をゆく」	（『芸術新潮』1999年1月号）	1999年

表７　高千穂町関連文献目録一覧表②

【旧石器時代】

高千穂町周辺での旧石器時代の遺跡としては、まず隣りの日之影町の出羽洞穴が上げられる。

出羽洞穴は、西臼杵郡日之影町大字見立字出羽の標高920mの位置に立地する。遺跡の発見は1964年（昭和39年）で、1965年（昭和40年）と1966年（昭和41年）に南九州短期大学・宮崎高等学校による発掘調査が行われた。調査の結果、第Ⅱ層と第Ⅲ層と第Ⅷ層に主要な遺物包含層が確認され、第Ⅱ層が縄文時代、第Ⅲ層が後期旧石器時代、第Ⅷ層が前期旧石器時代の遺物を検出した。

また、宮崎県教育委員会が国道218号線高千穂バイパス建設に伴い平成元年度に発掘調査を実施した西臼杵郡高千穂町大字三田井字宮ノ前所在の宮ノ前第２遺跡（第１次調査）からは、剥片尖頭器が弥生時代後期初頭～前葉の10号住居跡の埋土より出土した。この発見は、発掘調査による町内最初の旧石器時代の遺物の発見となった。

この他、高千穂高校郷土クラブ寄贈資料の中に「御子柴タイプの打製石斧」があるが、残念ながら町内出土というだけで町内のどこから出土したのかは不明である。

【縄文時代】

高千穂町内では、草創期の土器はまだ見つかっていない。

早期の押型文土器は、鈴木重治・賀川光夫編「陣内遺跡」（宮崎県教育委員会『日向遺跡総合調査報告第2輯』 1964 年）によると岩戸地区の岩戸五ヶ村遺跡の他、三田井地区の川登ヨガ堂・小河内・陣内車迫・上原平、押方地方の五ヶ村仮屋・下押方、田原地区の河内西、北萱場地区の薄糸平・小川内等が知られていた。また、 高千穂町教育委員会の「高千穂町遺跡群詳細分布調査報告書（三田井・押方・向山地区）」 1983年によると三田井地区尾谷遺跡(No.1062)で田村式、押方地区の東平遺跡(No.2004)で楕円押型文・山形押型文・田村式、岩上遺跡(No.2014)で楕円押型文が採集されている。

前期の土器は、陣内遺跡で出土しているが、中期の土器は、岩戸野方野神殿で阿高式系の破片が採集され、岩戸小学校郷土資料室に保管されているのみで、現在までのところ非常に少ない。

後・晩期の遺跡は数多く発見されている。三田井地区の浅ヶ部・陣内ダミチ・陣内車迫・御塩井・高千穂高校(No.1023)・高千穂小学校(No.1020)、押方地区の五ヶ村板屋・下押方等で立地の良い所にはすべて遺跡が形成されている。中でも有名なものとしては三田井地区の陣内遺跡(No.1037)があげられる。昭和31年７月に神道文化会の調査、昭和35年９月に宮崎県教育委員会の調査、昭和55年２月と平成３年９月に高千穂町教育委員会により発掘調査が実施された。乙益重隆氏は後・晩期の土器を６類に、鈴木重治氏は早期から晩期の土器を10類に分類された。遺物としては、土偶・石棒・石刀・石鏃等が出土しており、中でも土偶と石棒のセットでの出土は宮崎県内でも唯一の例である。縄文時代の集落は一般に同心円（バームクーヘン）状の構造をとると言われている。即ち、「村の中心にマツリや作業を行う聖なる広場があり、その周りに俗なる竪穴住居跡

が５～６棟程度あり、さらに周りの台地の落ちぎわがゴミ捨て場で、海が近いところでは貝塚として残る。」と言われ、陣内遺跡はちょうど台地の落ちぎわのゴミ捨て場にあたり、住居跡や広場は台地の上の陣内第２遺跡 (No.1038) に存在する可能性が大きいと考えられている。陣内第２遺跡は昭和42年７月に宮崎県教育委員会によって発掘調査が実施されたが、残念ながら遺構は検出していない。後期後半から晩期初頭の土器を岩永哲夫氏が９期（西平式Ⅰ～Ⅲ期、三万田式Ⅰ～Ⅳ、御領式、晩期初頭）に分類されている。住居跡としては三田井地区のセベット遺跡(No.1024) で晩期前半ころの竪穴住居１棟を検出している。長軸3.3m×短軸2.6mの楕円形プランで石棒片が出土している。発掘調査は昭和58年５～６月に高千穂町教育委員会が行った。なお、住居は実測図に基づき高千穂町総合運動公園内の高千穂町コミュニティセンター前庭に復元展示している。

【弥生時代】

弥生時代前期の遺跡は確認されていない。中期になると遺跡数が増え、土器の型式などから福岡・大分・熊本等との交流が確認される。沢皇臣氏によって資料紹介された上押方第３遺跡（Ｃ地点）(No.2012) からは、逆Ｌ字口縁の丹塗磨研の須玖式の甕や畿内・瀬戸内系の影響が考えられる脚部透孔の高坏等が採集されている。昭和52年発掘調査が行われた薄糸平遺跡では下城式・須玖式・黒髪式等を出土している。この他、明治26年に大字岩戸字阿蘇原の道路工事で発見され、現在、東京国立博物館に収蔵されている須玖式の壷と甕があるが、底部穿孔であるため墳墓供献の土器と考えられている。昭和63年調査の吾平原第２遺跡では遺構は無かったが沈線文土器を出土、宮ノ前第２遺跡（第１次調査）でも遺構に伴なうものでは無いが須玖式の鋤先口縁壷を出土している。

弥生時代後期の遺跡では、薄糸平遺跡・梅ノ木原遺跡(No.1063)・吾平原第２遺跡(No.1034)・宮ノ前第２遺跡(No.1047)・岩戸五ヶ村遺跡等で発掘調査を行っている。昭和52年に発掘調査が行われた薄糸平遺跡では、工字状突帯甕や免田式の壷等を出土している。昭和59年に発掘調査が行われた梅ノ木原遺跡では、長辺2.6m、短辺2.58mの方形プランの１号竪穴住居から工字状突帯甕を出土している。昭和63年調査の吾平原第２遺跡では遺構は無かったが、肥後系の甕と山岳地域に特徴的な尖底土器等を出土している。宮ノ前第２遺跡では、竪穴住居を後期初頭～前葉で３棟（９・10・12号）検出し、下城式・中溝式・工字状突帯甕・肥後型土器等を出土している。また、後期後葉～末葉では竪穴住居を４棟（５・６・13・14号）検出し、櫛描波状文を有する安国寺式の複合口縁壷等を出土している。岩戸五ヶ村遺跡（未発表資料）では後期前葉の竪穴住居を２棟（１・２号）検出し、畿内第Ⅳ様式の水差形土器に極似する把手付小型壷や工字状突帯甕等を出土している。畿内系の把手付小型壷は宮崎県内でも海岸線に近い佐土原町中溝遺跡で確認されているが、今回の発見でさらに分布の範囲が内陸に及ぶことがわかった。

この他の特記事項としては、採集資料のため時期不明ではあるが、三田井地区の浅ヶ部から宗桂三氏が採集したと伝えられる、現在天岩戸神社徴古館に展示の銅鏃があげられる。また、平成６年度に宮崎県教育委員会文化課が調査した神殿遺跡からは、弥生時

代後期の竪穴住居から中国後漢時代の「内行花文異体字銘帯昭明鏡」の破片が出土し、宮崎県内出土の弥生時代の青銅器の新例として重要である。宮崎県内において高千穂町が弥生時代の「北部九州からの文化の玄関」であったことを示すものである。

【古墳時代】

古墳時代の古墳としては前方後円墳２基、円墳24基、横穴93基、箱式石棺12基が確認されていると言われているが、前方後円墳については高千穂45号墳は自然丘であるとか、吾平山陵（高千穂11・12号墳）は２基並んだ円墳ではないかとも言われている。いずれにしても墳丘の測量調査等が行なわれていないため、このままでは科学的論拠に欠け、近い将来中に実測図の作成がのぞまれる。円墳についてもこれまでに調査がされていないため、中には中・近世の墳墓である可能性もあり、実体を知るためには将来の調査が期待されるところである。

古墳についてまとめたものとしては、①高千穂町教育委員会「高千穂町古墳管理台帳」昭和55年５月調査作成と②高千穂町教育委員会「高千穂町遺跡詳細分布調査報告書」（三田井・押方・向山地区）1983年などがある。①は旧町村ごと②は大字ごとに通し番号をつけ、②においても①の番号を基本的に踏襲している。ただし、「石棺」「横穴」「古墳」などの概念の使い分けが若干異なっている。また、一本木横穴や押方南谷55－1号横穴・55－2号横穴や丸山石棺群などで混乱が生じている。将来、「高千穂町遺跡詳細分布調査報告書」が三田井・押方・向山地区以外の地区でも刊行される際に、再整理する必要がある。

古墳時代の集落としては、宮ノ前第２遺跡（第１次調査）で古墳時代初頭の布留式土器を出土した２号住居、古墳時代後期の須恵器ⅢA期の１号住居、須恵器ⅢB期の４・11・15号住居、須恵器ⅣA期の３・７・８号住居と計８棟の竪穴住居を検出している。

【歴史時代】

歴史時代の遺跡では、二上遺跡(No.2019)があげられる。嘉承２年(1107)大観通寶と天喜２年(1054)至和通寶の古銭３枚と直径３寸２分の鏡と経文を納めた高さ１尺３寸８分の経筒を出土した記載が「高千穂特別記録文献資料」に残っているが現物は所在不明である。また、平成６年５月22日～９月23日にかけて宮崎県教育委員会文化課が調査した神殿遺跡からは、奈良時代の竪穴住居２軒が検出され、須恵器や土師器などを出土している。この他、昭和61年に高千穂文化保存会によって復元作業が行われた「梅木山長福寺」遺跡の石塔群からは五輪塔83基、宝塔17基、宝筐印塔４基、六地蔵塔１基（全高2.89m郡内最大）、板碑５基、合計110基を確認している。また、「梅木山長福寺」遺跡からは昭和40年に宋銭を中心とした備蓄銭1307枚が壷に入って発見された。さらに三田井の上原遺跡からも備蓄銭が備前焼壷に入って発見され、現在高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）に展示されている。この他、押方の片内山中遺跡、片内五輪の森遺跡からも備蓄銭が発見され、甲斐畝常著「高千穂の村々」P68に紹介されている。

また河内の戸谷山中遺跡からも鳩目銭（鐚銭）の備蓄銭が発見されている。

中世城郭としては、旧・高千穂郷の高千穂町・日之影町・五ヶ瀬町・諸塚村に分布する「高千穂４８塁」が知られている。郷土史家西川功氏等の比定によるもので、山の頂や尾根を中心にプロットされているが、「堀」や「土塁」や「曲輪」等の遺構の確認（いわゆる「縄張り図」の作成作業）はまだこれからである。現在、宮崎県教育委員会によって平成５年度から５ヶ年計画で宮崎県内の城郭の調査が進められており、その成果が期待されている。

また、平成５年度に町内の仏像調査を行い、大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館の美術史の渡辺文雄氏に鑑定していただいたところ、三田井神宮寺の仏像に平安仏があり、また、岩戸立宿の薬師如来が鎌倉仏であることが判明した。今後、周辺で寺院の発見される可能性があり、将来の調査が期待される。

中近世の石造物については、高千穂文化保存会による集成が行なわれており、簡単な略図と寸法のスケッチがされている。今後、実測図作成作業が望まれる。

町内には近世の古文書や仏像等でまだ詳細が知られていない資料が多く、これらの調査も急がねばならない。

幕末から明治にかけて活躍した、熊本県阿蘇郡高森町出身の石工で社会福祉家で文学者の甲斐有雄翁は、生涯に数多くの道標や神・仏像や神面などの彫刻や歌を残し、その活動範囲も熊本・宮崎・大分の三県にもまたがっている。現在、河内在住の郷土史家、冨高則夫氏によって調査研究が進められている。

この他、明治時代では西南戦争の官軍墓地や小坂峠古戦場などが知られ、大正～昭和時代では亜砒酸鉱害で全国的に有名な土呂久鉱山が知られており、地球環境の学習においても重要な遺跡である。昭和時代では昭和２０年８月に相次いで墜落した「隼」と「Ｂ－２９」の墜落現場と機体の残骸は、戦争を知らない世代へ平和の尊さを語る資料として重要である。また、旧・国鉄時代の高千穂新線建設の橋梁・トンネル群も未完成のまま撤去が進められその一部を残し「夢見路公園」という名前の公園として残したり、トンネル自体を地場産業である焼酎の会社に長期貯蔵樽の保管倉庫として貸出したりしているが、悲しくも過疎化問題を象徴している。

【参考文献】

①高千穂町教育委員会「高千穂町遺跡詳細分布調査報告書（三田井・押方・向山地区）」1983年

②宮崎県教育委員会「国道218号線高千穂バイパス建設関係発掘調査報告書吾平原第２遺跡・宮ノ前第２遺跡・城ノ平遺跡」1993年

③高千穂町教育委員会「梅ノ木原遺跡―県道緒方・高千穂線特殊改良工事に伴なう発掘調査報告書―」高千穂町文化財調査報告書第4集1985年

④高千穂町教育委員会・日本鉄道建設公団下関支社「薄糸平遺跡」国鉄高千穂線建設埋蔵文化財発掘調査報告1978年

⑤宮崎県埋蔵文化財センター「広木野遺跡・神殿遺跡Ａ地区　県立学校運動場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」宮崎県埋蔵文化財調査報告書第７集1997年
⑥高千穂町教育委員会「陣内遺跡・丸山石棺群・春姫登横穴墓」高千穂町文化財調査報告書第8集1989年
⑦高千穂町教育委員会「陣内遺跡保存整備報告書」高千穂町文化財調査報告書第９集1992年
⑧高千穂文化保存会「梅木山長福寺遺跡石塔群調査報告書」高千穂文化保存会調査報告書第１集1986年
⑨高千穂文化保存会「高千穂の石塔」高千穂文化保存会調査（総輯編）1989年
⑩土呂久を記録する会「記録・土呂久」本田企画1993年
⑪冨高則夫「広野の灯―甲斐有雄翁伝―」1995年
⑫工藤寛著、平和祈念碑建設実行委員会編「平和の鐘」1996年

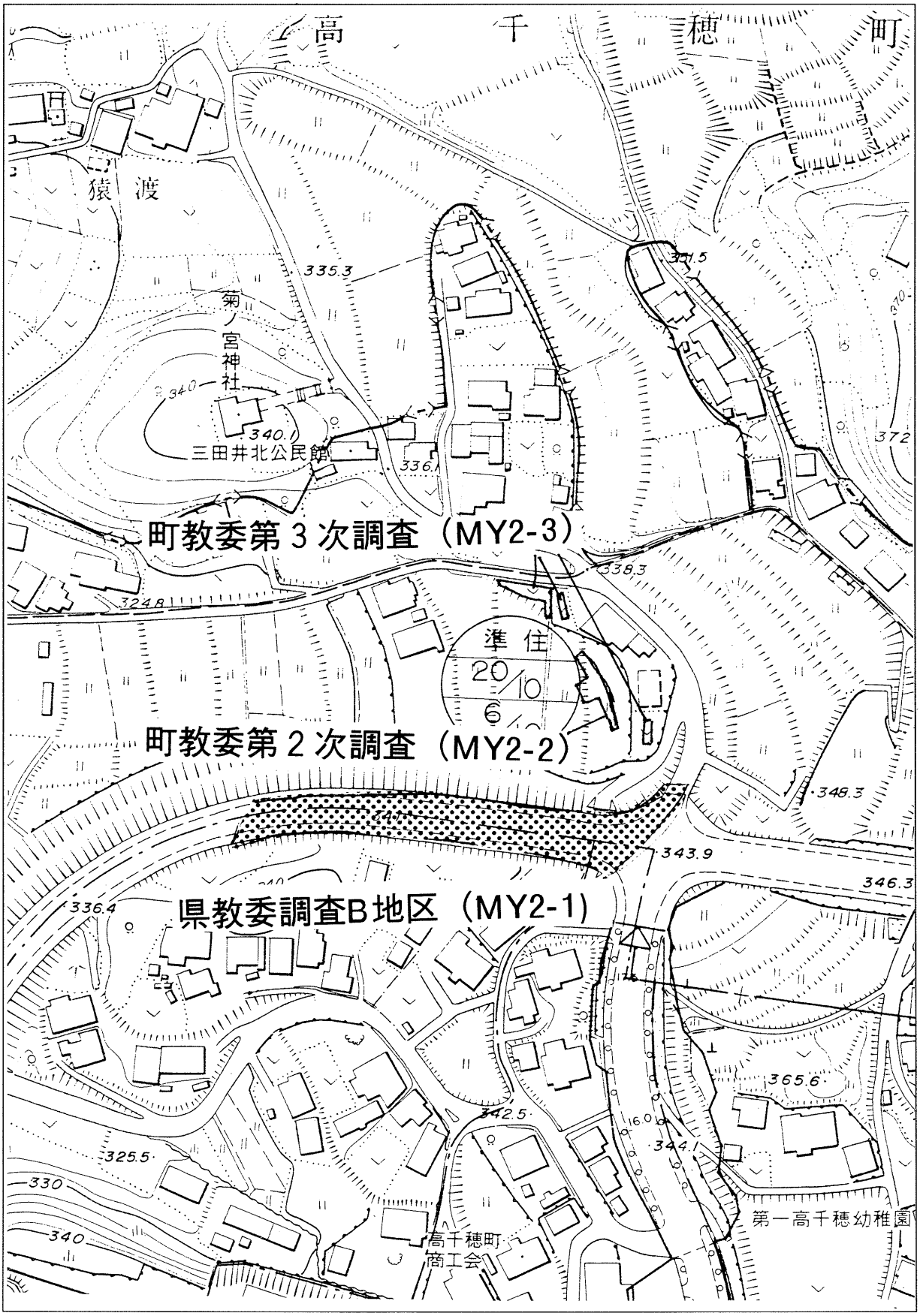
Ⅲ．遺跡の概要

宮ノ前第２遺跡は、宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井字宮ノ前に所在する縄文・弥生・古墳時代の遺跡である。高千穂町教育委員会の「高千穂町遺跡詳細分布調査報告書（三田井・押方・向山地区）」1983年によるとNo.1047の縄文～弥生時代の遺物散布地として登録されている。その後、平成元年４月24日～平成２年３月30日の間、宮崎県教育委員会により国道218号線高千穂バイパス建設に先立って発掘調査が行われ、縄文時代の遺物包含層と弥生～古墳時代の竪穴住居跡15軒が発見されている。これを第１次調査と呼ぶこととし、今回の町道猿渡線の道路改良工事の平成５年度工区の調査については第２次調査と呼ぶこととした。

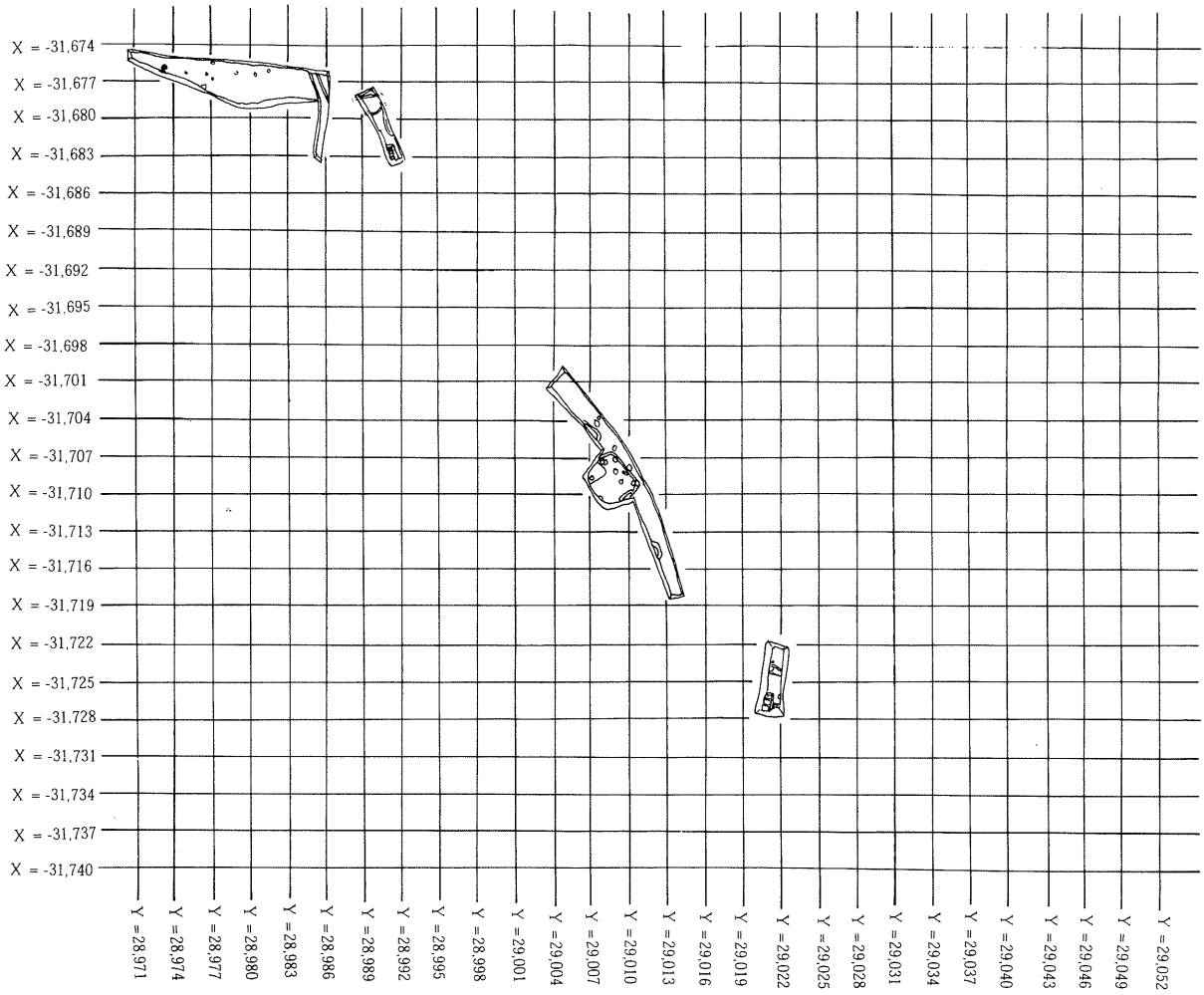
Ⅳ．調査の経過

ユンボによる表土除去後、人手による遺構確認を行い、一部に竪穴住居の可能性のある１辺３．５ｍ程の方形の遺構が確認されたため、再度ユンボでその部分を拡張した。残念ながら、用地買収の関係で竪穴住居跡１軒全てを検出することはできなかった。土層確認のために十字形にセクションを残し、掘り下げたところ、西北隅を除いて比較的浅く5cmほどで床面が検出された。後世の削平をかなり受けたものと考えられる。土層観察後、ピットの確認を行なった。約15個ほど確認され、それぞれ半裁し、柱痕の確認を行なった。写真および実測図による記録を取った後、埋め戻し、後日、町道猿渡線道路改良工事の平成５年度工区としてブロック擁壁が建設された。

Ⅴ．調査の結果



第２図　宮ノ前第２遺跡周辺地形図（縮尺＝１／２,５００）



第３図　宮ノ前第２遺跡第２次調査・第３次調査調査区配置図
（縮尺＝１／８００）

（1）基本土層

水田耕作土である暗灰色土（=①）と、床土で鉄分やマンガンの沈着層である茶褐色土（=②）を除去すると、地山である明黄茶色土（=⑩）があり、この面から遺構が確認された。遺構の埋土は暗茶灰色（=③）で、比較的、地山とも区別がつきやすい色であった。遺構検出面までの遺物包含層を「黒色土」と名付け、遺物を取り上げた。

第５図の中に③～⑩の記号があるが、③は暗茶灰土（遺構の埋土）、④は暗黒褐土（ピットａ・ｆ・ｋの柱穴の柱痕）、⑤は灰褐土（ピットａ・ｆ・ｋの柱穴の裏込め、ピットｂ・ｃ・ｌの埋土）、⑥は（ピットｊの柱穴の柱痕）、⑦は黄色ブロックを多く含む暗茶灰土（竪穴住居跡MY2-2SC01の北西隅の段落ち）、⑧は暗褐灰土（ピットｊの柱穴の裏込め、ピットｅ・ｇ・ｉの埋土、ピットｈの下層）、⑨は暗茶灰土（ピットｄの埋土）、⑩は明黄茶色土（地山）である。

（2）遺構

竪穴住居跡１軒、土壙２基、ピット群などを検出した。

竪穴住居跡（MY2-2SC01）

調査区の土地買収の都合から、住居跡の全てを調査することができなかったが、一辺が４ｍ×3.2＋αｍの隅丸方形の竪穴住居跡である。後世の耕作等による削平のため深さは１０cmほどしか残っていなかった。北西部は一段下がるが、明瞭な段ではなく、自然に下がる状況であったので、別の遺構があるというよりは、斜面を埋めてならした状況であった。ピットａ～ｄが主柱穴となる４本柱の住居跡である。

土壙（MY2-2SK02）

竪穴住居跡（MY2-2SC01）の北側に位置する。調査区の都合で、全てを調査できなかったが、長辺2.2＋αｍ×短辺0.75ｍの楕円形の土壙である。深さは約40ｃｍを計る。古墳時代後期の土師器が出土した。

土壙（MY2-2SK03）

竪穴住居跡（MY2-2SC01）の南側に位置する。調査区の都合で、全てを調査できなかったが、長辺1.6ｍ×短辺0.6＋αｍの隅丸方形の土壙である。深さは約20ｃｍを計る。奈良時代の製塩土器を出土した。

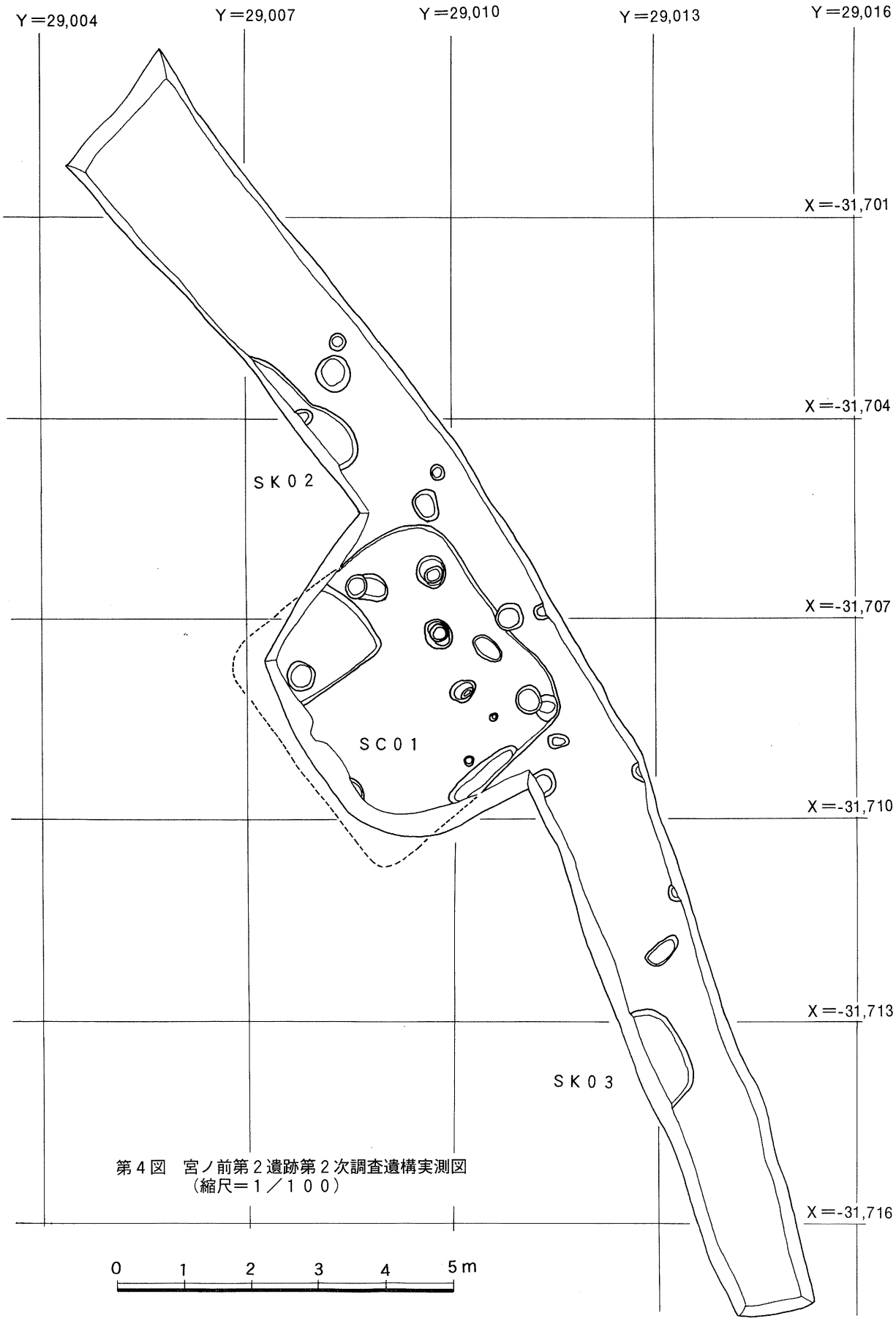
（3）遺物

土器

黒色土出土の土器（第６図・表１２～１３・図版４～５）

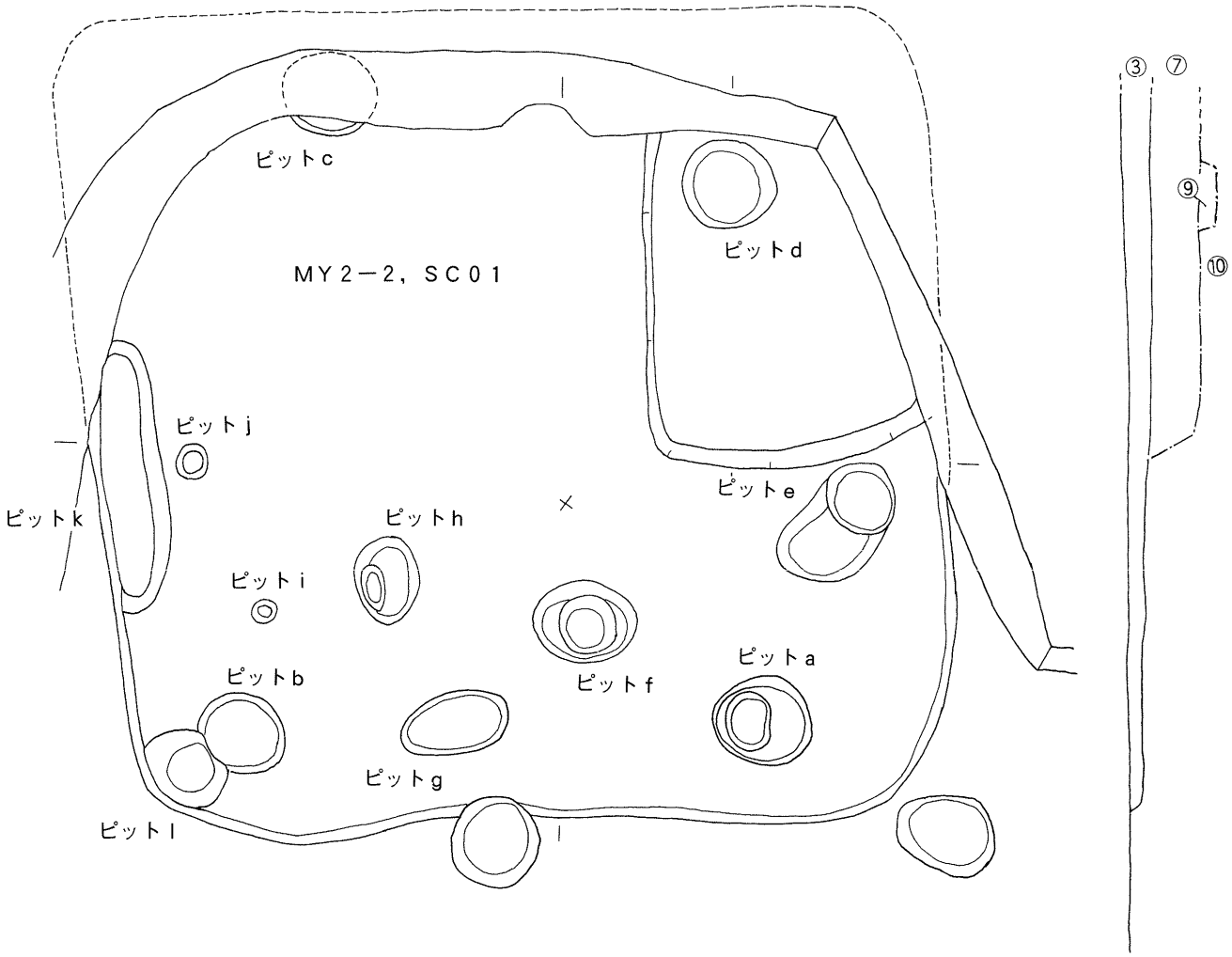
縄文土器（１～３，６，８～１１）

全て器形は深鉢である。小さい破片で直径がわかるものは全くない。１は、直に立つ口縁部の破片である。２～３・８～１０は直に立つ胴部の破片、６は斜めに立つ胴部の破片で底部に近い部分である。１１は平底の底部の破片である。調整はナデやヨコナデのみで、施紋は見られない。

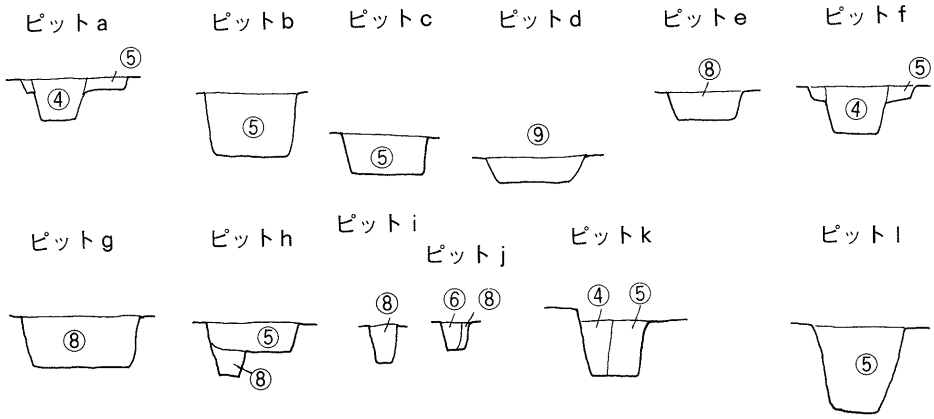


第４図　宮ノ前第２遺跡第２次調査遺構実測図
（縮尺＝１／１００）

1点破線はC－C’の土層断面図。

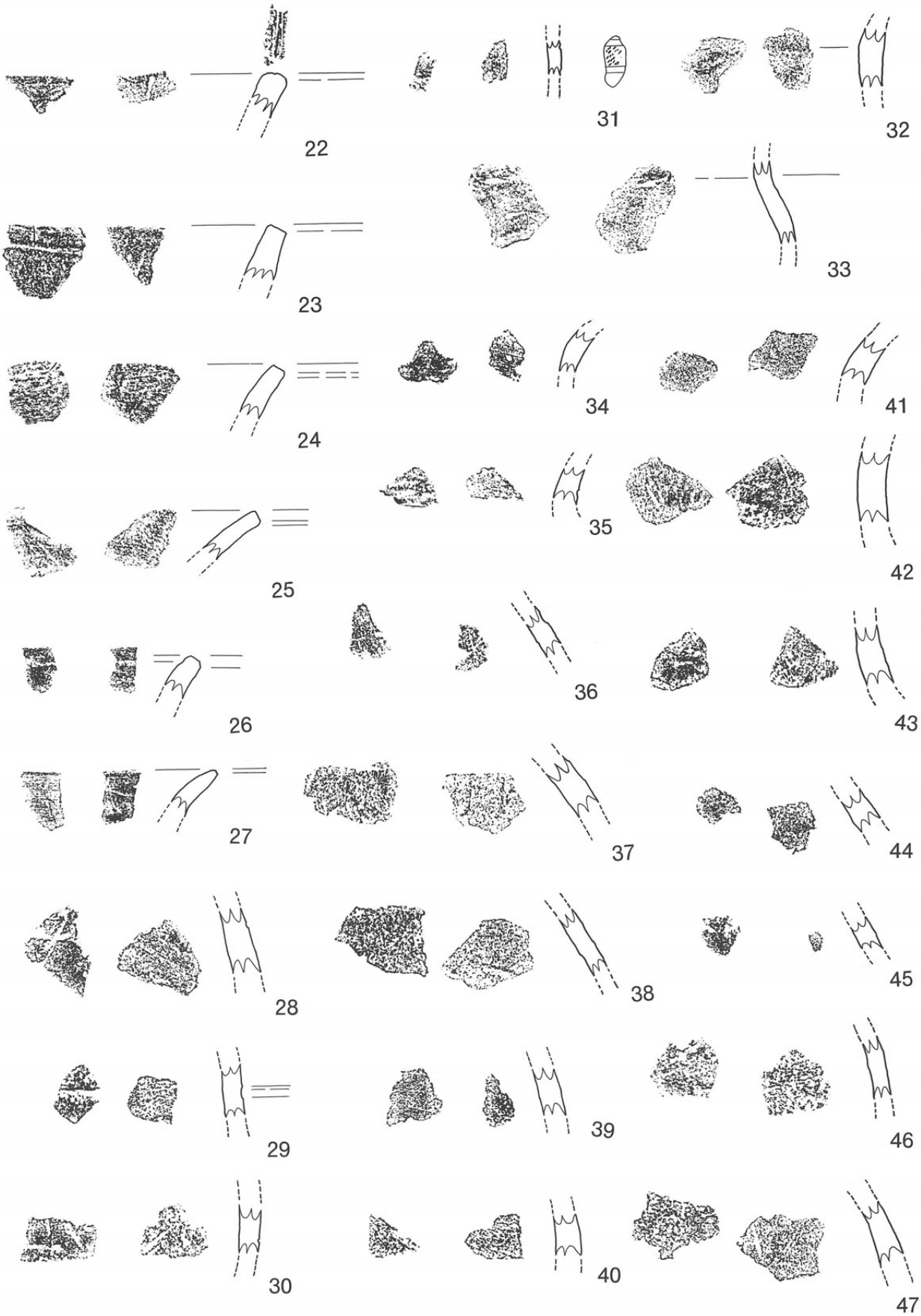


ピットa～kは東北から見た土層図。ピットlは南西から見た土層図。



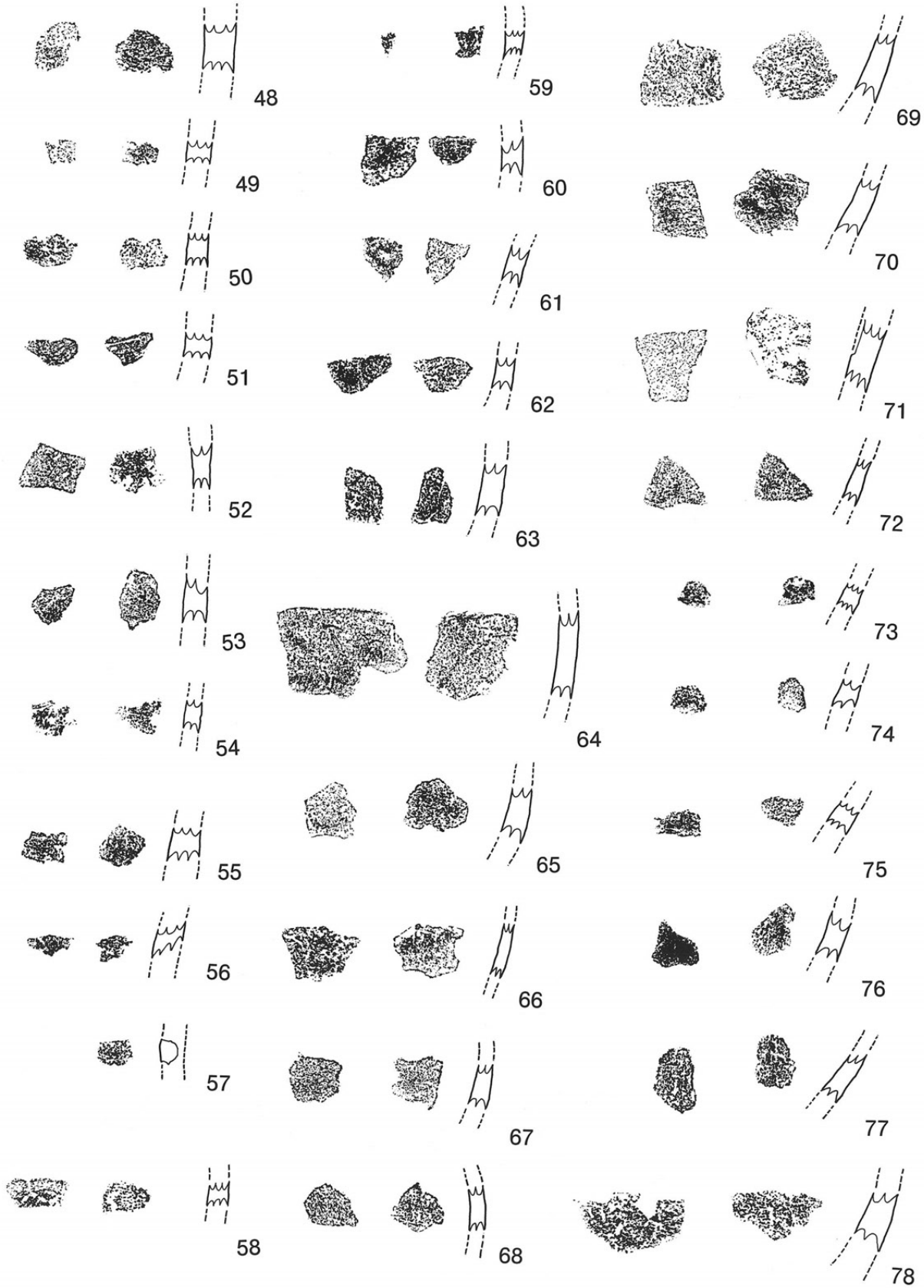
第5図　宮ノ前第2遺跡第2次調査ＳＣ０１実測図
及びピット土層断面図（縮尺＝１／４０）

第６図　宮ノ前第２遺跡第２次調査黒色土出土土器実測図
（縮尺＝１／３）



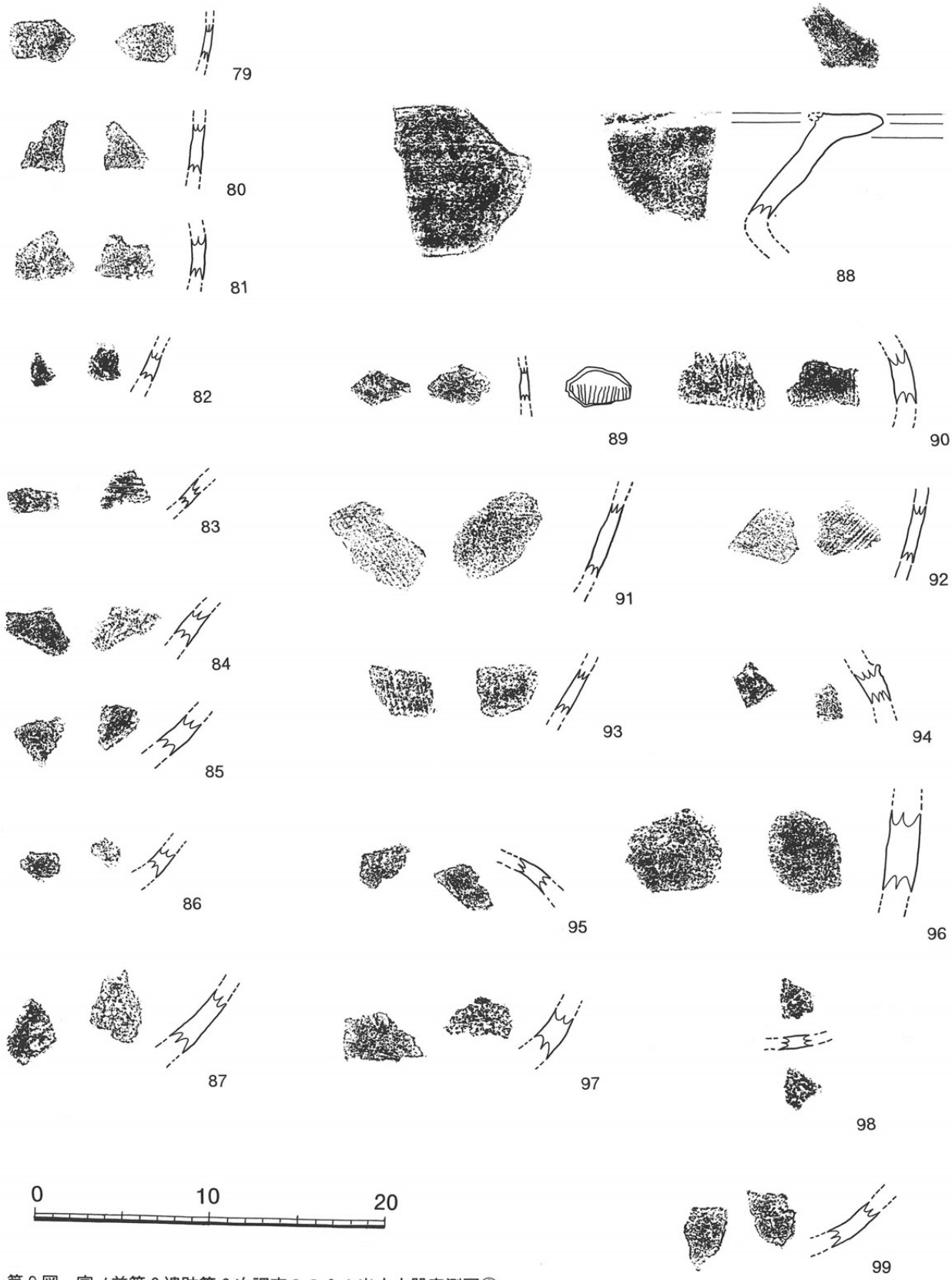
第７図　宮ノ前第２遺跡第２次調査ＳＣ０１出土土器実測図①
（縮尺＝１／３）

0　10　20

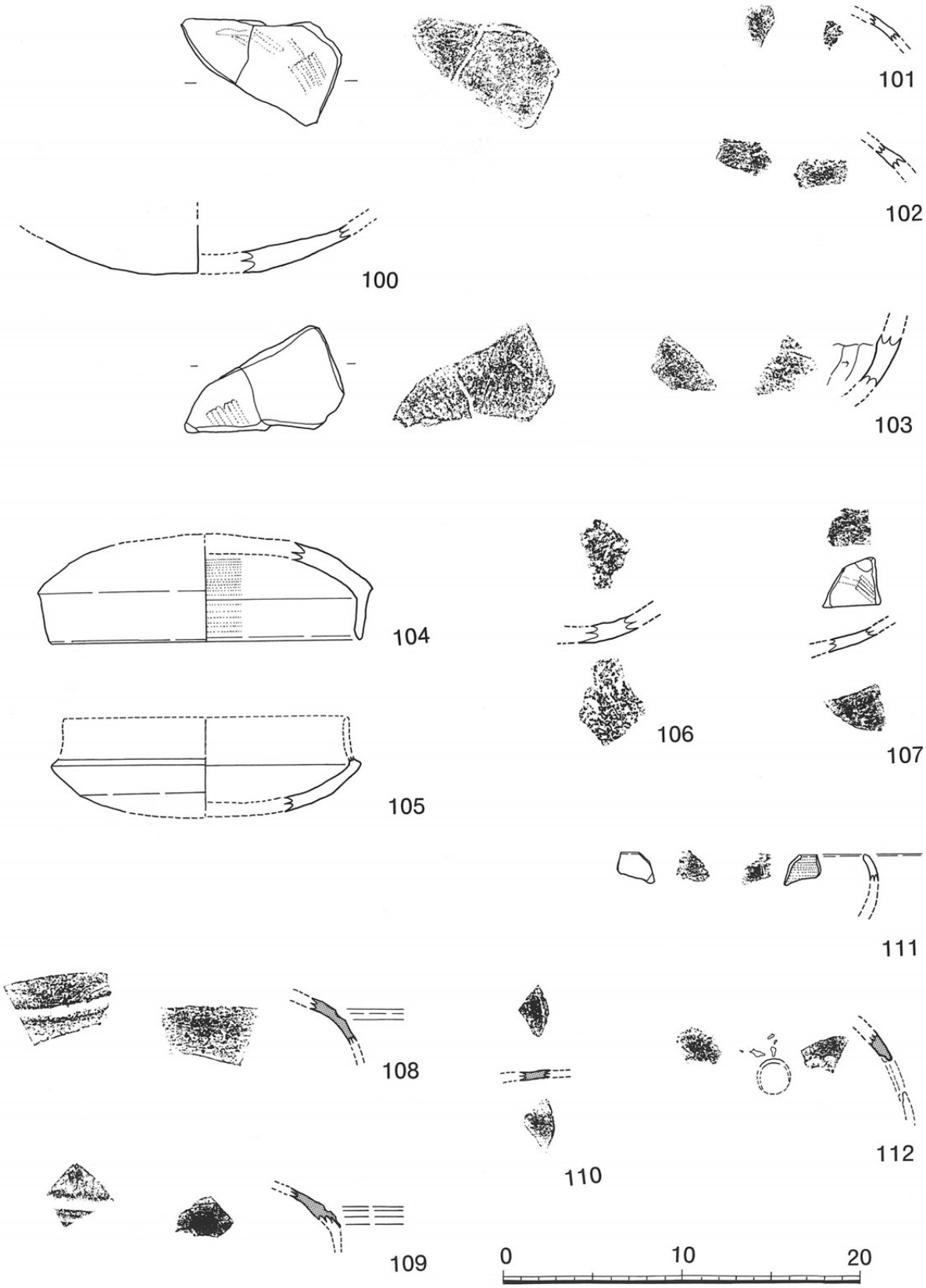


第８図　宮ノ前第２遺跡第２次調査ＳＣ０１出土土器実測図②
（縮尺＝１／３）

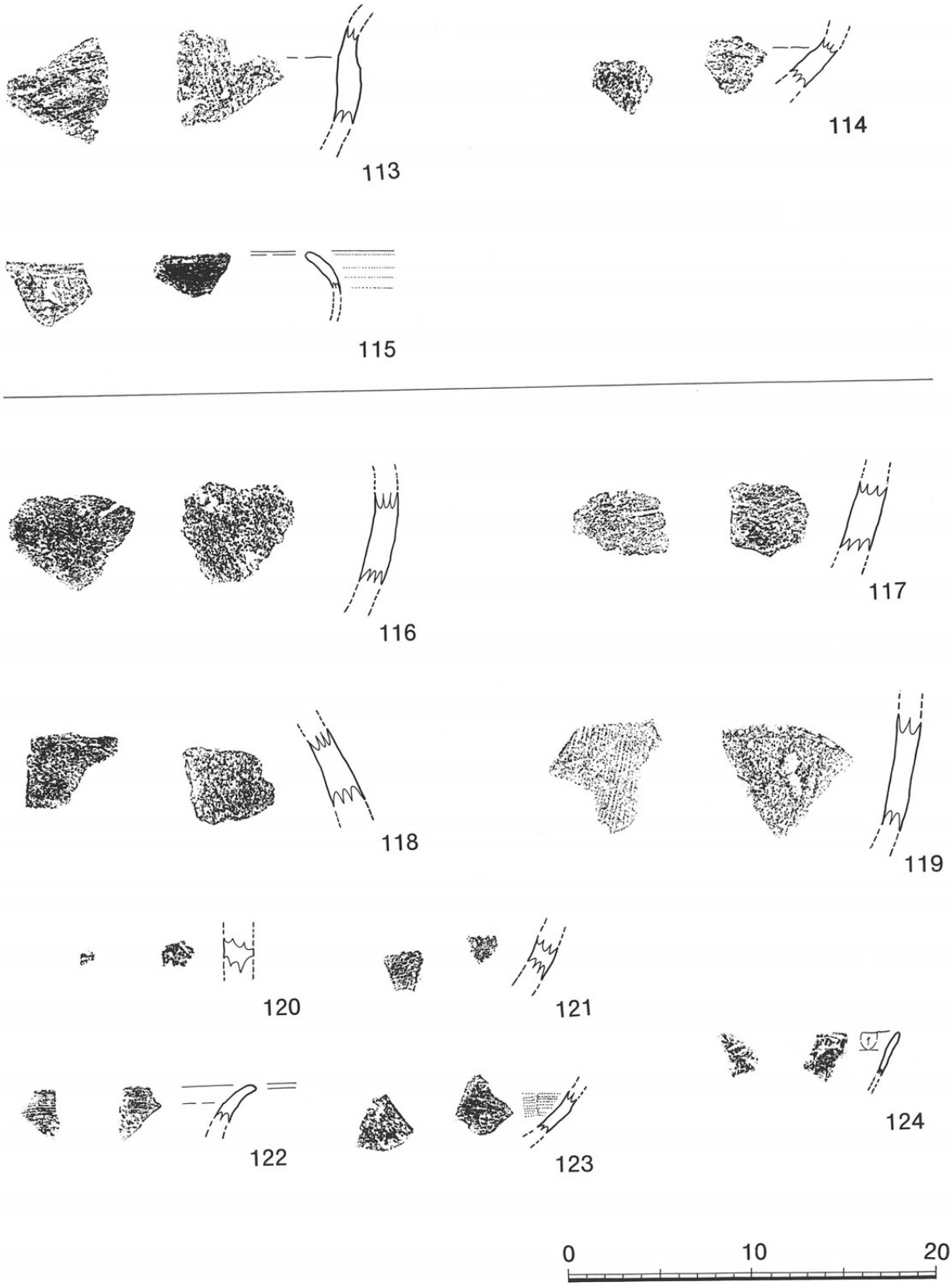
0　10　20



第９図　宮ノ前第２遺跡第２次調査ＳＣ０１出土土器実測図③
（縮尺＝１／３）



第１０図　宮ノ前第２遺跡第２次調査ＳＣ０１出土土器実測図④
（縮尺＝１／３）



第１１図　宮ノ前第２遺跡第２次調査ＳＫ０２及びＳＫ０３
出土土器実測図（縮尺＝１／３）

弥生土器（４，７，１３～１４）

器形は、４と７が壷または甕、１３と１４が甕である。調整は、１３と１４の外面にハケ目が見られる。

土師器（１５・１６）

１５は須恵器の坏蓋を模して作った土師器の坏蓋の肩部の破片である。外面の段より上部にミガキが残る。１６は椀の口縁部の破片で内外面ともミガキが残る。

須恵器（１７～２０）

１７は坏身の口縁の立ち上がり部分の破片である。１８は坏蓋または坏身の破片で、外面に回転ヘラケズリが残る。１９は奈良時代の坏蓋の口縁部の破片でもある。２０は甕の胴部の破片で、調整は内外面ともヨコナデである。

近世陶磁器（２１）

２１はオリーブ灰色の釉がかかる碗の底部の破片で、高台が付く。内底面に象眼による花紋が描かれる。

MY2-2SC01出土の土器（第７～１０図・表１３～２０・図版６～１１）

ピット内の遺物については、後で述べる。

縄文土器（２２～２４，３１，３２，３４，３５，４１～４３，４８～５１，５３，５４，６７）

３１の浅鉢以外は、器形は深鉢である。小さい破片で直径がわかるものは全くない。２２～２４は口縁部の破片でやや外側に開く。３１は「西平式」の浅鉢で、２本の凹線の間に単節縄文を残す。３４・３５・４１～４３は頸部に近い胴部の破片、４８～５１・５３・５４・６７胴部の破片である。

弥生土器（２５，２８～３０，３６～４０，４４～４７，５２，５５～６６，６８～９５）

２５は甕の口縁の破片、３６～３８・４４～４５は甕の胴部の肩に近い破片、５５は甕の胴部の破片、６９は甕の胴部の下に近い破片、９４は甕の頸部突帯の破片である。８８は鋤先口縁の「須玖式」の壷である。　その他の２８～３０・４６～４７・５２・５６～６６・６８～８７・８９～９５は甕か壷の胴部の破片である。このうち、２９に凹線が巡り、８９～９３に外面にハケ目、９２には内面にもハケ目が見られる。

土師器（２６～２７，３３，９６～１０７）

２６～２７は甕の口縁部である。３３は甕の頸部である。９６～９７は甕の胴部である。１０６は壷の底部、１０１は壷の胴部である。９９と１０３は甕または壷の底部、１０２は甕または壷の胴部である。９８と１０５は坏身、１０４は坏蓋である。１０７は坏蓋または坏身の底部でミガキが残る。１００は高坏の坏部の可能性が強い。１０４と１０５は、直径が復原可能で、それらの大きさから判断して一対のセットである。

須恵器（１０８～１１０，１１２）

１０８と１０９は坏蓋、１１０は坏蓋または坏身、１１２は「はそう」の穴の部分の

破片である。

MY2-2SC01ピット内出土の土器（第１２図・表２３・図版１１）
弥生土器（１２５～１２８）
いずれも甕の胴部の破片である。１２５のみ外面にハケ目がある。
土師器（１２９～１３２）
いずれも甕の胴部の破片である。

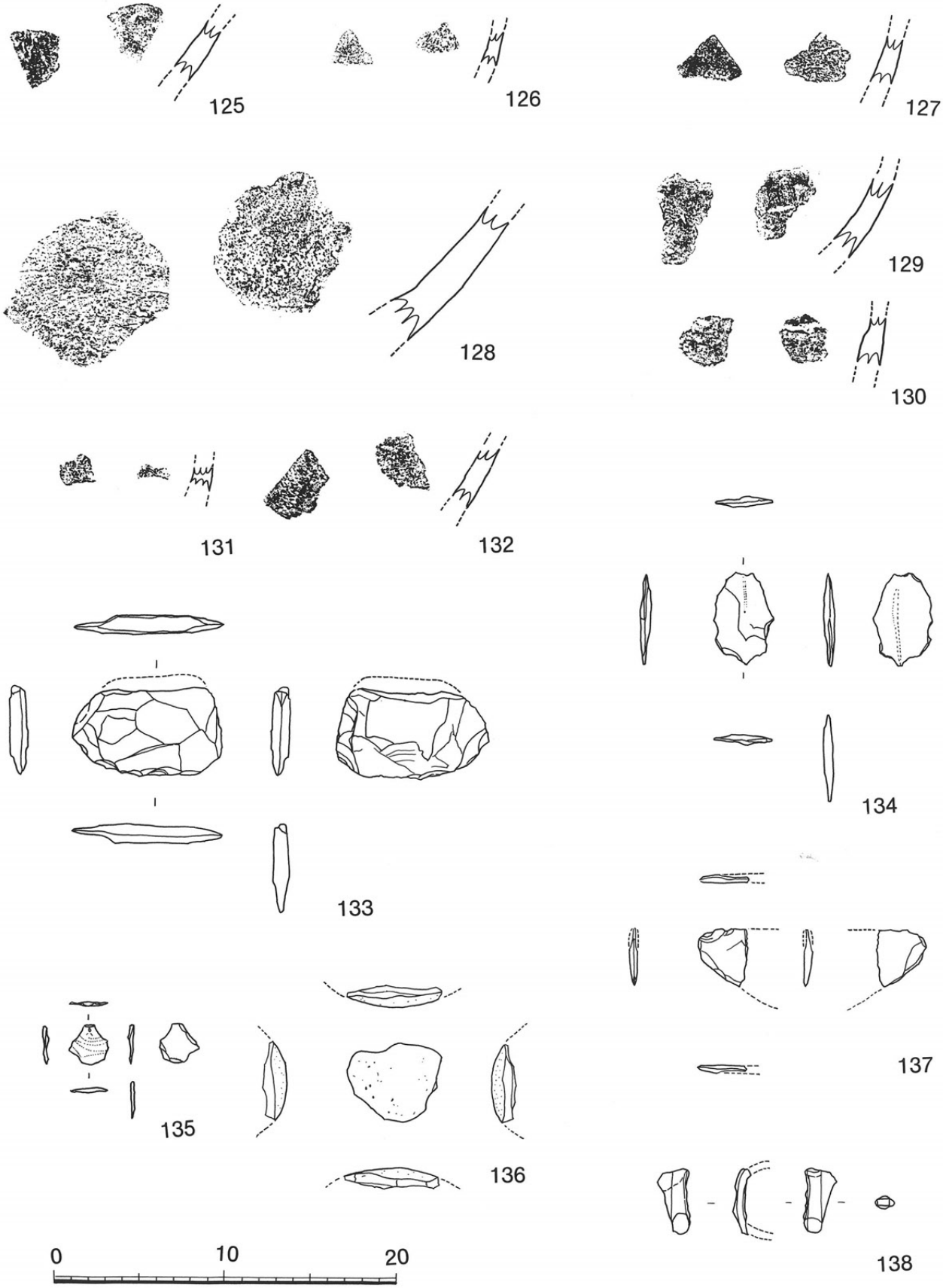
MY2-2SK02出土の土器（第１１図・表２２・図版１２）
縄文土器（１１３～１１４）
いずれも深鉢の胴部の破片である。
土師器（１１５）
椀の口縁の破片で内外面にミガキがある。

MY2-2SK03出土の土器（第１１図・表２２・図版１２・１３）
縄文土器（１２０・１２１）
いずれも深鉢の胴部の破片である。
弥生土器（１１６・１１９）
いずれも甕の胴部の破片である。１１９は外面にハケ目を施す。
土師器（１１７・１１８・１１２・１１３）
１１７と１１８甕の胴部の破片である。１１２は小型の壷の口縁の破片である。
１２３は椀の破片で内面にミガキが残る。
製塩土器（１２４）
１２４は、焼塩壷、森田勉氏の分類のⅡａ類の破片で内面に布痕がある。

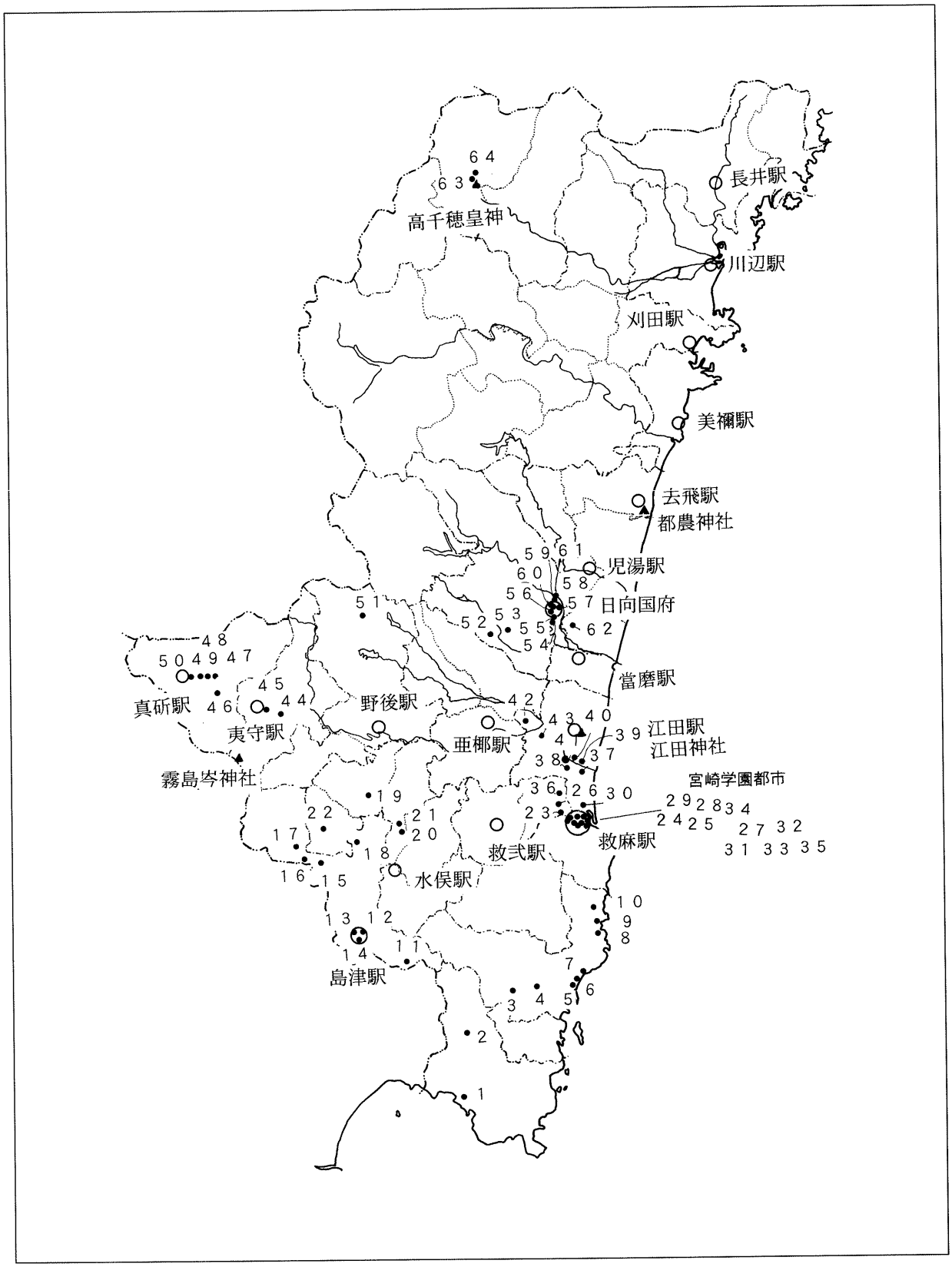
石器
黒色土出土の石器（第１２図・表２３・図版１２）
石器（１３３）
１３３は、粘板岩製の石包丁状石器の破片である。

MY2-2SC01出土の石器（第１２図・表２３～２４・図版１３）
石器（１３４）
１３４は砂岩製の磨製石鏃の未製品、１３６は花崗岩製の磨製の刷石、１３７は粘板岩製の磨製の石包丁の破片である。

MY2-2SC01ピット内出土の石器（第１２図・表２３～２４・図版１３）



第１２図　宮ノ前第２遺跡第２次調査ＳＣ０１ピット出土土器実測図
及び宮ノ前第２遺跡第２次調査石器・金属器・獣骨
（縮尺＝１／３）



第１３図　宮崎県下の焼塩壷出土遺跡分布地図
（縮尺＝１／５９０，０００）

地図	遺跡名	所在地	参考文献
1	下弓田遺跡	串間市南方下弓田	1、36
2	猪之椪遺跡	串間市奈留字猪之椪	36
3	川辺ヶ野遺跡	日南市大字吉野方字川辺ヶ野	2
4	談義所遺跡	日南市大字今町字広木田	2
5	駒宮遺跡	日南市大字平山字別府	2
6	狐塚古墳	日南市大字風田字万ヶ迫	3、4
7	万ヶ迫遺跡	日南市大字風田字弓場元	2
8	宮浦前田遺跡	日南市大字宮浦字前田	2
9	小目井遺跡	日南市大字富士字前田	2
10	本源寺遺跡	日南市大字伊比井字矢引迫　他	2
11	下尾平野第３遺跡	都城市安久町字下尾平野	5、36
12	楠畑遺跡	都城市梅北町字神応寺山王、楠畑、鳥谷、山崎、樅ノ元、湯谷前、早馬ヶ迫	5
13	中床丸遺跡	都城市梅北町字坐主分、川内、大ノ束、松迫、中床丸	5
14	笹ヶ崎遺跡	都城市梅北町字笹ヶ崎、本高樋、大岩田、菖蒲谷	5
15	上ノ段第２遺跡	都城市関之尾町字上ノ段	6
16	切畑第２遺跡	都城市美川町字切畑	6
17	上ノ園第２遺跡	都城市早鈴町1841番１　他	7、36
18	上大五郎遺跡	都城市丸谷町字上大五郎	36
19	下原遺跡	北諸県郡高崎町東霧島字下原	36
20	永山原遺跡	北諸県郡高城町大字大井手字小杉3345番地　他	8、36
21	城ヶ尾遺跡	北諸県郡高城町大字石山字城ヶ尾	9、36
22	中村遺跡	北諸県郡山田町字下川窪	36
23	辻遺跡	宮崎郡清武町字辻730番　外	10、36
24	赤坂（７号地）遺跡	宮崎郡清武町木原字赤坂	11、36
25	入料（５号地）遺跡	宮崎郡清武町木原字入料	12、13、36
26	小原遺跡	宮崎郡清武町今泉字小原	36
27	小山尻遺跡	宮崎郡清武町木原字小山尻	36
28	浦田遺跡	宮崎郡清武町木原字浦田	36
29	下田畑遺跡	宮崎郡清武町木原字下田畑	36
30	市位遺跡	宮崎市大字本郷南方字市位	38
31	平畑（10号地）遺跡	宮崎市大字熊野字平畑	13、36
32	前原南（19号地）遺跡	宮崎市大字熊野字前原8542番地　外	14、15、36
33	陣ノ内遺跡	宮崎市大字熊野字陣ノ内9288番地　外	15、16、36
34	西ノ原遺跡	宮崎市大字熊野字西ノ原	17、36
35	平田遺跡	宮崎市大字郡司分字平田	18
36	源藤遺跡	宮崎市源藤町源藤	19、36
37	浄土江遺跡	宮崎市浄土町108番地　外	20、36
38	余り田遺跡	宮崎市大字浮田字余り田	21
39	船塚遺跡	宮崎市船塚三丁目	36
40	江田原第１遺跡	宮崎市吉村町字江田原	36
41	内野々第１遺跡	宮崎市北川内町字内野々	36
42	蕨野遺跡	東諸県郡高岡町高浜	22、36
43	餅田遺跡	東諸県郡高岡町五町字餅田	36

表８　宮崎県下焼塩壷出土遺跡一覧表①

44	竹山遺跡	小林市大字細野字竹山	23、36
45	こまくりげ遺跡	小林市大字細野	23、36
46	妙見原遺跡	えびの市大字原田字妙見原	24、36
47	法光寺遺跡	えびの市大字今西字永田原	25、26、36
48	蔵元遺跡	えびの市	26
49	永田原遺跡	えびの市大字今西字永田原	27、28、36
50	平原遺跡	えびの市東川北字平原	36
51	田代ヶ八重遺跡	西諸県郡須木村大字中原字田代八重	29
52	高三納遺跡	西都市大字三納字高三納	30、36
53	鴨目原遺跡	西都市大字三納字鴨目	31、36
54	上尾筋遺跡	西都市三宅尾筋東上	36
55	下尾筋遺跡（日向国分寺跡）	西都市三宅尾筋西下	1、36
56	諏訪遺跡（日向国分尼寺跡）	西都市大字右松2330番地	32、33、36
57	上妻遺跡	西都市大字妻字上妻	34、36
58	寺崎遺跡（日向国府跡）	西都市大字妻字上妻・三宅字寺崎	36
59	石貫遺跡	西都市三宅字石貫平ノ下	36
60	酒元遺跡	西都市三宅字馬場崎	36
61	童子丸遺跡	西都市童子丸字上園・寺ノ馬場	36
62	祇園原地区遺跡	児湯郡新富町大字新田字祇園原	35
63	神殿遺跡	西臼杵郡高千穂町大字三田井字神殿	37
64	宮ノ前第２遺跡	西臼杵郡高千穂町大字三田井字宮ノ前	本書

表９　宮崎県下焼塩壷出土遺跡一覧表②

No.	編者	書名	発行年
1	宮崎県教育委員会	下弓田遺跡　日向遺跡総合調査報告第一輯	1961
2	日南市教育委員会	日南市遺跡詳細分布調査報告書。（鵜戸・東郷・飫肥・吾田地区）日南市埋蔵文化財報告書第１集	1990
3	日南市教育委員会	上講遺跡　日南市埋蔵文化財調査報告書第５集	1995
4	日南市教育委員会	平成６年度日南市内遺跡発掘調査概報　狐塚古墳・影平遺跡・飫肥城下町遺跡	1995
5	都城市教育委員会	都城市遺跡詳細分布調査報告書（市内南部）　都城市文化財調査報告書第６集	1987
6	都城市教育委員会	都城市遺跡詳細分布調査報告書（市内北西部）　都城市文化財調査報告書第12集	1990
7	都城市教育委員会	上ノ園第２遺跡　都城市早鈴東部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書　都城市文化財調査報告書第27集	1994
8	宮崎県教育委員会	永山原遺跡　霧島南部２期地区広域農道建設工事に伴う発掘調査報告書	1994
9	高城町教育委員会	城ヶ尾遺跡　ゴルフ場建設に伴う発掘調査報告書　高城町文化財調査報告書第１集	1989
10	清武町土地開発公社・清武町教育委員会	辻遺跡　清武工業団地造成工事埋蔵文化財発掘調査報告書	1994
11	宮崎県教育委員会	宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報（Ⅱ）	1981
12	宮崎県教育委員会	宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報（Ⅰ）	1980
13	宮崎県教育委員会	宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第２集　浦田遺跡・入料遺跡・堂地西遺跡・平畑遺跡・堂地東遺跡・熊野原遺跡	1985
14	宮崎県教育委員会	宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報（Ⅲ）	1982
15	宮崎県教育委員会	宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第４集　熊野原遺跡Ａ･Ｂ地区・前原西遺跡・陣ノ内遺跡・前原南遺跡・前原北遺跡・今江城（仮称）跡・車坂城西ノ城跡	1986
16	宮崎県教育委員会	宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報（Ⅳ）	1986
17	宮崎県中部農林振興局・宮崎市教育委員会	西ノ原地区遺跡　県営圃場整備事業南泉地区埋蔵文化財等調査報告書	1985
18	宮崎市教育委員会	平田遺跡　宮崎広域都市計画事業東宮土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告書	1996
19	宮崎市教育委員会	源藤遺跡　宮崎市文化財調査報告書	1987
20	宮崎市教育委員会	浄土江遺跡「　宮崎市文化財調査報告書	1993
21	宮崎県埋蔵文化財センター	余り田遺跡　一般国道10号宮崎西バイパス建設事業に伴う発掘調査報告書（２）	1997
22	高岡町教育委員会	蕨野遺跡　高岡町埋蔵文化財調査報告書第６集	1994
23	宮崎県教育委員会	九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告	1972
24	えびの市教育委員会	田代地区遺跡群　上田代遺跡・松山遺跡・竹之内遺跡・妙見原遺跡中山間地域農村活性化総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　えびの市埋蔵文化財調査報告書第20集	1997
25	えびの市教育委員会	えびの市遺跡詳細分布調査報告書　えびの市埋蔵文化財調査報告書第１集	1985
26	えびの市教育委員会	小木原遺跡群　蕨地区（Ｃ･Ｄ地区）・久見迫Ｂ地区・地主原地区原田・上江遺跡群　六部市遺跡・蔵元遺跡・中満遺跡・法光寺遺跡Ⅰ・Ⅱ　上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　えびの市埋蔵文化財調査報告書第16集	1996
27	えびの市教育委員会	永田原遺跡　小木原遺跡群蕨地区（Ａ･Ｂ地区）　口ノ平遺跡　上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　えびの市文化財調査報告書第６集	1990

表１０　宮崎県下焼塩壷出土遺跡文献目録一覧表①

28	えびの市教育委員会	永田原遺跡　上江・池島地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要　えびの市埋蔵文化財調査報告書第２集	1987
29	宮崎県教育委員会	田代ヶ八重遺跡　綾北川総合開発建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書	1992
30	西都市教育委員会	高三納遺跡　平成３年度農村総合整備モデル事業（高三納地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集	1992
31	西都市教育委員会	鴨目原遺跡　長野・平郡地区営農飲雑用水施設整備事業（農村総合整備モデル事業）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集	1989
32	宮崎県教育委員会	国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書。	1989
33	西都市教育委員会	諏訪遺跡　県立妻高等学校聖陵会館建設事業に伴う調査報告　西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第12集	1990
34	宮崎県教育委員会	国衙・郡衙・古寺跡等範囲確認調査概要報告書。	1992
35	宮崎県教育委員会	祇園原地区遺跡　県営農村基盤整備パイロット事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	1996
36	小田和利	「製塩土器からみた律令期集落の様相」『九州歴史資料館研究論集21』	1996
37	宮崎県埋蔵文化財センター	広木野遺跡・神殿遺跡Ａ地区　県立学校運動場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第７集	1997
38	宮崎県埋蔵文化財センター	市位遺跡　希望ケ丘西区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（１）　宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第10集	1998

表１１　宮崎県下焼塩壷出土遺跡文献目録一覧表②

石器（１３５）

黒曜石製の剥片である。透明で灰白色を呈し姫島産と推定される。

鉄器（第１２図・表２４・図版１３）

MY2-2SC01出土の鉄器（１３８）

１３８は折れていて一部しか残っていないが、形状から判断して、ベルト状金具の破片である。

Ⅵ．まとめ

狭い調査区ではあったが、宮崎県教育委員会が調査を行なった第１次調査の北側隣接地での竪穴住居跡（MY2-2SC01)の検出は重要である。小田富士雄氏の須恵器編年のⅢＡ期にあたり、第１次調査の同時期の住居跡としては、第１次調査の１号住居跡(MY2-1SC01）の規模と立地を比較すると、規模はMY2-1SC01が一辺６ｍに対し、MY2-2SC01は３．５ｍ、立地はMY2-1SC01が丘陵尾根上に対し、MY2-2SC01は丘陵北側緩斜面であり、MY2-1SC01の方が「ムラ」の中心部にあたり、MY2-2SC01はその外側の「ムラ」の周縁部にあたるものと推測される。将来、さらに周辺の調査の機会があれば、「集落」としてのさらに細かな分析が期待される。高千穂町においては、いつの時代においても「平坦地の確保」は重要な問題であり、たとえ斜面であっても緩やかであれば、住居を構えるという「たくましさ」が感じられる。このことから、試掘調査にあたっては、斜面であっても可能なかぎりトレンチを設定する必要性を痛感するものである。古墳時代後期の住居跡からの鉄器の発見は郡内初であり、国土座標を使っての発掘調査も郡内初であり、これを機会にさらによりよい調査を行っていきたいと考える。

また、奈良時代の遺構・遺物の発見は、高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）展示の高千穂高校郷土クラブ寄贈（高千穂高校遺跡出土）の須恵器の高台付の坏の他は、宮崎県が高千穂高校第２グラウンド造成に伴って調査した神殿遺跡Ａ地区のみで今回の宮ノ前第２遺跡第２次調査で３遺跡目となる。古事記や日本書紀が編纂される頃の高千穂がどのような様子であったかを知る上では、今後もこの時代の遺跡をさらに調査していく必要がある。

特に製塩土器の発見は興味深いものである。第１３図に宮崎県下の出土遺跡をプロットしたが、現在までのところ県南に多く県北に多いが、その集中地域は日向国府のあった西都市と、日向十六駅の救磨駅のあった宮崎市熊江付近をはじめ官道沿いに集中している。ちなみに駅については、諸説あり（鬼塚久美子「宮崎平野の古代交通路に関する予想」『宮崎県史研究第１１号』1997年)、ここでは鈴木重治「日本の古代遺跡２５宮崎県」保育社1985年を落としている。

森田勉氏は、「焼塩壷考」(『九州歴史資料館開館十周年記念大宰府古文化論叢下巻』吉川弘文館、1983年）で「生産遺跡を除くと、出土遺跡は官衙跡（推定地も含む）や大寺院跡から出土する例が多く、また、官道沿いの遺跡に限られていることが特に注目さ

れる点である。このことは、焼塩壷による固形塩の消費はある特定の階層か特定の用途の一端を示していると推察される。」と述べているが、宮崎県においてもあてはまりそうである。

今後、理科学的な胎土分析や、土師器や須恵器等の共伴資料の編年の確立などが進んで、時代別に分けて流れを追うとさらに生産と流通の様子がわかって来ると思われる。

高千穂町や須木村のように平地の官道沿いからは離れたものがあるものが、何であるのかは問題で、「山間部を横断する道沿い説」や「宗教関連説」なども仮説として考えられると思われるが、将来調査が進み、一般の集落レベルでも出土することも予測されるため、現時点では即断は避けたいと思う。

高千穂には塩の付く地名が多く、御塩井・塩市・塩井・塩井谷・塩井川・塩井平・夕塩・古夕塩・塩井の宇曽など集中する。また、宮崎県高等学校教育研究会理科・地学部会編「宮崎県の地学ガイド」コロナ社1979年によると、宮崎県内の岩塩（Halite）の産地としては、東臼杵郡のビロウ島のみが紹介されているが、田尻恒氏によると、岩戸の岩戸橋付近では岩塩の採集される場所もある（田尻恒「高千穂夜話」1989年）とのことで、江戸時代末に松浦武四郎が描いたスケッチ（松浦武四郎「西海雑志」1843年）にも岩戸笹の戸の橋が描かれ、「御塩の初」という石碑の絵とともに岩塩の記載がある。

また、甲斐有雄翁も岩戸の岩塩のことを歌に読んでいる。

「明治４１年日記（２３号）２月２０日

神塩笹戸橋の元に

世に頼ミあるらじ物と思ふにぞ神の恵ミの塩にや有けん

海ならで此山奥の岩間にハわくや潮の恵ミなるらん

思ひきや此の山おくにかしこくも皇七神の塩のわくとハ

思ひきや海とはなれし此山にすめら神の塩の有とハ」

（冨高則夫「甲斐有雄翁日記集歌枕」1996年）

河内公民館長の永岡豊満氏によると「大字河内の国道３２５号線の寧静ループ橋の稲荷神社付近においてもかつては岩塩が湧く『塩噴き岩』と呼ばれる岩があったが、ループ橋建設のために切り開いたため、現在は消滅した」とのことである。

甲斐静雄氏（高千穂町役場職員ＯＢ、元・水道課長）によると「押方の高千穂酒造の付近と三田井の塩市の興梠豆腐店の付近で昔、井戸を掘るためのボーリング調査を行ったが、塩分が強く、飲料水に不適ということであった」とのことであった。

山奥の町で「塩」と聞くと、海から遠いため遠い存在ではあるが、「岩塩」であるならば人々の記憶に残る事柄も多い。民俗学の調査も今後期待されるところである。

Ⅶ. Summary

Miyanomae #2 (宮ノ前第２) site is located at the foot of the hill of Kikunomiya(菊ノ宮) Shrine in central Takachiho.
The first excavation on Miyanomae #2 was carried out by the Miyazaki Prefectural Board of Education in 1989.
A subsequent excavation was carried out in March 1994, by the Takachiho Town Board of Education, previous to the construction of the town road, Sawatari. (猿渡)
The following items were discovered during the excavation:
Jomon potteries (縄文土器), Yayoi potteries (弥生土器) , Haji potteries (土師器), Sue potteries (須恵器), a salt making device made from clay (製塩土器), stone tools and an iron buckle (鉄製ベルト金具).
Both the house (SC01) and hole (SK02) are believed to date back to the latter half of the Kofun (古墳) Period(6th centry A.D.).
The hole (SK03) is from the Nara Period (8th centry A.D.).
During this excavation one house, dating back to the Kofun Period, was discovered, bringing the total number houses discovered to five.
A salt making device, made from clay, was discovered at 64 different locations around Miyazaki prefecture, with main concentration of findings in the south.
The reason for this, perhaps, is that during the Nara Period,the stations, where the horses and indeed the owners could find respite, were also market locations and located along the public road.
The public road, however, could not be extended into the mountainous land in northern Miyazaki, therefore the stations and the markets, where the devices were traded, were more sparse in the north, in comparison to the south.

２．宮ノ前第２遺跡（第３次調査）

例言

１．遺構実測は、国土座標第Ⅱ座標系で行った。

２．土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帳」1994 年版を参考にした。

本文目次

Ⅰ．発掘調査に至る経緯……４７
Ⅱ．遺跡の位置と環境……４９
Ⅲ．遺跡の概要……４９
Ⅳ．調査の経過……４９
Ⅴ．調査の結果……４９
Ⅵ．まとめ……５９
Ⅶ．Summary ……５９

挿図目次

第１４図　宮ノ前第２遺跡第３次調査Ａ区遺構実測図……４８
第１５図　宮ノ前第２遺跡第３次調査Ｂ・Ｃ区遺構実測図……５０
第１６図　宮ノ前第２遺跡第３次調査表土出土土器実測図……５２
第１７図　宮ノ前第２遺跡第３次調査表土出土陶磁器実測図……５３
第１８図　宮ノ前第２遺跡第３次調査表土出土陶磁器・瓦実測図……５４
第１９図　宮ノ前第２遺跡第３次調査黒色土出土土器実測図……５６
第２０図　宮ノ前第２遺跡第３次調査ＳＤ04・ＳＰ05出土土器及び
　　宮ノ前第２遺跡第３次調査出土石器・金属器実測図……５８

表目次

表２４　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器観察表（その１）……８３
表２５　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器観察表（その２）……８４
表２６　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器観察表（その３）……８５
表２７　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器観察表（その４）……８６
表２８　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器観察表（その５）……８７
表２９　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器観察表（その６）……８８
表３０　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器・瓦観察表（その７）…８９
表３１　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器観察表（その８）……９０
表３２　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土土器観察表（その９）……９１
表３３　宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ2-3）出土石器・獣歯・金属器
　　観察表……９２

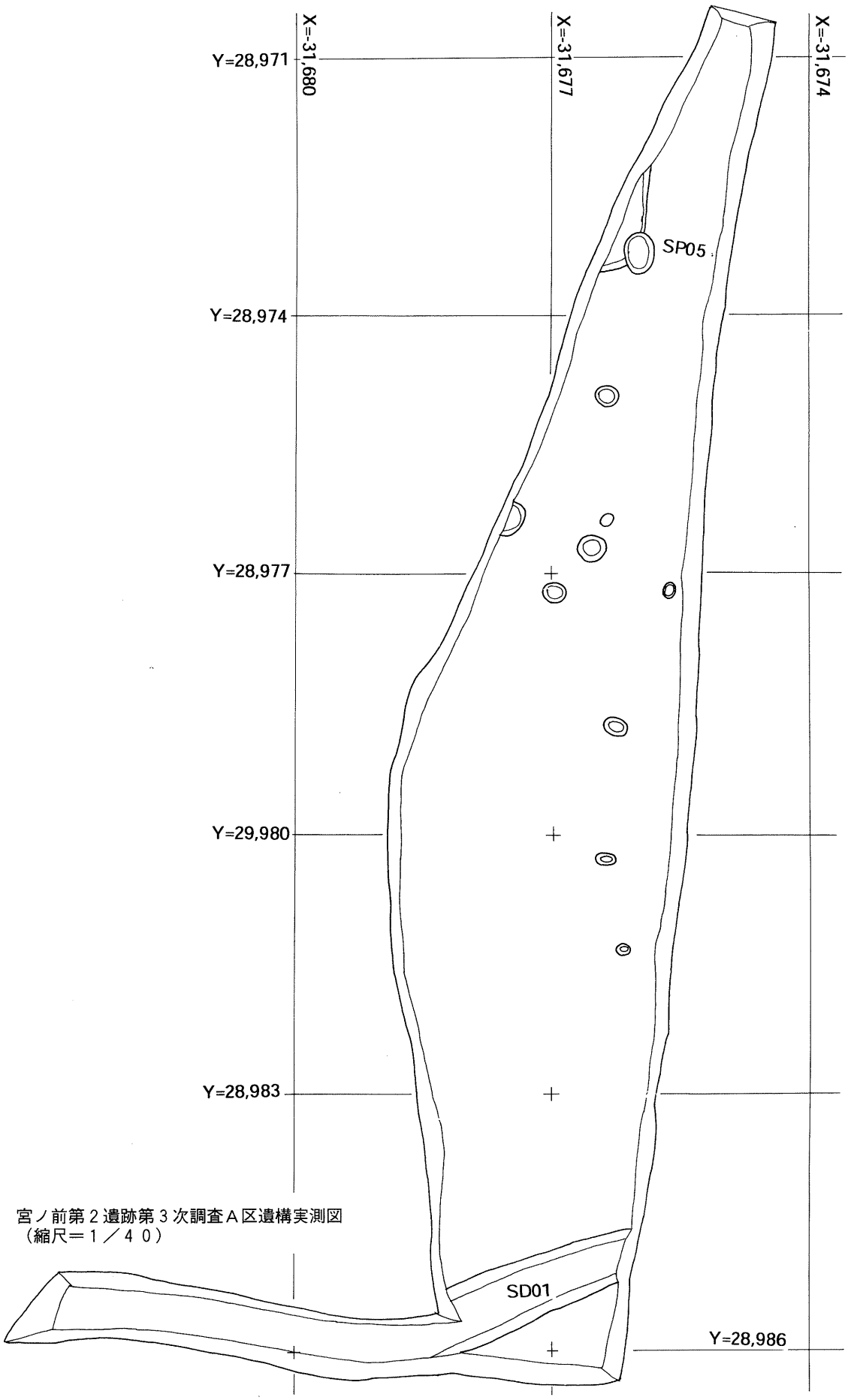
図版目次

図版13　１＝発掘調査作業風景（Ａ区北東から）……１０７
２＝発掘調査作業風景（Ａ区西から）……１０７
３＝発掘調査作業風景（Ａ区東から）……１０７
図版14　４＝遺構検出面検出時（Ａ区東から）……１０８
５＝遺構検出面完掘後（Ａ区東から）……１０８
６＝Ａ区溝（ＭＹ2-3ＳＤ01）近景（北から）……１０８
図版15　７＝Ｂ区近景（南から）……１０９
８＝Ｂ区溝（ＭＹ2-3ＳＤ02・ＭＹ2-3ＳＤ03）（東から）……１０９
９＝Ｂ区溝（ＭＹ2-3ＳＤ02・ＭＹ2-3ＳＤ03）（南から）……１０９
図版16　１０＝Ｃ区近景（南から）……１１０
１１＝Ｃ区（北から）……１１０
１２＝Ｃ区（南から）……１１０
図版17　１３＝土器（１～９）表……１１１
１４＝土器（１～９）裏……１１１
１５＝土器（１０～１８）表……１１１
１６＝土器（１０～１８）裏……１１１
１７＝土器（１９～２６）表……１１１
１８＝土器（１９～２６）裏……１１１
図版18　１９＝陶磁器（２７）上……１１２
２０＝陶磁器（２７）下……１１２
２１＝陶磁器（２７）斜め……１１２
２２＝陶磁器（２８）上……１１２
２３＝陶磁器（２８）下……１１２
２４＝陶磁器（２８）内斜め……１１２
２５＝陶磁器（２８）外斜め……１１２
図版19　２６＝陶磁器（２９～３５・３８・３９）表……１１３
２７＝陶磁器（２９～３５・３８・３９）裏……１１３
２８＝陶磁器（４０～４８）表……１１３
２９＝陶磁器（４０～４８）裏……１１３
３０＝陶磁器（４９～５７）表……１１３
３１＝陶磁器（４９～５７）裏……１１３
図版20　３２＝陶磁器（３６）上……１１４
３３＝陶磁器（３６）下……１１４
３４＝陶磁器（３６）斜め……１１４
３５＝陶磁器（３７）上……１１４
３６＝陶磁器（３７）下……１１４

３７＝陶磁器（３７）斜め……１１４
図版21　３８＝陶磁器（５８～６６）表……１１５
３９＝陶磁器（５８～６６）裏……１１５
４０＝陶磁器（６７・６８）瓦（６９～７１）表……１１５
４１＝陶磁器（６７・６８）瓦（６９～７１）裏……１１５
４２＝土器（７２～８０）表……１１５
４３＝土器（７２～８０）裏……１１５
図版22　４４＝土器（８１～８９）表……１１６
４５＝土器（８１～８９）裏……１１６
４６＝土器（９０～９８）表……１１６
４７＝土器（９０～９８）裏……１１６
図版23　４８＝土器（９９・１００）表（１０１）上……１１７
４９＝土器（９９・１００）裏（１０１）下……１１７
５０＝土器（１０１）斜め……１１７
図版24　５１＝石器（１０２）表……１１８
５２＝石器（１０２）裏……１１８
５３＝石器（１０３）表……１１８
５４＝石器（１０３）裏……１１８
５５＝石器（１０４）表……１１８
５６＝石器（１０４）裏……１１８
５７＝石器（１０５）表……１１８
５８＝石器（１０５）裏……１１８
５９＝獣歯（１０６）正面……１１８
６０＝獣歯（１０６）側面……１１８
６１＝銅銭（１０７）表……１１８
６２＝銅銭（１０７）裏……１１８
６３＝鉄器（１０８）表……１１８
６４＝鉄器（１０８）裏……１１８

Ⅰ．発掘調査に至る経緯

高千穂町建設課より町道猿渡線の道路改良工事の平成６年度工区の情報を入手し、発掘調査は平成６年５月12日～30日に実施した。調査地点は第２次調査の北側であるが、重機による作業は、調査地点が交通量の多い道路の横であり危険であると判断されるため行わず、人手による作業を行った。しかし鉄筋コンクリートの民家の建っている場所は、基礎が深く、遺構面を破壊している可能性が高い上、そして何よりも人手では除去が困難であったため、それ以外の３地点に調査区を設定した。



第１４図　宮ノ前第２遺跡第３次調査Ａ区遺構実測図
（縮尺＝１／４０）

Ⅱ．遺跡の位置と環境

第２次調査で詳しく述べたので割愛する。第２次調査を参照とされたい。

Ⅲ．遺跡の概要

宮ノ前第２遺跡は、宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井字宮ノ前に所在する縄文・弥生・古墳時代の遺跡である。高千穂町教育委員会の「高千穂町遺跡詳細分布調査報告書（三田井・押方・向山地区）」1983年によるとNo.1047の縄文～弥生時代の遺物散布地として登録されている。その後、平成元年４月24日～平成２年３月30日の間、宮崎県教育委員会により国道218号線高千穂バイパス建設に先立って発掘調査が行われ、縄文時代の遺物包含層と弥生～古墳時代の竪穴住居跡15軒が発見されている。その後、宮崎県西臼杵郡高千穂町によって町道猿渡線の道路改良工事（平成５年度工区）に伴って第２次調査を実施し、新たに古墳時代後期の竪穴住居跡１軒を検出した。今回行った第３次調査は、町道猿渡線の道路改良工事（平成６年度工区）に伴う調査で、第２次調査の北側にあたる。発掘調査は高千穂町教育委員会が平成６年５月12日～30日に実施した。

Ⅳ．調査の経過

調査地点は第２次調査の北側である。現状は鉄筋コンクリート造２階建ての民家と水田及び畑である。調査地点が交通量の多い道路の横であり、大型重機による掘削作業は危険であると判断されるため、人手による作業を行った。しかし鉄筋コンクリートの民家の建っている場所は、基礎が深く、遺構面を破壊している可能性が高い上、人手では除去が困難であったため、それ以外の３地点に調査区を設定した。調査の結果、ピット群・溝などの遺構が確認され、鉄器・銅銭「寛永通宝」・土器・石器等102点の遺物を出土した。実測図作成・写真撮影等の記録調査の後、埋め戻され、現在は町道猿渡線の道路改良工事が行われ、道路の下となっている。

Ⅴ．調査の結果

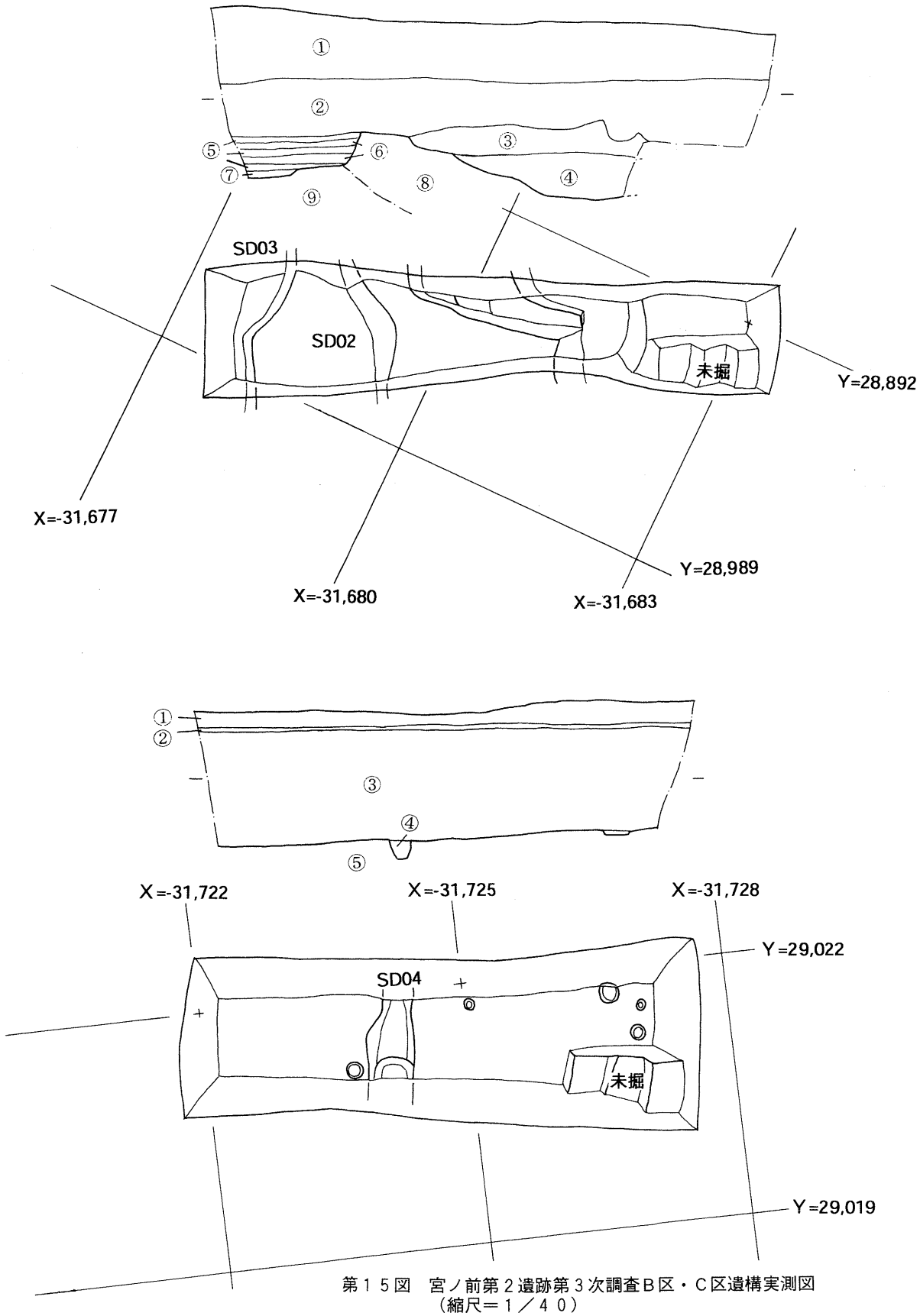
（１）基本土層

水田耕作土である青灰色土と、床土で鉄分やマンガンの沈着層の床土を除去すると、地山である明黄茶微砂質土があり、この面から遺構が確認された。遺構の埋土は黒灰色微砂質土で、比較的、地山とも区別がつきやすい色であった。谷地にあたるＢ区は、地山に「灰とうご」と呼ばれる阿蘇凝灰岩が見られた。

【Ａ・Ｃ区の土層】

①＝青灰色土＝表土

②＝鉄分の沈着層＝床土

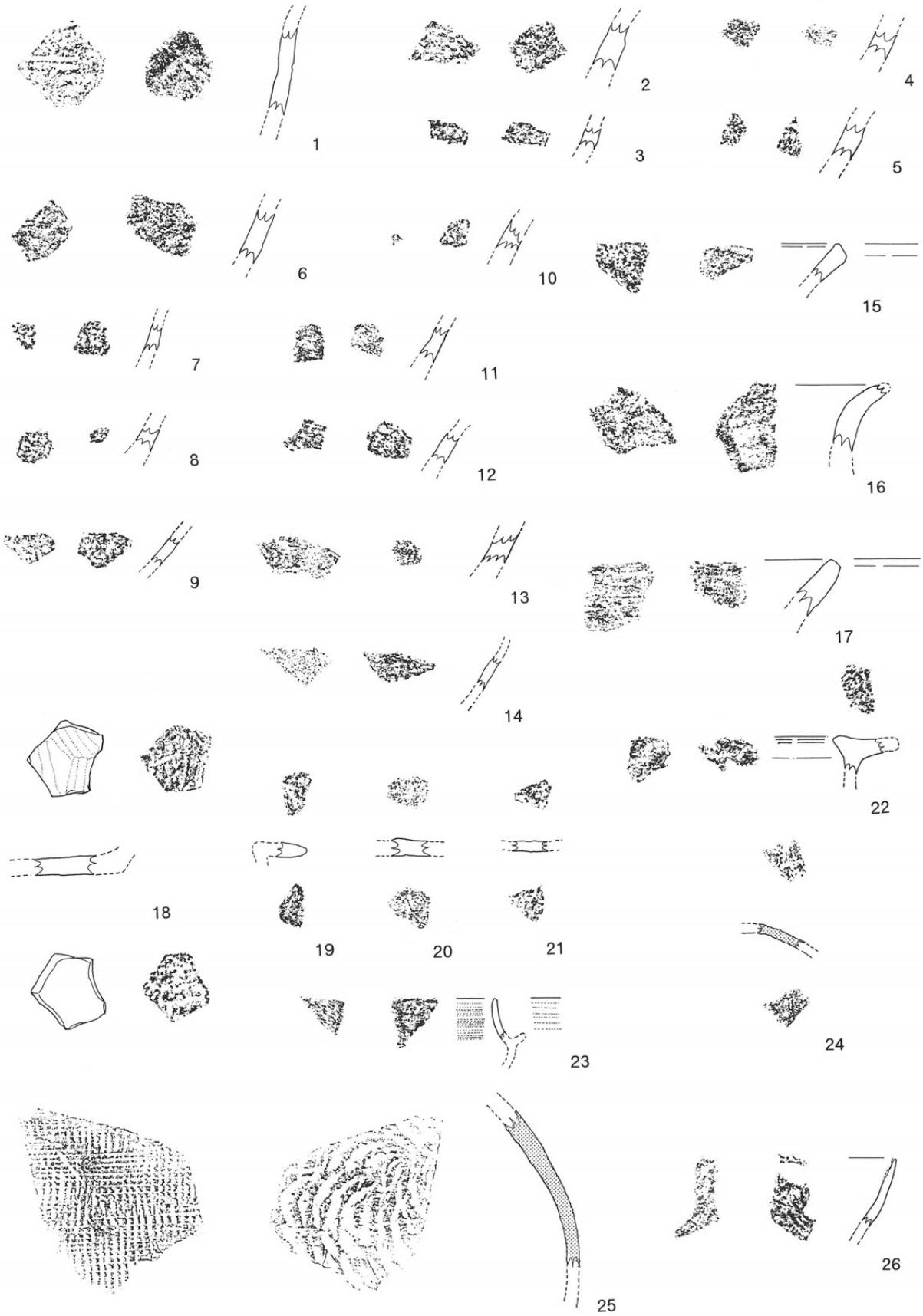


第１５図　宮ノ前第２遺跡第３次調査Ｂ区・Ｃ区遺構実測図
（縮尺＝１／４０）

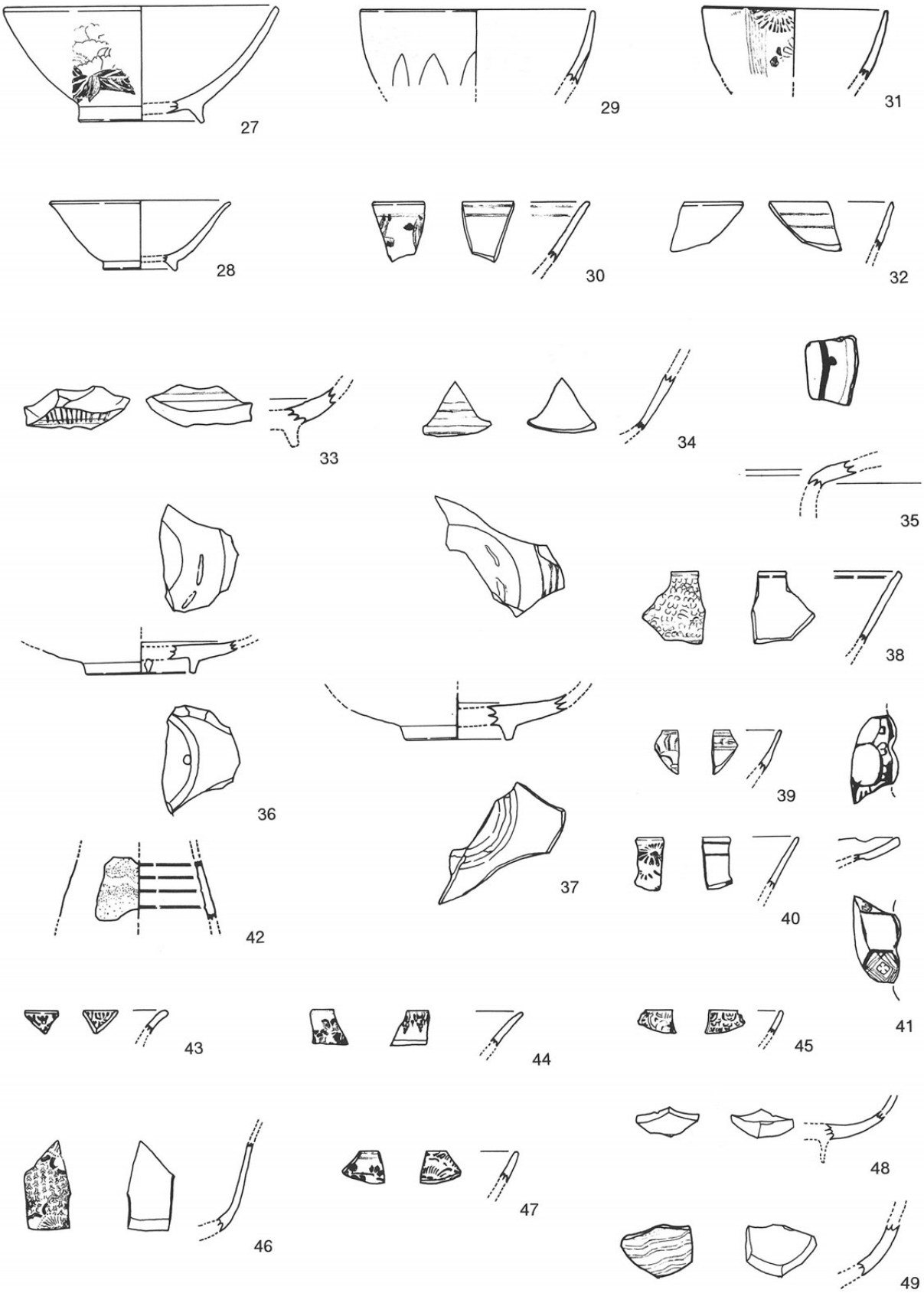
③＝明茶褐色土＝埋土
④＝黒灰色微砂質土＝ＳＤ04埋土
⑤＝明黄茶微砂質土＝地山
【Ｂ区の土層】
①＝茶褐色土（明黄色ブロック含む）＝耕作土
②＝明茶褐土（①よりサラサラ）＝埋立土
③＝明乳灰色土（木の根多い）＝桑畑
④＝褐灰色砂質土
⑤＝明茶灰色砂質土＝ＳＤ02埋土
⑥＝明茶灰色粘質土＝ＳＤ02埋土
⑦＝暗茶灰色粘質土＝ＳＤ03埋土
⑧＝凝灰岩（通称：「灰とうご」）＝地山
⑨＝乳白色粘土＝地山

（２）遺構
ピット群、溝などを検出した。
《Ａ区》
ピット（ＭＹ2-3ＳＰ05）須恵器の坏身（１０１）を出土した。
溝（ＭＹ2-3ＳＤ01）調査区東端で検出した南北溝。北から南へ流れる。遺物なし。
《Ｂ区》
溝（ＭＹ2-3ＳＤ02）調査区北端で検出した東西溝。東から西に流れる。遺物なし。ＭＹ2-3ＳＤ03より新しい。
溝（ＭＹ2-3ＳＤ03）調査区北端で検出した東西溝。東から西に流れる。遺物なし。ＭＹ2-3ＳＤ02より古い。
《Ｃ区》
溝（ＭＹ2-3ＳＤ04）調査区中央端で検出した東西溝。短いため、流れの方向は不明。小さい溝のわりには、縄文土器・土師器・須恵器等多くの遺物が出土した。

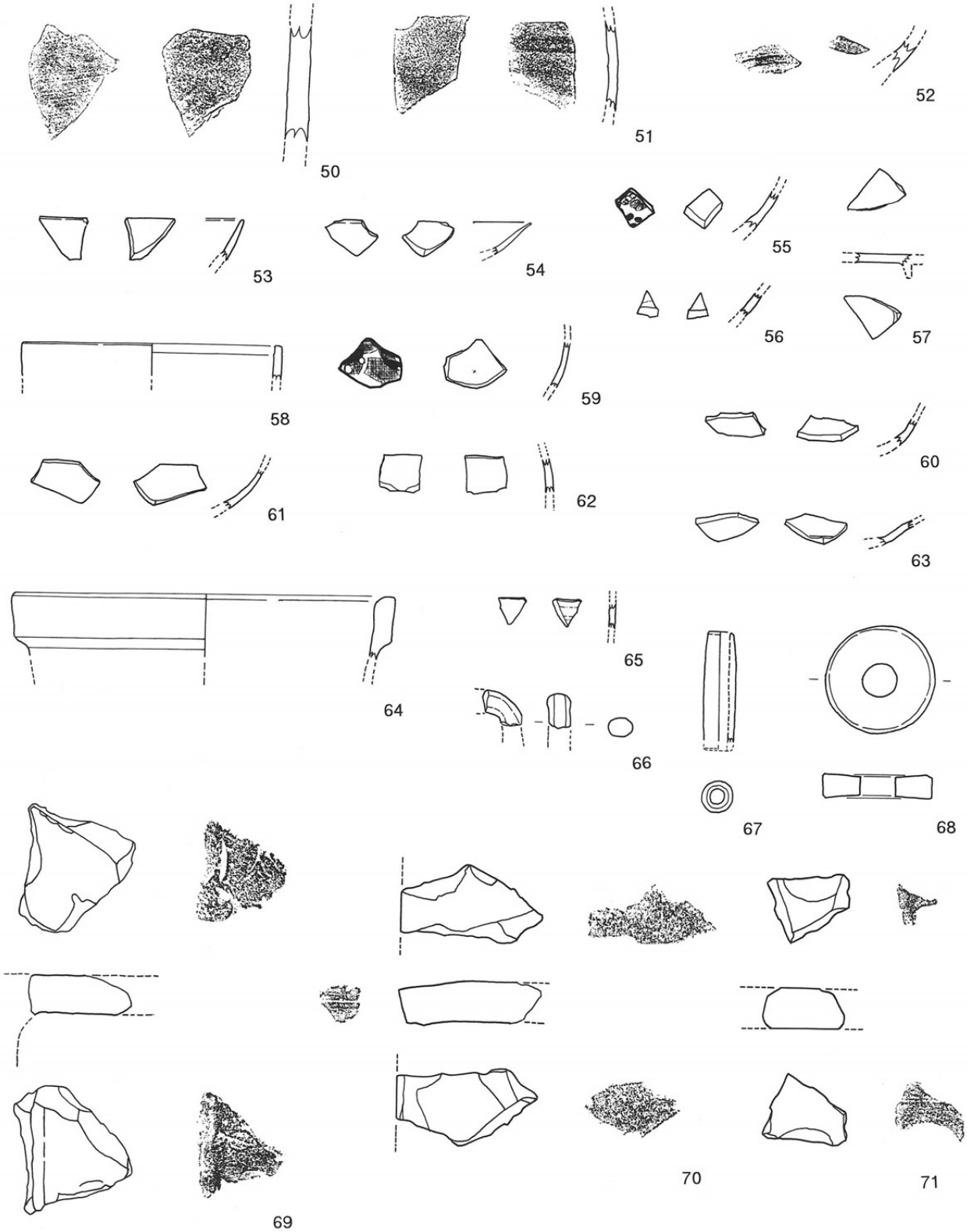
（３）遺物
表土出土の土器（第１６図・表２４～２６・図版１７～１８）
縄文土器（１～１２・１５・１８・２０）
１～１２は深鉢の胴部、１５は深鉢の口縁部、１８・２０は浅鉢の底部の破片である。
弥生土器（１３・１６・１７・１９・２２）
１３は甕の胴部、１６・１７・１９・２２は甕の口縁の破片である。２２は「黒髪式」である。



第１６図　宮ノ前第２遺跡第３次調査表土出土土器実測図
（縮尺＝１／３）



第１７図　宮ノ前第２遺跡第３次調査表土出土陶磁器実測図
（縮尺＝１／３）



第１８図　宮ノ前第２遺跡第３次調査表土出土陶磁器・瓦実測図
（縮尺＝１／３）

土師器（１４・２１・２３）

１４は壷または甕の胴部、２１はヘラ切りの小皿の底部、２３は須恵器を模倣した土師器の坏身の立ち上がり部の破片である。

須恵器（２４・２５）

２４は坏蓋の破片で外面に自然釉がかかる。２５な壷の胴部で外面に平行叩きの後、カキ目、内面に同心円工具で青海波叩きを施す。

製塩土器（２６）

焼塩壷、森田勉氏分類Ⅱｂ類。内外面ナデを施す。

表土出土の陶磁器・瓦（第１７～１８図・表２６～３０・図版１８～２１）

陶磁器・陶磁製品（２７～６８）

詳しくは、観察表を参照のこと。３４は、白磁の椀の破片でⅣ×Ⅴ×Ⅷ類の可能性がある。

瓦（６９～７１）

６９は軒平瓦、７０・７１は平瓦である。

黒色土出土の土器（第１９図・表３０～３２・図版２２）

縄文土器（７２～７５・７８～８３・８５～８７）

７２・７３は深鉢の口縁部、７４・７５・７８～８６は深鉢の胴部、８７は深鉢の底部である。７９と８３は外面に条痕が残る。

弥生土器（７７・８４・８８～９１）

７７は「須玖式」の丹塗り壷の胴部の破片で外面に丹塗が残る。８４・８８・８９は甕の胴部である。９０は「中溝式」の刻目突帯甕の口縁付近の破片である。９１は外面にハケ目と赤色顔料が残る後期の甕の胴部である。

土師器（９２・９３）

９２は甕の破片で外面に粗い平行叩きが残る。９３は須恵器を模倣した土師器の坏蓋の破片で内外面にミガキを施す。

須恵器（９４）

９４は甕の胴部で外面は縦方向の平行叩き、内面は上部は横方向の平行叩き、下部は同心円工具による青海波叩きを施す。

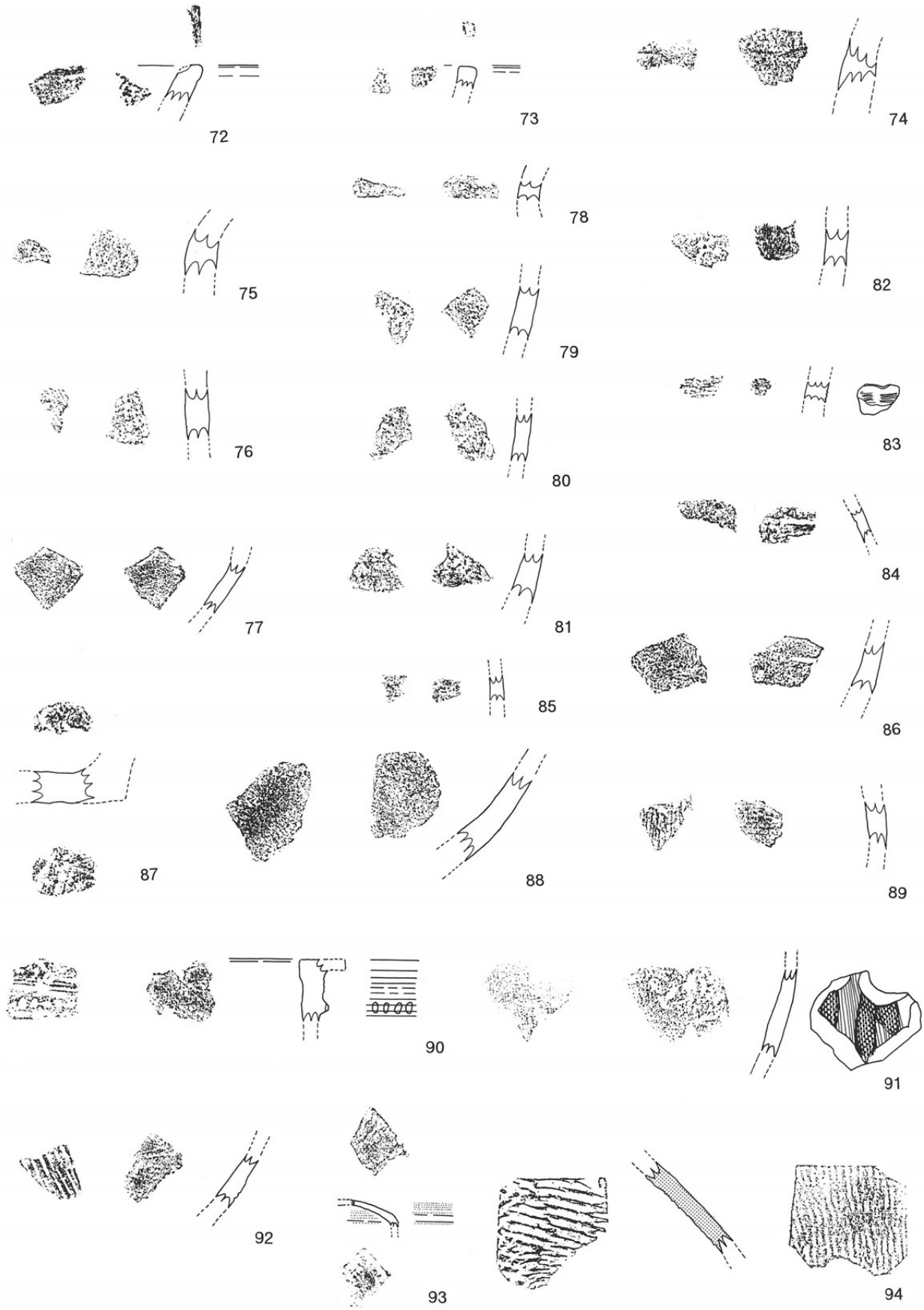
ＳＤ０４出土の土器（第２０図・表３２・図版２２～２３）

縄文土器（９７・９８）

９７・９８は深鉢の胴部の破片である。内外面とも無文である。

弥生土器（９５）

９５は甕のｄ胴部の破片である。



第１９図　宮ノ前第２遺跡第３次調査黒色土出土土器実測図
（縮尺＝１／３）

土師器（９６・１００）
　９６は壷または甕の胴部の破片である。１００は椀の口縁部の破片である。内外面にミガキを施す。
須恵器（９９）
　９９は壷または甕の胴部で外面に自然釉がかかる。調整は外面はナデ、内面はヨコナデを施す。

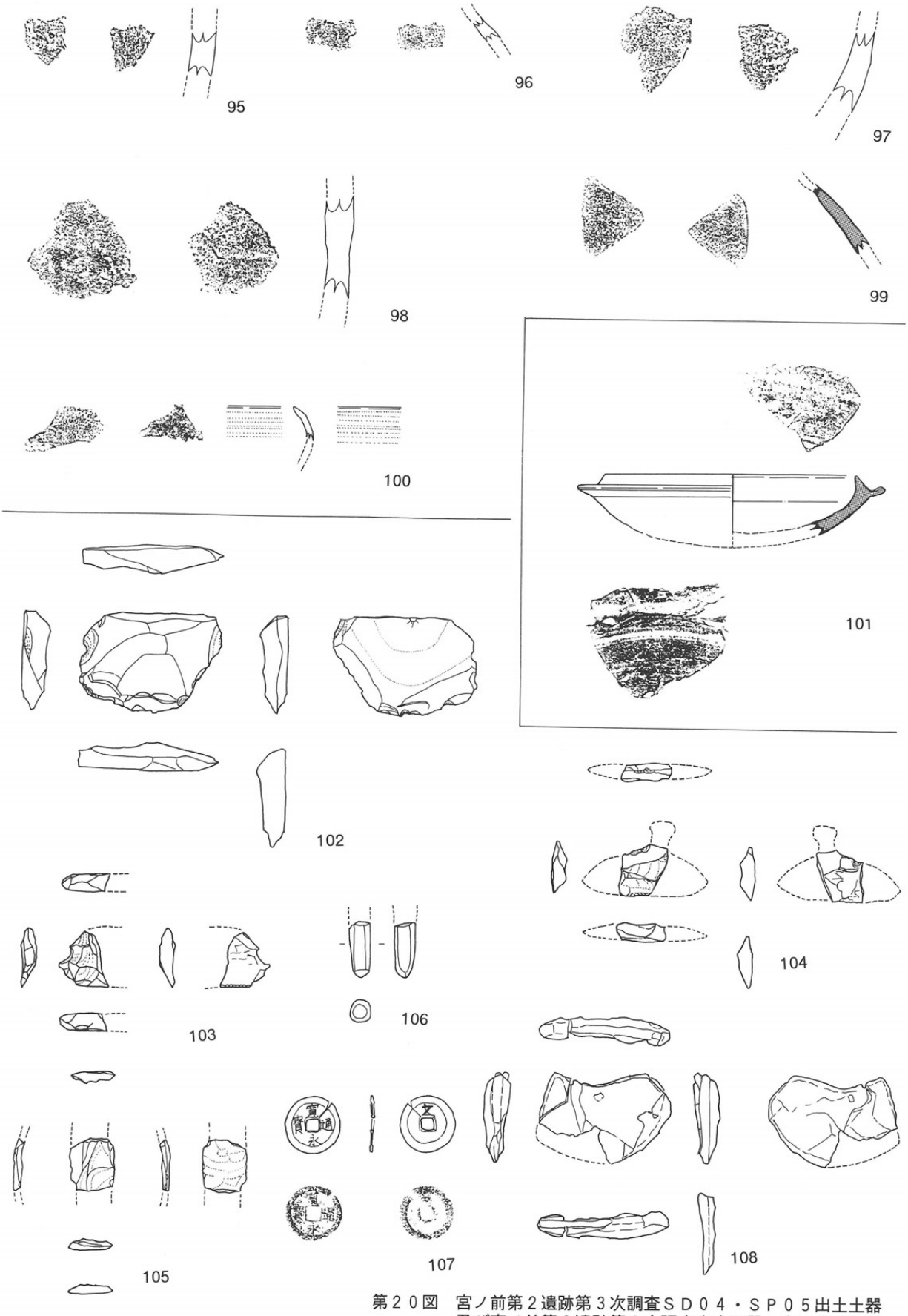
ＳＰ０５出土の土器（第２０図・表３２・図版２３）
須恵器（１０１）
　口径11.2cm、器高2.7＋αcmの坏身の破片である。小田富士雄氏や舟山良一氏等の九州の須恵器の編年のⅣ期で６世紀末から７世紀初め頃と推定される。

石器
表土出土の石器（第２０図・表３３・図版２４）
打製石器（１０５）
　１０５はチャート製の縦長剥片で、スクレーパーとして使用された可能性がある。
黒色土出土の石器（第２０図・表３３・図版２４）
打製石器（１０２・１０４）
　１０２は泥岩製のスクレーパーである。１０４は、チャート製の横型石匙である。
ＳＤ０４出土の石器（第２０図・表３３・図版２４）
打製石器（１０３）
　１０３はチャート製の横型石匙である。

獣歯（第２０図・表３３・図版２４）
黒色土出土の獣歯（１０６）
　１０６は、獣歯である。

銅銭（第２０図・表３３・図版２４）
黒色土出土の銅銭（１０７）
　１０７は「寛永通宝」の文銭である。

鉄器（第２０図・表３３・図版２４）
黒色土出土の鉄器（１０８）
　１０８は錆に覆われており形態は不明であるが、弧状部分は刃部の形態をしており、「鉄製穂積み具」の可能性が考えられる。



第２０図　宮ノ前第２遺跡第３次調査ＳＤ０４・ＳＰ０５出土土器
及び宮ノ前第２遺跡第３次調査出土石器・金属器実測図
（縮尺＝１／３）

Ⅵ. まとめ

第２次調査よりは遺構密度は希薄であったが、ピットや溝などの遺構は、第２次調査同様、古墳時代後期が中心であった。集落の範囲がさらに北側の地点で確認されたことは、重要であり、今後も周辺のさらなる調査が期待される。

Ⅶ. Summary

Miyanomae #2 (宮ノ前第２) site is located at the foot of the hill of Kikunomiya(菊ノ宮) Shrine in central Takachiho.
The excavation of Miyanomae #2 was carried out in June 1994 , by the Takachiho Town Board of Education, previous to the construction of the town road, Sawatari (猿渡).
The following items were discovered during the excavation:
Jomon potteries (縄文土器), Yayoi potteries (弥生土器) , Haji potteries (土師器), Sue potteries (須恵器), a salt making device made from clay (製塩土器), stone tools, an iron tool, and an old coin.

３．今狩平横穴群第２号横穴

例言

１．遺構実測は、磁北で行った。これは付近に国土座標のポイントが無かったためで、将来、なんらかの機会があれば、接続したいと考える。また、高さについても近所に基準点が無く、仮のベンチからのプラス値で示している。こちらも将来、なんらかの機会があれば、接続したいと考える。

２．土器の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帳」1994 年版を参考にした。

本文目次

Ⅰ．発掘調査に至る経緯……６３
Ⅱ．遺跡の位置と環境……６３
Ⅲ．遺跡の概要……６５
Ⅳ．調査の経過……６８
Ⅴ．調査の結果……６８
Ⅵ．まとめ……６８
Ⅶ．Summary ……６９

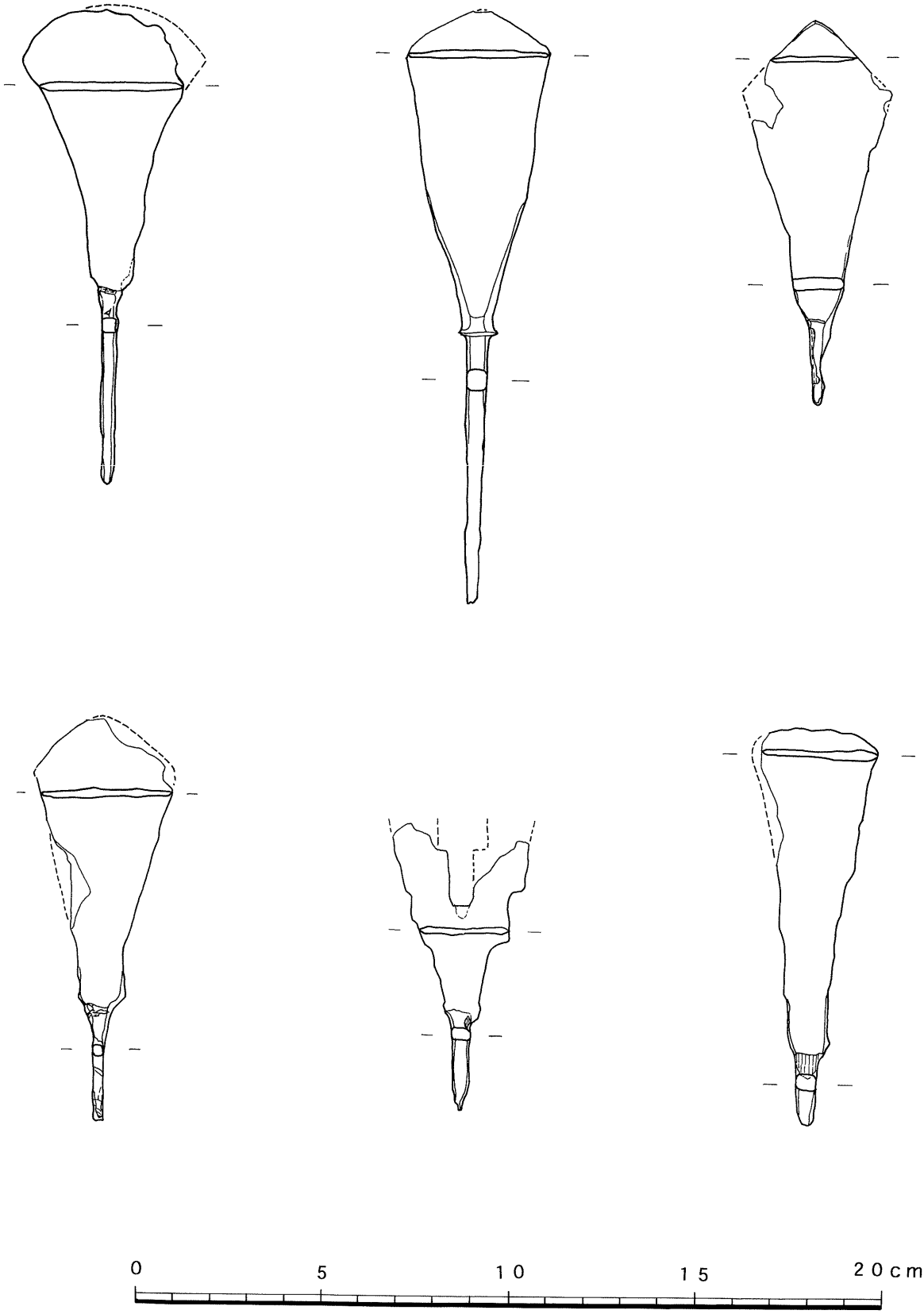
挿図目次

第２１図　梶原平横穴墓に建つ甲斐有雄翁の供養塔拓本……６１
第２２図　伝・梶原平横穴墓出土鉄鏃実測図……６２
第２３図　今狩平横穴群周辺地形図……６６
第２４図　今狩平横穴群第２号横穴墓位置図……６７
第２５図　今狩平横穴群第２号横穴墓流出土中採集の土師器実測図……６７
第２６図　今狩平横穴群第２号横穴墓遺構実測図……６９
第２７図　今狩平横穴群第２号横穴墓閉塞石実測図……６９

図版目次

図版２５　１＝今狩平横穴群第２号横穴近景……１１９
　　２＝閉塞石表面……１１９
　　３＝閉塞石裏面……１１９
図版２６　４＝今狩平横穴群第２号横穴墓流出土中採集の土師器（上）……１２０
　　５＝今狩平横穴群第２号横穴墓流出土中採集の土師器（斜め）…１２０
　　６＝今狩平横穴群第２号横穴墓流出土中採集の土師器（下）……１２０
　　７＝梶原平横穴墓に建つ甲斐有雄翁の供養塔……１２０
　　８＝伝・梶原平横穴墓出土の鉄鏃……１２０

第21図　梶原平横穴墓に建つ甲斐有雄翁の供養塔拓本
（縮尺＝１／５）



第22図　伝・梶原平横穴墓出土鉄鏃実測図
（縮尺＝１／２）

Ⅰ．発掘調査に至る経緯

平成５年８月19日、「連日の豪雨により裏山（高千穂町大字田原字今狩平1219番地）が崩れ、横穴墓らしいものが出てきた。閉塞石もずり落ちている。」との電話が、高千穂町大字田原字今狩平1220番地在住の伊東和美氏から入った。早速、午後から緒方俊輔ならびに社会教育課長河内和郷が現地に向かうと、閉塞石が流れ落ち、横穴が開口していた。見た限りでは内部には骨や遺物は無く、閉塞石と共に流れ出たらしき土より、土師器の破片を採集した。入り口から棒を突っ込んだところ、約100cmほどで奥壁に当たった。かなり小規模な横穴であると思われた。今狩平横穴群は昭和44年の農地整備の際、かなり大規模に破壊され、一部の横穴の略測図が沢武人氏によって報告されている。その際、鉄鏃・鉄刀・鉄剣・玉類・馬具・甲冑等の図面も報告されている。今狩平横穴群の全体像は、今となっては不明であるが、沢武人氏報告のものを「１号横穴」とし、今回新たに見つかったものを「２号横穴」と命名した。その後、作業員の予算が確保できた平成６年６月１日～２日に、横穴内部の清掃と記録を行った。

Ⅱ．遺跡の位置と環境

高千穂町全体的な「遺跡の位置と環境」については、宮ノ前第２遺跡第２次調査を参考とされたい。ここでは、主に「旧・田原村」の「遺跡の位置と環境」について述べることとする。

田原地区においては、平成１０年度に「遺跡詳細分布調査」実施し現在、データを整理中であるため、詳しくは述べないが、資料整理後、報告書としてまとめる予定である。昭和３０～４０年代に大規模な農地基盤整備や道路建設があった際にかなりの遺跡が発見されたらしいが、文化財専門職員を配置する自治体も無い時代であり、小学校や中学校の社会科教諭に土器や石器を持ち込まれたことも少なくない。田原地区には、田原小学校・五ヶ所小学校・田原中学校の３校があるが、このうち田原小学校の社会科教諭であった木野教諭のコレクションが観音寺にあり、この度、高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）へ寄贈された。五ヶ所小学校へは遺跡の密度が薄いためか、考古学コレクションは無く、田原中学校へは持っていったという人はいるものの、残念ながら資料が散逸しており残っていない。

【旧石器時代】

田原地区の旧石器時代の遺跡は見つかっていない。

【縄文時代】

早期の押型文土器を奥鶴遺跡（大字河内字奥鶴）・米糸遺跡（大字河内字米糸）等で採集されている。後・晩期の遺跡では、国見遺跡（大字五ケ所字笹野原）・中原山遺跡（大字五ケ所字中原山）・奥鶴遺跡（大字河内字奥鶴）・鉾立遺跡（大字河内字小河内）田原小学校遺跡（大字河内字中河内）・中河内遺跡（大字河内字中河内）・中瀬遺跡（大字田原字中瀬）・梶原平遺跡（大字田原字梶原平）等がある。

【弥生時代】

後期になって遺跡が多くなる。薄糸平遺跡（大字田原字薄糸平）では、ガラス小玉・磨製石鏃・砥石・免田式土器・工字突帯甕等を出土している。

中園遺跡（大字田原字妙見平）・馬場遺跡（大字河内字馬場）でも粗製甕、国見遺跡（大字五ケ所字笹野原）では磨製石鏃が採集されている。後期から終末期の奥鶴遺跡からは安国寺式の複合口縁壷を出土している。なお、馬場遺跡（大字河内字馬場）は板石が多く出土したと伝えられ、箱式石棺などが存在した可能性が高い。

【古墳時代】

前期では、奥鶴遺跡（大字河内字奥鶴）で布留式系統の甕の口縁部を出土している。

中期では、丸山石棺墓（大字河内字丸山）で直弧文の鹿角製刀装具を出土している。

後期では、横穴墓が作られる。奥鶴横穴墓（大字河内字奥鶴）・丸山横穴墓群（大字河内字丸山）・下西平横穴墓（大字河内字下西平）・上西平横穴墓群（大字田原字上西平）・田原南平横穴墓群（大字田原字南平）・井貫迫横穴墓群（大字田原字井貫迫）・田原中学校内横穴墓（大字田原字南大平）・宮尾野神社横穴墓（大字田原字宮尾野）・梶原平横穴墓（大字田原字梶原平）・今狩平横穴墓群（２号墓は、本書）等がある。

【中世】

中世城跡では、崩野城跡（大字河内字崩野）・上馬場金毘羅祠砦（大字河内字上馬場）・古城跡（大字河内字古城）・奥鶴丸山太鼓番（大字河内字丸山）・亀頭山城跡（大字河内字染田）・下ノ城跡（大字河内字下野城）・馬見原城跡（大字河内字下西平）・伊東氏小崎屋敷（大字河内字中河内）・高城跡（大字河内字夕塩）・本囲（大字河内字入高）・殿の岩屋（大字河内字入高）・染野丸山太鼓番（大字田原字梶原）・大友宗麟陣跡（大字田原字今狩平）・城（大字田原字妙見平）などがある。

銭出土地としては、戸谷山中遺跡（大字河内字戸谷）がある。

墳墓では、奥鶴山の神（大字河内字奥鶴）や中河内（大字河内字中河内）や中瀬（大字田原字中瀬）や山法師さん（大字田原字中瀬）や山室（大字田原字山室）や正善寺（大字田原字妙見平）などで宝筐印塔残欠がある。

遺物散布地では塚ノ原遺跡（大字田原字染野平）などがある。

【近世】

江戸時代には、国境の地であるため河内番所と夕塩番所があり、寺院では地蔵寺跡（大字五ケ所字原山）・西光寺跡（大字河内字奥鶴）・興善寺跡（大字河内字中河内）・西光禅庵跡（大字田原字中村）・正善寺跡（大字田原字妙見平）・正興寺跡（大字田原字中原）がある。神社跡では信濃神社跡（大字田原字中村）・お天とうさん跡（大字田原字今狩平）などがある。

【現代】

昭和２０年８月７日に墜落した隼戦闘機墜落事故現場（大字河内字小河内）と同年８月３０日のＢ－２９墜落事故現場（大字五ケ所字親父山）がある。また、未完成に終わった国鉄高千穂線トンネル等は酒造会社の焼酎倉庫として貸出され活躍している。

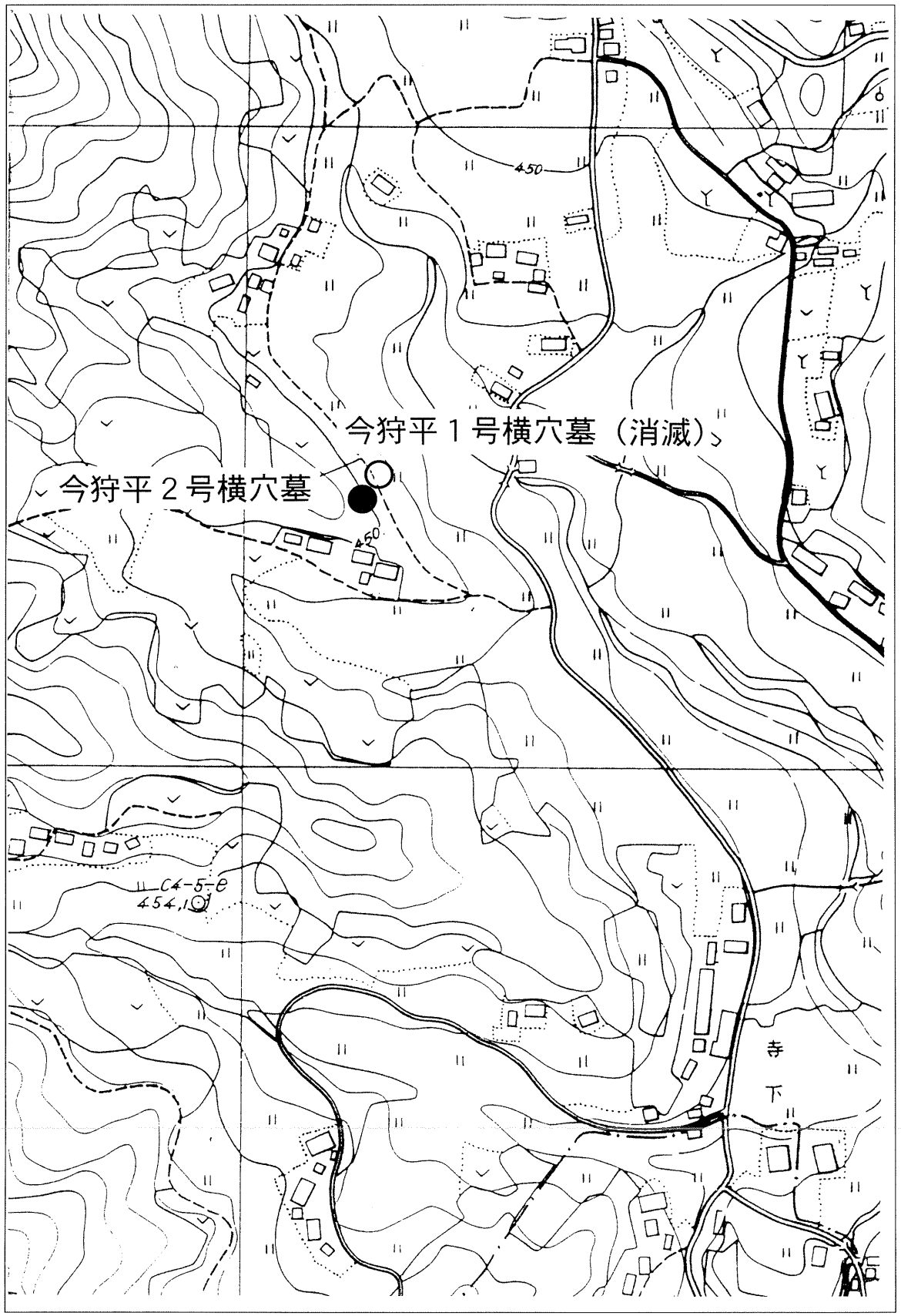
高千穂町は、宮崎県の中でも近世文書が多い地域であるが、明治以降においても多い。文献史料から古墳時代の横穴墓の発見や破壊をいくつか辿ることができるので紹介したい。

①高千穂町五ヶ所の「矢津田鷹太郎日記」明治18年８月17日には、田原南平横穴墓群の発見が記されている。
「８月17日妹吉良武二児を連れ車行に付来て泊す、尋て夜に入り姉キイ準造を連れ同人病「風邪ただる」に付原田に診察を乞う為来て同所同時同人同道、黒木マツ女来る同是は家事の事に付余に依頼の事ありてなり。昨日分巡査直井成章来て余に田原南の埋物の件に付由来を問う、県令より警察に照会ありて也、余知る三田井家の臣興梠伊勢守隠居して南に来住する所に三田井落城に付宝器の敵の手に渡さん事を惜み穴蔵を構え埋めたるなりと之れに言う。」とある。
矢津田鷹太郎氏の所見は時代錯誤されているが、発見の記載としては重要である。

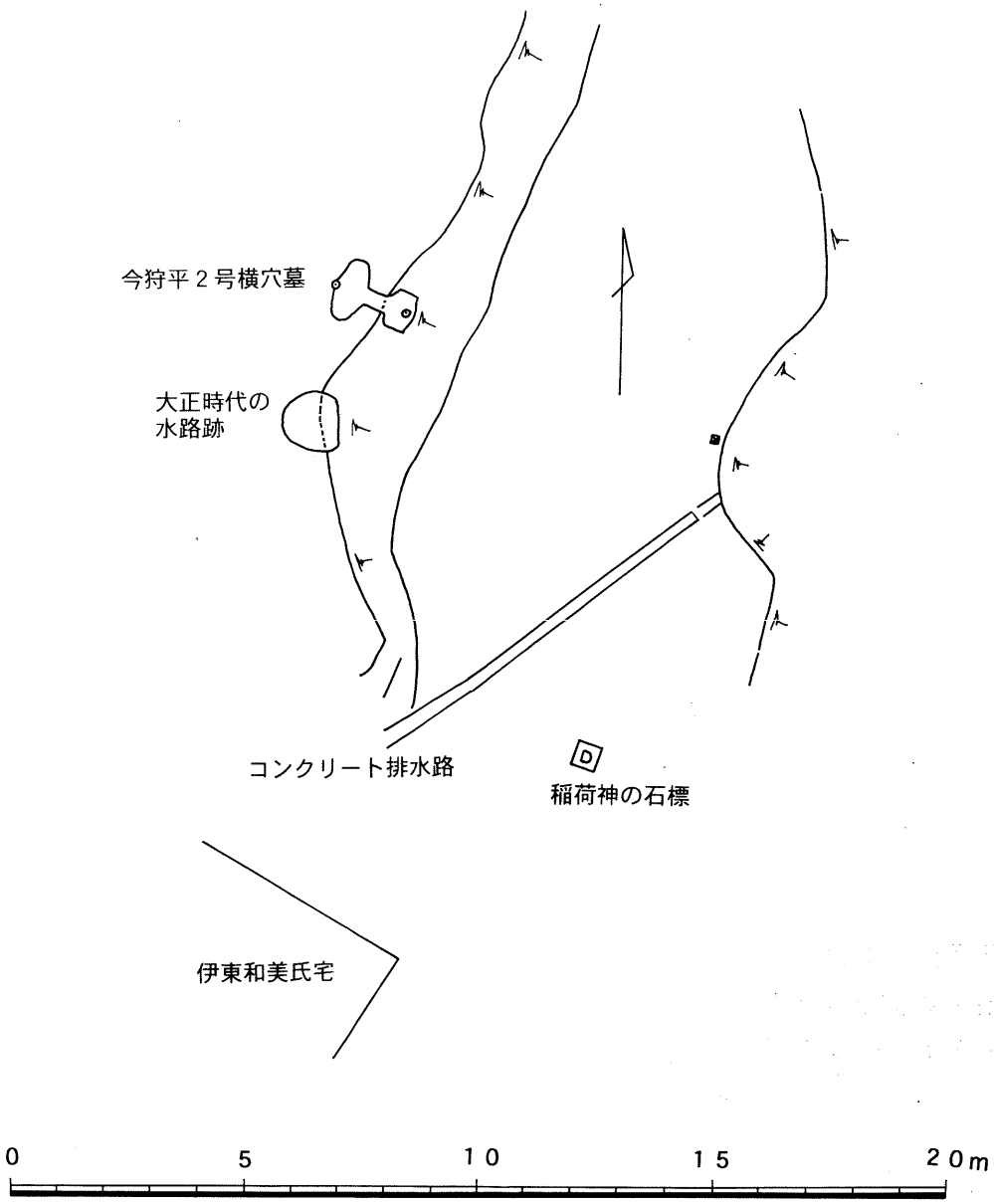
②「梶原の古穴のもとに建る碑に 明治33年
もののふの あるしはきえて 無き跡の 志るしに建る これの石ふみ」
文政12年（1829）８月１日肥後の国阿蘇郡野尻村（今の熊本県阿蘇郡高森町野尻）に生まれ、熊本・宮崎・大分県内に2,000を越す道標を建設し、歌を読んだ甲斐有雄翁の日記から、田原梶原平横穴の前で読んだ歌が見つかった。このことは、平成７年（1995）２月24日に冨高則夫氏が発刊された「広野の灯（甲斐有雄翁伝）」の283頁に記されている。実際、田原梶原平横穴には「明治32年12月９日 慰霊塔 施主横光元明」とある石碑があり、裏面には甲斐有雄翁の作と見られる当て字混じりの和歌が彫られている。風化が激しく、二つに折れているため、はっきりと解読は難しいが、冨高則夫氏著「甲斐有雄翁彫刻写真集」1997年によると「有雄」「いつの世にい津聯の人の埋めけ舞朽ぬ哀を残すものの具」とある。（第２１図）
「高千穂町古墳台帳」には、田原地区の横穴墓としてはこの田原梶原平横穴墓の名前は見られないことから、明治32年頃と昭和44年頃の農地整理の際に破壊を受けたようである。
高千穂町田原字梶原平在住の内倉信吾（現・高千穂町収入役）氏が高千穂町コミュニティセンター（歴史民俗資料館）に寄贈された内倉肇氏採集の田原梶原平横穴墓出土と言われる鉄鏃（第２２図）も、出土位置が正確にわかるものではないが、田原の梶原平に横穴墓があったことは間違いないようである。

Ⅲ．遺跡の概要

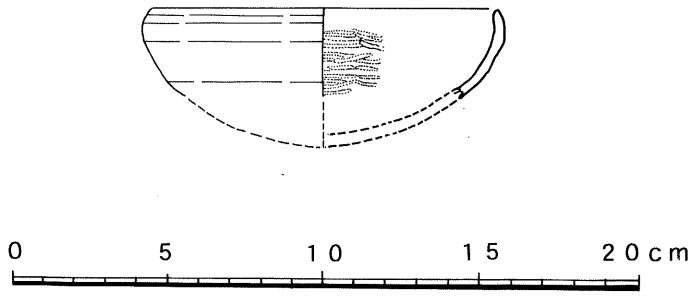
今狩平横穴墓群第２号横穴墓は、伊東和美氏宅の裏山にあり、昭和44年に沢武人氏が実測した横穴墓（「１号横穴墓」）とは標高差がおよそ10m高い位置にある。ちなみに沢武人氏調査の横穴墓のあったとされる道の脇には現在、地元の方によって「今狩大明神」



第23図　今狩平横穴墓群周辺地形図
（縮尺＝１／２，５００）



第24図　今狩平横穴墓群２号横穴墓位置図
（縮尺＝１／２００）



第25図　今狩平横穴墓群２号横穴墓流出土中採集の土師器実測図
（縮尺＝１／３）

なる慰霊碑が建立されている。

主軸は、ほぼ東西方向で東に開口する。閉塞石がズレ落ち、横穴が開口したため発見された。天井部が崩落した可能性もあるものの、それでもなお平面形に対して立面形が異常に高いという特徴がある。

Ⅳ．調査の経過

調査は、玄門前面及び玄室内に溜まった土砂を除去し、ふるいを使って遺物の発見を試みた。その結果、玄門前面に流出した土砂の中から土師器の椀形土器片１点を発見した。

Ⅴ．調査の結果

遺構

横穴墓（第２６図、図版２５）

玄室は平面形が楕円形で、両方に三角形の枕が付き、枕の高さでは三ヶ月形の平面形である。玄室は、幅180ｃｍ×奥行66ｃｍ×高さ190ｃｍを計る。羨道の幅56ｃｍ、羨道の長さ40ｃｍ。羨道の高さは、崩れていて不明であるが、閉塞石の高さ前後と推定される。天井部が崩落した可能性もあるものの、平面形に対して立面形が異常に高い特殊なタイプの横穴墓である。

遺物

閉塞石（第２７図、図版２５）

高さ84ｃｍ×幅69ｃｍ×厚さ22ｃｍ、阿蘇凝灰岩であるが、横穴が掘られた崖よりは堅い石であるため、他の場所から運んだ可能性が高い。

土師器（第２５図、図版２６）

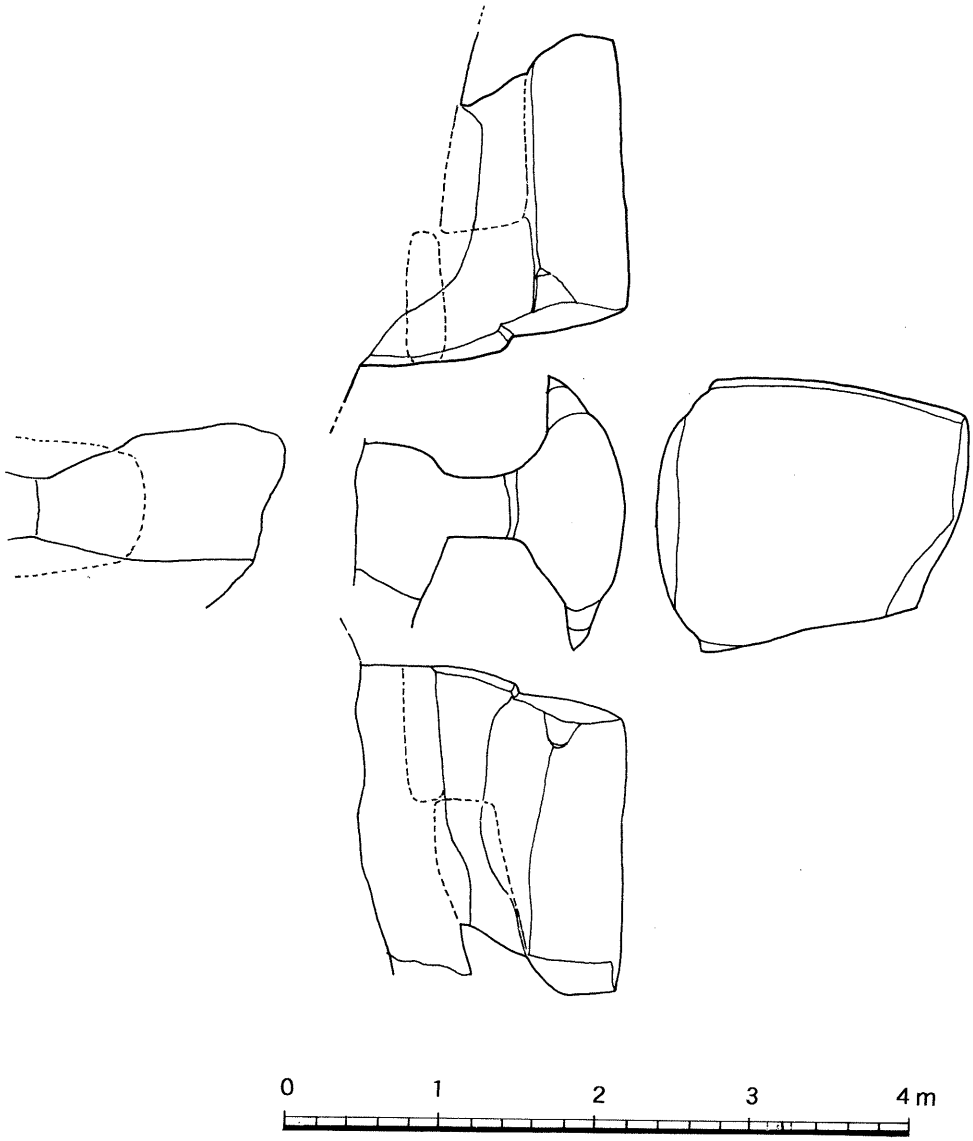
玄門前面に流出した土砂の中から出土した土器の破片である。椀の口縁の破片で口径11.8ｃｍ、現存高2.9ｃｍを計る。

色調は、外面が橙（Hue2.5YR6/6）、内面が橙（Hue2.5YR6/8）、断面が橙（Hue5YR7/8）である。胎土は緻密で焼成は良好である。内面はヘラミガキ、外面はヨコナデを施す。

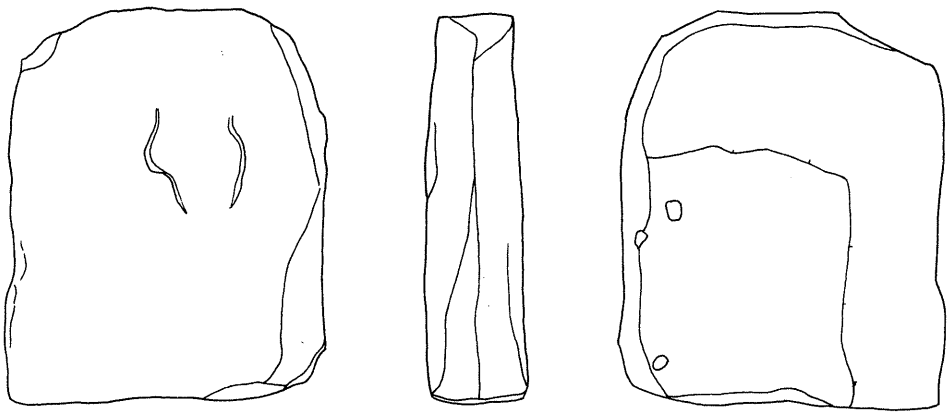
Ⅵ．まとめ

集中豪雨による偶然の発見であったが、地権者でもある伊東和美氏の通報とご協力によって、発掘調査ができたことは幸いであった。

小さな平面形、背が高い立面形等、どれをとっても特殊な横穴墓であり、土器の年代から考えても終末期の特殊な例であろう。将来の周辺での調査が期待される。



第26図　今狩平横穴墓群第２号横穴墓遺構実測図
（縮尺＝１／６０）



第27図　今狩平横穴墓群２号横穴墓閉塞石実測図
（縮尺＝１／２０）

Ⅶ. Summary

Imagaribira #2 Tunnel Tomb (今狩平２号横穴墓) is located on western hill of the Kamitabaru(上田原) basin.
The excavation of Imagaribira #2 Tunnel Tomb was carried out in June 1994, by the Takachiho Town Board of Education,following a landslide due to a heavy rain in August 1993.
The following items were discovered during the excavation:
One door stone(閉塞石) and one piece of Haji pottery(土師器).
Imagaribira #2 Tunnel Tomb is believed to date back to the end of Kofun(古墳) Period (from the end of 6th to the beginning of 7th centurey A.D.)
The width of the tomb is narrow with a high ceiling.

遺物観察表

宮ノ前第２遺跡（第２・３次調査）

①遺構記号は次のとおりとした。
ＳＣ＝住居跡、ＳＤ＝溝、ＳＰ＝ピット（柱穴）、ＳＫ＝土壙

②色調は次の文献を参考としている。
(1)農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帳」1994年
(2)PANTONE by Letraset Color Products Selector,1989

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
1	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：— 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3)	密（径4mm前後の長石、径!mm未満の石英・白雲母混。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
2	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：— 断面：黒(Hue5YR2/1) 内面：灰褐(Hue5YR4/2) ～黒(Hue11)0YR1.7/1)	密（径1～2mmの白雲母・長石・カクセン石を若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
3	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：橙(Hue7.5YR7/6) 断面：橙(Hue7.5YR7/6) ～褐灰(Hue5YR6/1) 内面：橙(Hue7.5YR7/6)	密（径1～2mmの石英・長石・チャート・白雲母含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
4	黒色土	弥生土器	壷or甕	外面：灰赤(Hue2.5YR4/2) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/3) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/3)	密（径1mm前後のカクセン石・長石わずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：上部はユビオサエ、下部はナデ。
5	黒色土	弥生土器	壷or甕	外面：赤褐(Hue2.5YR4/8) 断面：赤褐(Hue2.5YR4/8) 内面：赤褐(Hue2.5YR4/8)	密（径1～2mmの白雲母・長石・カクセン石を若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
6	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：暗赤褐(Hue2.5YR3/2) 煤：赤褐(Hue2.5YR1.7/1) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	密（白雲母多い）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
7	黒色土	弥生土器	壷or甕	外面：橙(Hue7.5YR6/6) 断面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3) 内面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3)	緻密（径1mm未満の長石混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
8	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3) 断面：赤褐(Hue2.5YR4/6) 内面：褐(Hue7.5YR4/3))	やや粗（径1～2mmの石英・長石多い。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
9	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：灰褐(Hue7.5YR4/2) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR4/4) 内面：黒(Hue7.5YR1.7/1)	密（径1mm前後の長石・白雲母をわずかに含む。	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
10	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：— 断面：明赤褐(Hue5YR5/6) 内面：明赤褐(Hue5YR5/6)	密（径1～2mmの石英・白雲母をわずかに含む。）	良	外面：— 内面：ナデ
11	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：赤褐(Hue5YR4/6) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4)	密（径1～2mmの石英・白雲母を極わずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
12	黒色土	土師器	坏or椀	外面：橙(Hue5YR7/6) 断面：橙(Hue5YR7/6) 内面：橙(Hue2.5YR6/6)	緻密（目立った砂粒は見られない。）	良	外面：ヘラケズリ後、ヨコナデ 内面：ミガキ
13	黒色土	弥生土器	甕	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 断面：にぶい橙(Hue5YR6/4) 内面：にぶい橙(Hue5YR6/4)	密（径1mm前後の石英・長石をわずかに含む。	良	外面：ハケ目（３条／cm） 内面：ナデ
14	黒色土	弥生土器	甕	外面：橙(Hue5YR6/6) 断面：橙(Hue5YR6/6) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR7/3)	密（径1mm前後の石英多い。）	良	外面：ハケ目（４～５条／cm） 内面：ナデ

表１２．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その１）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
１５	黒色土	土師器	坏蓋	外面：にぶい黄橙(Hue10YR6/3) 断面：にぶい黄橙(Hue10YR6/3) 内面：黒(Hue10YR2/1)	緻密（目立った砂粒は見られない。）	良	外面：上部ミガキ 下部ヨコナデ 内面：ヨコナデ
１６	黒色土	土師器	椀	外面：橙(Hue2.5YR6/8) 断面：橙(Hue2.5YR6/8) 内面：橙(Hue2.5YR6/8)	緻密（目立った砂粒は見られない。）	良	外面：ミガキ 内面：ミガキ
１７	黒色土	須恵器	坏身	外面：灰(HueN6/0) 断面：灰(HueN6/0) 内面：灰(HueN6/0)	緻密（径1mm前後の長石を若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
１８	黒色土	須恵器	坏蓋 or 坏身	外面：灰(HueN5/0) 断面：灰(HueN5/0) 内面：灰(HueN5/0)	密（径1～2mmの長石をわずかに含む。）	良	外面：回転ヘラケズリ 内面：ヨコナデ 後ナデ
１９	黒色土	須恵器	坏蓋	外面：黒褐(Hue10YR3/2) 断面：黒褐(Hue10YR3/2) 内面：黒褐(Hue10YR3/2) ～黒(Hue10YR1.7/1)	緻密（径1mm未満の長石・石英をわずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２０	黒色土	須恵器	甕	外面：灰オリーブ(Hue5Y6/2) 断面：灰オリーブ(Hue5Y6/2) 内面：灰オリーブ(Hue5Y6/2)	緻密（径1mm前後の長石を若干含む。）	良 好	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２１	黒色土	近世陶磁器	碗	外面：オリーブ灰(Hue10Y5/2) ～オリーブ灰(Hue10Y3/2) 断面：灰(HueN5/0) 内面：オリーブ灰(Hue10Y5/2) ～オリーブ灰(Hue10Y3/2)	緻密（とくに目立った砂粒は見られない。）	良 好	内面中央の花紋と高台底部は黒色。 外面：ヨコナデ 施釉。 内面：ヨコナデ 施釉。
２２	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：明赤灰(Hue2.5YR5/6) 断面：明赤灰(Hue2.5YR5/6) 内面：明赤灰(Hue2.5YR5/6)	密（径1mm前後の石英・カクセン石を若干含む。）	良	外面：口縁上面に３条の凹線巡る。 ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２３	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/3) 内面：赤褐(Hue2.5YR4/6)	やや粗（径1～5mmの石英・長石・白雲母を多く含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２４	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) ～極暗赤褐(Hue2.5YR2/2) 内面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1)	密（白雲母多い。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２５	ＳＣ０１	弥生土器	甕	外面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 断面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR7/3)	密（径1mm前後の石英若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２６	ＳＣ０１	土師器	甕	外面：黒(Hue10YR1.7/1) 断面：褐(Hue7.5YR4/3) 内面：褐(Hue7.5YR4/3)	密（径1mm前後の石英・白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２７	ＳＣ０１	土師器	甕	外面：赤褐(Hue2.5YR4/8) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/5)	緻密（極わずかに白雲母混。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ

表１３．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その２）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
２８	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4)	密（径1mm前後の石英・白雲母わずかに含む。）	良	外面：１条の凹線を巡らせる。 ナデ 内面：ナデ
２９	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR6/4)	密（径1mm前後のカクセン石・石英を若干含む。）	良	外面：１条の凹線を巡らせる。 ナデ 内面：ナデ
３０	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 内面：赤褐(Hue5YR4/6)	密（径1mm前後のカクセン石・石英・白雲母を若干含む。）	良	外面：１条の凹線を巡らせる。 ヨコナデ 内面：ヨコナデ
３１	ＳＣ０１	縄文土器	浅鉢	外面：にぶい橙(Hue7.5YR7/4) ～赤褐(Hue2.5YR4/8) 断面：灰褐(Hue7.5YR5/2) 内面：灰褐(Hue7.5YR5/2)	密（径1mm前後の黒色チャートをわずかに含む。）	良	外面：上下に凹線を巡らせる。 中央に単節縄文を巡らせる。
３２	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 内面：黒(Hue7.5YR1.7/1)	密（径1～mm前後の石英・長石・白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
３３	ＳＣ０１	土師器	甕	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 煤：黒(Hue7.5YR1.7/1) 断面：灰褐(Hue7.5YR4/2) 内面：黒(Hue7.5YR1.7/1)	緻密（径1mm未満の白雲母わずかに混。）	良	外面：くびれ部に指おさえ。 片部はナデ。 内面：くびれ部にヨコナデ。 下部はナデ。
３４	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：褐(Hue7.5YR4/6) 断面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3) 内面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4)	密（径1mm前後の石英・白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコ方向に条痕紋？あり。
３５	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：灰褐(Hue7.5YR5/2) 断面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3) 内面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3)	密（径1mm前後の石英を極少量含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ 指圧痕あり
３６	ＳＣ０１	弥生土器	甕	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 内面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1)	密（径1mm未満の白雲母・長石・石英をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
３７	ＳＣ０１	弥生土器	甕	外面：煤黒(Hue7.5YR1.7/1) 断面：褐(Hue7.7YR4/6) 内面：黒褐(Hue7.5YR3/2)	密（径1mm前後のカクセン石・石英含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
３８	ＳＣ０１	弥生土器	甕	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 断面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3) 内面：褐(Hue7.5YR4/6) ～黒(Hue7.5YR1.7/1)	密（径1mm前後の石英・白雲母含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
３９	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 断面：黒褐(Hue7.5YR2/2) ～にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 内面：黒褐(Hue7.5YR2/2)	密（径1mm前後の白雲母を極少量に含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ

表１４．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その３）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
４０	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：黒(Hue7.5YR1.7/1) 断面：灰褐(Hue7.5YR4/2) 内面：黒褐(Hue7.5YR2/2)	緻密（径1mm前後の石英・白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
４１	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 断面：にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 内面：黒(Hue7.5YR2/1)	密（径2mm前後の石英、径1mm未満のカクセン石・白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
４２	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 断面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 内面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4)	密（径1mm前後の石英・カクセン石・白雲母混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
４３	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：黒褐(Hue7.5YR2/2) 断面：赤褐(Hue5YR4/6) 内面：赤褐(Hue5YR4/6)	密（径1～2mmの石英・長石・カクセン石をわずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
４４	ＳＣ０１	弥生土器	甕	外面：暗赤褐(Hue5YR3/3) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4)	密（径1mm前後の石英・長石・カクセン石わずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
４５	ＳＣ０１	弥生土器	甕	外面：赤褐(Hue5YR4/6) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR4/3) 内面：赤褐(Hue5YR4/6)	密（径1mm前後の石英・カクセン石・白雲母混。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
４６	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：明赤褐(Hue5YR5/8) 断面：明赤褐(Hue5YR5/8) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR6/4)	密（径1mm前後の石英・白雲母・カクセン石混。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
４７	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：褐(Hue10YR4/6) 断面：にぶい黄橙(Hue10YR5/4) 内面：黒褐(Hue10YR3/2)	密（径1～2mmの石英を若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
４８	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4)	やや粗い。（径1～2mmの石英・長石・カクセン石・白雲母多い。）	あまい	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
４９	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：赤褐(Hue5YR4/6) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4)	密（径1mm未満カクセン石・長石・極わずかに含む。	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
５０	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：赤(Hue10R4/6) 断面：赤褐(Hue10R4/4) 内面：赤黒(Hue10R1.7/1)	密（径1mm前後の白雲母・長石混。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
５１	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：赤黒(Hue10P2/1) 断面：赤(Hue10R5/6) 内面：赤(Hue10R5/6)	密（径1mm前後の石英・長石多く含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
５２	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：極暗赤褐(Hue10R2/2) 断面：赤(Hue10R5/6) 内面：赤黒(Hue10R2/2)	緻密（白雲母を極わずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
５３	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：黒(Hue10YR2/1) 断面：暗赤褐(Hue2.5YR3/3) 内面：暗赤褐(Hue2.5YR3/3)	密（径1mm前後の石英・白雲母若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
５４	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：にぶい橙(Hue5YR6/4) 断面：橙(Hue5YR6/6) 内面：橙(Hue5YR6/6)	密（径1mm未満の石英・長石を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ

表１５．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その４）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
５５	ＳＣ０１	弥生土器	甕	外面：赤褐(Hue5YR4/8) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR4/3) 内面：褐灰(Hue5YR4/1)	密（径1mm未満カクセン石をわずかに含む。	良	外面：ナデ 内面：ナデ
５６	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：赤褐(Hue5YR4/6) 断面：赤褐(Hue5YR4/6) 内面：黒(Hue5YR1.7/1)	密（径1mm未満白雲母・石英をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
５７	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：— 断面：にぶい橙(Hue5YR6/4) 内面：にぶい橙(Hue5YR6/4)	密（径1mm未満白雲母・石英をわずかに含む。）	良	外面：— 内面：ヨコナデ
５８	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい橙(Hue5YR6/4) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 内面：褐灰(Hue5YR5/1)	密（径1～2mmの長石をわずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
５９	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：暗赤褐(Hue5YR3/4) 断面：極暗赤褐(Hue5YR2/3) 内面：黒(Hue5YR1.7/1)	密（径1mm未満白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
６０	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：赤褐(Hue5YR4/8) 断面：赤褐(Hue5YR4/8) 内面：黒褐(Hue5YR3/1)	密（径1～2mmの石英・長石・カクセン石・白雲母を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：丁寧なナデ
６１	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：黒(Hue5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：明赤褐(Hue5YR5/6)	密（径1mm前後の長石・カクセン石を極わかに含む。	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
６２	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 内面：灰褐(Hue5YR4/2)	密（径1～2mmの石英・白雲母を若干混。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
６３	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：橙(Hue5YR6/6) 断面：灰褐(Hue5YR4/2) 内面：赤褐(Hue5YR4/6)	緻密（径5mmの長石・径1mm前後の石英・白雲母混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
６４	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：橙(Hue7.5YR7/6) 断面：にぶい橙(Hue7.5YR7/4) 内面：にぶい褐(Hue7.5YR6/3)	密（径1mm前後の石英を極わずかに含む。）	良好	外面：ナデ 内面：ナデ
６５	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：黒(Hue7.5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	密（径1～3mmの石英・長石・白雲母を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
６６	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/3) 内面：灰赤(Hue2.5YR4/2)	緻密（径2～3mmの茶色粒子若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
６７	ＳＣ０１	縄文土器	深鉢	外面：暗赤褐(Hue2.5YR3/4) 断面：にぶい橙(Hue2.5YR3/4) 内面：橙(Hue2.5YR6/6)	密（径1mm前後の長石・カクセン石をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
６８	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：暗赤褐(Hue2.5YR3/4) 断面：にぶい橙(Hue2.5YR6/3) 内面：にぶい橙(Hue2.5YR6/4)	密（径1mm前後の石英・白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
６９	ＳＣ０１	弥生土器	甕	外面：暗赤褐(Hue2.5YR3/2) 断面：にぶい橙(Hue2.5YR6/4) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	密（径1～2mmの石英・白雲母多く含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ

表１６．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その５）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
７０	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：暗赤褐(Hue2.YR3/4) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	密（径1～3mmの石英・白雲母若干混。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
７１	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：暗赤褐(Hue2.5YR3/4) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3)	密（径1～2mmの石英・長石・白雲母を多く含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
７２	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：橙(Hue7.5YR7/6) 断面：橙(Hue7.5YR7/6) 内面：にぶい橙(Hue7.5YR6/4)	密（径1mm未満の石英・長石を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
７３	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：浅黄橙(Hue7.5YR8/4) 断面：灰(HueN4/0) 内面：浅黄橙(Hue7.5YR8/4)	密（径1～2mmの石英・チャート片を含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
７４	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/3) 断面：灰赤(Hue2.5YR4/2) 内面：極暗赤褐(Hue2.5YR2/2)	密（径1mm前後の石英・白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
７５	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：橙(Hue2.5YR6/6) 内面：灰赤(Hue2.5YR5/2)	密（径1mm未満の石英長石・白雲母を若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
７６	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：極暗赤褐(Hue2.5YR2/2) 断面：暗赤褐(Hue2.5YR3/4) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	緻密（径1mm未満の石英・長石・白雲母・カクセン石若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
７７	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：橙(Hue2.5YR6/6) 断面：橙(Hue2.5YR6/6) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	密（径1mm前後の白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
７８	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/3)	密（径1～2mmの石英・・長石・白雲母を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
７９	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 煤：黒(Hue10YR2/1) 断面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4)	緻密（径1mm前後の石英極わずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
８０	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：橙(Hue7.5YR7/6) 断面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR7/3)	密（径2～4mmの石英極わずかに混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
８１	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	密（径2～4mmの石英極わずかに混。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
８２	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：橙(Hue2.5YR6/6>) 断面：橙(Hue2.5YR6/6>) 内面：橙(Hue2.5YR6/6>)	密（径1mm前後の白雲母をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
８３	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：極暗赤褐(Hue2.5YR2/2)	密（とくに目立った細砂を含まない。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
８４	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：橙(Hue5YR6/6) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3)	密（径1mm未満のカクセン石混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ

表１７．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その６）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
８５	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：黒(Hue5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4)	密（径1mm未満の長石を極わずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
８６	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい黄橙(Hue10YR6/4) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/3) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	密（径1mm未満の長石・白雲母を極わずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
８７	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：赤(Hue10R4/6) 断面：赤(Hue10R4/6) 内面：赤黒(Hue10R1.7/1)	密（径1mm前後の石英・白雲母混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
８８	ＳＣ０１	弥生土器 須玖式 鋤先口縁	壷	外面：橙(Hue5YR6/8) 断面：橙(Hue7.5YR7/6) 内面：橙(Hue7.5YR7/6)	緻密（径1mm未満のカクセン石多く含む。径3～4mmの石英混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
８９	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：浅黄橙（Hue7.5YR8/4) 断面：浅黄橙(Hue7.5YR8/4) ～浅黄橙(Hue7.5YR8/3) 内面：浅黄橙(Hue7.5YR8/3)	緻密	良	外面：ヨコナデ 縦方向ハケ目 （3～4条／cm) 内面：ヨコナデ
９０	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：暗赤褐(Hue5YR3/3) 断面：暗赤褐(Hue5YR3/3) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) ～赤黒(Hue2.5YR1.7/1)	密（径1mm前後の石英・長石若干含む。）	良	外面：縦方向ハケ目（3～4条／cm) 内面：ナデ
９１	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい赤褐(Hue10YR7/4) 断面：にぶい赤褐(Hue10YR6/4) 内面：にぶい赤褐(Hue10YR6/4)	密（白雲母を若干含む。）	良	外面：右下がりの斜め方向のハケ目 （3～4条／cm) 内面：ヨコナデ
９２	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：橙(Hue5YR6/6) 断面：橙(Hue5YR6/6) 内面：褐灰(Hue7.5YR4/1)	密（径1～3mmの長石・金雲母をわずかに含む。）	良	外面：右下がりの斜め方向のハケ目 （５条／cm) 内面：左下がりの斜め方向のハケ目 （５条／cm)
９３	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 断面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR5/3)	密（径1～2mmの石英・金雲母若干混。）	良	外面：右下がりの斜め方向のハケ目 （4～5条／cm) 内面：ヨコナデ
９４	ＳＣ０１	弥生土器 頸部突帯	甕	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/8) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：赤黒(Hue2.5YR2/1)	密（径1～2mmの石英・長石・白雲母混。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
９５	ＳＣ０１	弥生土器	甕or壷	外面：灰赤(Hue2.5YR4/2) 断面：灰赤(Hue2.5YR4/2) 内面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1)	密（径1mm未満の石英・白雲母若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
９６	ＳＣ０１	土師器	甕	外面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：赤褐(Hue5YR4/6) 内面：赤褐(Hue5YR4/6)	密（径1mm前後の石英・白雲母・長石を若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
９７	ＳＣ０１	土師器	甕	外面：赤褐(Hue5YR4/8) 断面：赤褐(Hue5YR4/6) 内面：黒褐(Hue5YR2/1)	密（径1～2mmの石英・白雲母若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ

表１８．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その７）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
９８	ＳＣ０１	土師器	坏身	外面：橙(Hue5YR7/6) 断面：にぶい黄橙(Hue10YR6/4) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR6/4)	密（径1mm前後の石英を極わずかに含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
９９	ＳＣ０１	土師器	甕or壷 底部	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 煤：赤黒(HUE2.5YR2/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 内面：赤黒(Hue2.5YR2/1)	密（径5mmの石英若干混。）	良	外面：ナデ 煤付着 内面：ナデ 煤付着
１００	ＳＣ０１	土師器	高坏 坏部？	外面：明赤褐(Hue5YR5/6) 断面：橙(Hue5YR6/6) 内面：橙(Hue5YR6/8)	緻密	良	外面：ミガキ 内面：ミガキ
１０１	ＳＣ０１	土師器	壷	外面：橙(Hue5YR7/6) 断面：にぶい橙(Hue5YR7/4) 内面：にぶい橙(Hue5YR7/4)	密（径1mm前後の石英混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１０２	ＳＣ０１	土師器	甕or壷	外面：にぶい黄橙(Hue10YR7/3) 断面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR7/4)	緻密	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
１０３	ＳＣ０１	土師器	甕or壷 底部	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 煤：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4)	緻密（径1mm未満の石英・金雲母等を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１０４	ＳＣ０１	土師器	坏蓋	外面：赤(Hue10YR5/6) ～灰赤(Hue5YR4/2) 断面：褐灰(Hue5YR4/1) 内面：黒(Hue5YR1.7/1)	緻密	良	外面：上部はヘラ削り後ヨコナデ、下部はヨコナデ。 内面：ミガキ。
１０５	ＳＣ０１	土師器	坏身	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3)	緻密	良	外面：下部はヘラ削り、 上部はヨコナデ。 内面：ヨコナデ
１０６	ＳＣ０１	土師器	丸底壷 底部	外面：にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 断面：にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 内面：にぶい橙(Hue7.5YR6/4)	密（径1～2mmの石英・長石混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ 指おさえ
１０７	ＳＣ０１	土師器	坏 底部	外面：にぶい橙(Hue7.5YR7/4) 断面：にぶい橙(Hue7.5YR7/4) 内面：にぶい橙(Hue7.5YR7/4)	緻密	良	外面：ヘラ切り後ナデ 内面：ミガキ
１０８	ＳＣ０１	須恵器	坏蓋	外面：灰(HueN5/0) 断面：灰(HueN6/0) 内面：灰(HueN6/0)	緻密（径1mm前後の長石若干含む。）	良好	外面：上部はナデ 下部はヨコナデ 内面：ヨコナデ
１０９	ＳＣ０１	須恵器	坏蓋	外面：明オリーブ灰(Hue2.5GY7/1) 断面：明オリーブ灰(Hue2.5GY7/1) 内面：明オリーブ灰(Hue2.5GY7/1)	緻密	良好	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
１１０	ＳＣ０１	須恵器	坏蓋 or 坏身？	外面：オリーブ灰(Hue2.5GY6/1) 断面：オリーブ灰(Hue2.5GY6/1) 内面：オリーブ灰(Hue2.5GY6/1)	緻密	良好	外面：回転ヘラ削り 内面：ヨコナデ

表１９．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その８）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
１１１	ＳＣ０１	土師器	椀	外面：橙(Hue2.5YR6/8) 断面：橙(Hue2.5YR6/8) 内面：橙(Hue2.5YR6/8)	緻密	良	外面：ヨコナデ 内面：ミガキ
１１２	ＳＣ０１	須恵器	はそう	外面：灰(HueN5/0) 釉：オリーブ灰(Hue10Y4/2) 断面：灰(HueN5/0) 内面：灰(HueN5/0)	緻密	良好	外面：ヨコナデ 自然釉。 内面：ヨコナデ 穿孔部分は、かき取り後未調整
１１３	ＳＫ０２	縄文土器	深鉢	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：橙(Hue2.5YR6/6) 内面：橙(Hue2.5YR6/6)	密（径1～5mmの石英・カクセン石・白雲母等若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：上部はヨコナデ、下部はナデ
１１４	ＳＫ０２	縄文土器	深鉢	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3) 断面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 内面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3)	密（径1～2mmの石英・カクセン石・白雲母等若干含む。）	良	外面：上部は指おさえ、下部はナデ 内面：ヨコナデ
１１５	ＳＫ０２	土師器	椀	外面：橙(Hue2.5YR6/6) 断面：橙(Hue2.5YR6/6) 内面：橙(Hue2.5YR6/6)	緻密	良	外面：ミガキ 内面：ミガキ
１１６	ＳＫ０２	弥生土器	甕	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3) 煤：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：暗赤褐(Hue2.5YR3/2) 内面：暗赤褐(Hue2.5YR3/2)	密（径1～2mmの白雲母・石英を多く含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１１７	ＳＫ０３	土師器	甕	外面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3)	密（径1mm前後の白雲母含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１１８	ＳＫ０３	土師器	甕	外面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4)	密（径1～2mmの石英・長石・白雲母含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
１１９	ＳＫ０３	弥生土器	甕	外面：橙(Hue7.5YR6/6) 断面：にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 内面：橙(Hue7.5YR6/6)	密（径1～2mmの石英・長石含む。）	良	外面：左下がりのハケ目（6条/cm） 内面：ナデ
１２０	ＳＫ０３	縄文土器	深鉢	外面：橙(Hue2.5YR6/8) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	密（径1mm前後の長石混。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
１２１	ＳＫ０３	縄文土器	深鉢	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 内面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1)	密（径1mm前後の長石・白雲母等若干混。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
１２２	ＳＫ０３	土師器	壷 口縁部	外面：橙(Hue5YR7/6) 断面：橙(Hue5YR7/6) 内面：橙(Hue5YR7/6)	緻密（径1mm前後の赤茶色粒を含む。）	良好	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
１２３	ＳＫ０３	土師器	椀	外面：橙(hue2.5YR6/8) 断面：橙(hue2.5YR6/8) 内面：橙(hue2.5YR6/8)	緻密（径1mm前後の石英粒を極わずかに含む。）	良好	外面：ヘラ削り後ナデ 内面：ミガキ
１２４	ＳＫ０３	製塩土器	焼塩壷 森田勉氏分類 IIa類	外面：浅黄橙(Hue10YR8/3) 断面：浅黄橙(Hue10YR8/3) 内面：浅黄橙(Hue10YR8/3)	緻密。	良	外面：ナデ 内面：上部はナデ 下部は布痕有り。

表２０．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その９）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
１２５	ＳＣ０１ ピットａ 柱痕	弥生土器	甕	外面：浅黄橙(Hue10YR8/4) 断面：浅黄橙(Hue10YR8/4) 内面：浅黄橙(Hue10YR8/4)	密（径1～2mmの石英・長石若干含む。）	良好	外面：上部に右下りのハケ目（2～3条／cm)、下部はヨコナデ。 内面：ナデ
１２６	ＳＣ０１ ピットａ 裏込め	弥生土器	甕	外面：橙(Hue7.5YR7/6) 断面：橙(Hue7.5YR7/6) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR6/4)	密	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１２７	ＳＣ０１ ピットｆ 柱痕	弥生土器	甕	外面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3)	緻密（径1～2mmの長石・カクセン石・白雲母若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
１２８	ＳＣ０１ ピットｆ 裏込め	弥生土器	甕	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 断面：橙(Hue5YR6/6) 内面：灰褐(Hue7.5YR4/2)	密（白雲母多く含む。カクセン石若干混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１２９	ＳＣ０１ ピットｈ 上層	土師器	甕	外面：黒(Hue5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR4/3) 内面：黒褐(Hue5YR3/1)	密（径1～2mm前後の石英を極わずかに混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１３０	ＳＣ０１ ピットｈ 上層	土師器	甕	外面：黒褐(Hue5YR2/1) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3)	密（径1mm前後の石英・白雲母若干混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１３１	ＳＣ０１ ピットｈ 上層	土師器	甕	外面：黒褐(Hue5YR3/1) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 内面：黒褐(HueYR2/1)	密（わずかに白雲母を混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１３２	ＳＣ０１ ピットｋ 裏込め	土師器	甕	外面：赤黒(Hue2.5YR2/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/3) 内面：橙(Hue2.5YR6/6)	密（極わずかに金雲母混。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ

表２１．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土土器観察表（その１０）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	法量・重量・材質・色調	備考
１３３	黒色土	打製石器	石包丁状石器	法量：6.7cm×3.9+αcm×0.8cm 重量：27.13g 材質：粘板岩 色調：暗青灰(Hue5PB4/1) ～暗紫灰(Hue5RP4/1)	
１３４	ＳＣ０１	磨製石器	石鏃未製品	法量：4.1cm×2.7cm×0.5cm 重量：4.13g 材質：砂岩 色調：オリーブ灰(Hue5GY6/1)	
１３５	ＳＣ０１ ピットｇ	打製石器	剥片	法量：1.8cm×1.8cm×0.2cm 重量：0.48g 材質：黒曜石（姫島産か？） 色調：透明で灰白(HueN7/0)	スクレーパーとして利用された可能性大。

表２２．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土石器観察表（その１）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	法量・重量・材質・色調	備考
１３６	ＳＣ０１	磨製石器	刷石	法量：4.2cm×3.4cm×1.1cm 重量：16.38g 材質：花崗岩 色調：緑灰(Hue7.5GY6/1) ～にぶい赤褐(Hue7.5R4/3)	刷石として利用された後で、割れた破片。 火を受けたらしく、断面が赤変している。
１３７	ＳＣ０１	磨製石器	石包丁	法量：2.2+αcm×2.5+αcm×0.35cm 重量：2.23g 材質：粘板岩 色調：暗青灰(hue5PR4/1)	
１３８	ＳＣ０１	鉄器	ベルト状金具	法量：2.8+αcmcm×0.6cm×0.35cm （錆を除いた本体の大きさ） 重量：3.16g（錆を含んだ重さ） 色調：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4)	

表２３．宮ノ前第２遺跡第２次調査（ＭＹ２－２）出土石器観察表（その２）及び鉄器観察表

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
1	表土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 断面：黒褐(Hue10YR3/1) 内面：灰黄褐(Hue10YR5/2)	密（径1～2mmの石英・カクセン石・白雲母等多く含む。）	良	外面：ナデ 中央部の横方向に１条の凹線巡る。 内面：上部は右下りのミガキ（2～3条/cm)。下部はヨコナデ。
2	表土	縄文土器	深鉢	外面：橙(Hue7.5YR6/6) 断面：橙(Hue7.5YR7/6) 内面：橙(Hue7.5YR7/6)	やや粗（径1～2mmの石英・長石等多く含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
3	表土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい赤褐(Hue5YR4/3) 断面：明赤褐(Hue5YR5/8) 内面：黒(Hue5TR1.7/1)	密（径1～2mmの石英・カクセン石・白雲母等極わずかに混。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
4	表土	縄文土器	深鉢	外面：灰褐(Hue5YR5/2) 断面：灰褐(Hue5YR4/2) 内面：黒(Hue5YR1.7/1)	緻密	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
5	表土	縄文土器	深鉢	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) ～にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	やや粗（径1mm前後の長石・カクセン石・白雲母を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
6	表土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/3) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) ～赤灰(Hue2.5YR4/1) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	やや粗（径1mm前後の石英・長石目立つ。）	あまい	外面：ナデ 内面：ナデ
7	表土	縄文土器	深鉢	外面：橙(Hue2.5YR6/8) 断面：橙(Hue2.5YR6/8) 内面：橙(Hue2.5YR6/8)	密	良	外面：ナデ 内面：ナデ

表２４．宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ２－３）出土土器観察表（その１）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
8	表土	縄文土器	深鉢	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 内面：暗赤褐(Hue2.5YR3/2)	密（径1～2mmの長石・カクセン石を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
9	表土	縄文土器	浅鉢	外面：橙(Hue5YR7/6) 断面：にぶい橙(Hue5YR7/4) 内面：にぶい橙(Hue5YR7/4)	密（径1mm前後の石英・長石をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１０	表土	縄文土器	深鉢	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：赤褐(Hue2.5YR4/8) 内面：極暗赤褐(Hue2.5YR2/2)	密（特に目立った細砂なし。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１１	表土	縄文土器	深鉢	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：赤灰(Hue2.5YR4/1) 内面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1)	緻密（径1mm前後の石英・白雲母を含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
１２	表土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3)	密（極わずかに白雲母混。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
１３	表土	弥生土器	壷or甕	外面：にぶい赤褐(Hue2.5YR4/4) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	密（径1～2mmの石英・長石・白雲母混。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
１４	表土	土師器	壷or甕	外面：にぶい橙(Hue7.5YR7/4) 断面：にぶい橙(Hue7.5YR7/4) ～灰褐(Hue7.5YR5/2) 内面：灰褐(Hue7.5YR5/2)	やや粗（径1～2mmの石英・長石若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ケズリ
１５	表土	縄文土器	深鉢	外面：黒(Hue7.7YR1.7/1) 断面：灰褐(Hue7.5YR4/2) 内面：黒褐(Hue7.5YR2/2)	密（白雲母多い。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
１６	表土	弥生土器	壷 口縁部	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：灰褐(Hue5YR4/2) ～黒褐(Hue5YR2/1) 内面：灰褐(Hue5YR4/2)	密（径1～2mmの石英・長石・白雲母混。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ 一部指押え痕有り
１７	表土	弥生土器	甕 口縁部	外面：黒褐(Hue5YR2/1) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR4/3)	緻密	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
１８	表土	縄文土器	浅鉢 底部	外面：浅黄橙(Hue10YR8/3) 断面：浅黄橙(Hue10YR8/3) 内面：にぶい黄橙(Hue10YR7/3)	密（径1m前後のカクセン石極若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ミガキ （３条/cm）
１９	表土	弥生土器	甕 口縁部	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/8) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/8) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/8)	密（径1～2mmの石英・長石若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２０	表土	縄文土器	浅鉢 底部	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 内面：赤黒(Hue2.5YR2/1)	密（径1～2mmの石英・長石若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
２１	表土	土師器	小皿 底部	外面：灰褐(Hue5YR4/2) 断面：灰褐(Hue5YR5/2) 内面：灰褐(Hue5YR5/2)	密（径1mm前後の石英・長石若干含む。）	良	外面：ヘラ切り 内面：ヨコナデ

表２５．宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ２－３）出土土器観察表（その２）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
２２	表土	弥生土器 黒髪式	甕 鋤先状 口縁部	外面：浅黄橙(Hue7.5YR8/4) 断面：にぶい橙(Hue7.5YR7/3) 内面：にぶい褐(Hue7.5YR6/2)	密（径1～2mmの石英・長石若干含む。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
２３	表土	土師器	坏身 口縁部 （立ち上がり部）	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 煤：黒(Hue7.5YR1.7/1) 断面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 内面：にぶい褐(Hue7.5YR5/4) 煤：黒(Hue7.5YR1.7/1)	緻密	良好	外面：ミガキ（３条/cn） 内面：ミガキ（９条/cn）
２４	表土	須恵器	坏蓋	外面：灰(HueN5/0) 釉：灰オリーブ(Hue7.5Y5/2) 断面：灰(HueN5/0) 内面：灰(HueN5/0)	緻密	良好	外面：ヘラ削り 内面：ヨコナデ
２５	表土	須恵器	壷 胴部	外面：灰(hueN5/0) 断面：灰(hueN5/0) 内面：灰(hueN5/0)	緻密（径1mm前後の長石を極わずかに混。）	良好	外面：縦方向平行叩きの後、横方向カキ目。 内面：同心円工具で青海波叩き。
２６	表土	製塩土器	焼塩壷 森田勉氏分類 IIb類	外面：橙(Hue5YR7/6) 断面：橙(Hue5YR7/6) 内面：橙(Hue5YR6/6) ～黒褐(Hue5YR2/1)	緻密	良	外面：ナデ 内面：ナデ
２７	表土	現代陶磁器	御飯 茶椀	外面：白色(PANTONE441U) 黒褐(Hue5YR3/1) ピンク(PANTONE203U) 断面：白色(PANTONE441U) 内面：白色(PANTONE441U)	密 法量：口径12.0cm 器高5.0cm 底径5.5cm	良好	外面に手描きで黒褐色とピンクの牡丹の花を描く。
２８	表土	現代陶磁器	盃 (猪口)	外面：白色(PANTONE441U) ピンク(PANTONE217U) 青(PANTONE284U) 断面：白色(PANTONE441U) 内面：白色(PANTONE441U)	密 法量：口径8.0cm 器高3.0cm 底径3.2cm	良好	内面に型紙プリントで５弁の花文を描く。 青色は吹き付け。
２９	表土	現代陶磁器 （洋食器）	コーヒーカップ	外面：緑白色(PANTONE344U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：緑白色(PANTONE344U)	緻密 法量：口径10.2cm 器高3.3＋αcm	良好	外面に凹みで蓮弁を巡らせる。
３０	表土	染付	椀	外面：白色(PANTONE441U) 青(PANTONE5415U) 断面：白色(PANTONE441U) 内面：白色(PANTONE441U)	緻密	良好	外面に手描きで草花文・線文、内面に２条の線文を描く。
３１	表土	現代染付	湯飲み 茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青(PANTONE286U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	密 法量：口径8.0cm 器高3.0＋αcm	良好	外面に型紙プリントで草花文を描く。
３２	表土	現代陶器	椀	外面：緑灰色(PANTONE451U) 断面：灰色(HueN5/0) 内面：緑灰色(PANTONE451U) 黒褐(Hue10YR3/1)	密	良好	内面に黒褐色の２条の線文を描く。

表２６．宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ２－３）出土土器観察表（その３）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
３３	表土	近世染付	椀	外面：灰白色(PANTONE427U) 青色(PANTONE551U) 断面：淡黄色(Hue2.5Y8/3) 内面：灰白色(PANTONE427U) 青色(PANTONE551U) 露胎部：淡黄色(Hue2.5Y8/3)	緻密	良好	内面に青色で１条の線文を描く。 外面は縦方向に多数の線を並べ、下に１条の線文を描く。
３４	表土	白磁 IV×V×VIII	椀	外面：緑灰色(PANTONE414U) 断面：灰白色(PANTONE CoolGrayIU) 内面：緑灰色(PANTONE414U)	緻密	良好	外面の凹みに釉が入り横線状に見える。
３５	表土	現代陶器	大形甕 or 火鉢	外面：灰白色(Hue2.5Y8/1) 断面：暗灰色(HueN5/0) 内面：灰白色(Hue2.5Y8/1) 黒褐色(Hue2.5Y3/1) 灰色(Hue7.5Y4/1)	緻密	良好	口縁部の屈曲部にあたる。屈曲部内面に横線状に３色塗り分けている。
３６	表土	現代陶磁器	皿	外面：灰オリーブ(Hue7.5Y6/2) 褐灰(HueYR4/1) 断面：灰白色(HueN7/0) 内面：灰オリーブ(Hue7.5Y6/2) 褐灰(HueYR4/1) 露胎：灰白色(HueN7/0)	緻密 法量：底径4.8cm	良好	内面見込部に１条の横線を褐灰色で描く。 底部の高台内面に一部鉄釉の垂れた痕がある。
３７	表土	現代陶磁器	椀	外面：灰白色(Hue10Y7/1) 露胎：灰白色(HueN8/0) 断面：灰白色(HueN8/0) 内面：灰白色(Hue10Y7/1) 灰オリーブ(Hue7.5Y4/2) 露胎：灰白色(HueN8/0)	緻密 法量：底径4.8cm	良好	内面見込部に草文を巡らせる。
３８	表土	近世染付	椀	外面：灰白色(Hue2.5Y8/1) 青色(PANTONE551U) 断面：灰白色(Hue2.5Y8/1) 内面：灰白色(Hue2.5Y8/1)	緻密	良好	外面に細かな唐草文を多数描く。
３９	表土	現代染付	湯飲茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE544U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE544U)	緻密	良好	外面に手描きで草花文、内面に手描きで雷文を描く。
４０	表土	現代染付	湯飲茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE287U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE287U)	緻密	良好	型紙プリントで外面に花文を描き内面に２条の線文を描く。
４１	表土	現代染付	花弁状口縁の皿 or 小鉢	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE540U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE540U)	緻密	良好	手描きによって外面及び内面に複雑な文様を描く。

表２７．宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ２－３）出土土器観察表（その４）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
42	表土	現代染付	徳利	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE285U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 釉は外面のみ。	良好	型紙プリントで外面に点による波状の絵を描く。
43	表土	現代染付	湯飲茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE286U)	緻密	良好	型紙プリントで内面に蛸唐草文を描く。
44	表土	現代染付	湯飲茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE286U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE286U)	緻密	良好	型紙プリントで外面に草花文、内面に蛸唐草文を描く。
45	表土	現代染付	湯飲茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE287U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE287U)	緻密	良好	型紙プリントで外面に草花文、内面に蛸唐草文を描く。
46	表土	現代染付	湯飲茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE286U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE286U)	緻密	良好	型紙プリントで外面に草花文及び３つ「く」字文、内面に蛸唐草文及び線文を描く。
47	表土	現代染付	御飯茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE287U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE287U)	緻密	良好	型紙プリントで外面に草花文、内面にも草花文と線文を描く。
48	表土	現代染付	湯飲茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 青色(PANTONE286U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 緑色(PANTONE326U)	緻密	良好	型紙プリントで外面に２条の線文内面に草花文？を描く。
49	表土	現代陶器	花瓶 or 壷	外面：灰白色(Hue7.5Y8/1) 灰オリーブ色(Hue7.5Y6/2) 灰オリーブ色(Hue7.5Y4/2) 断面：灰白色(HueN7/0) 内面：灰色(Hue10Y4/1)	緻密 内外面とも施釉。	良好	外面に波状文を描く。
50	表土	現代陶器	大甕	外面：暗赤灰(Hue2.5YR3/1) 断面：にぶい橙(Hue2.5YR6/4) 内面：暗赤灰(Hue2.5YR3/2)	緻密 内外面とも施釉。	良好	外面：ハケによるヨコナデ 内面：ヨコナデ
51	表土	現代陶器	甕or壷	外面：オリーブ黒(Hue5Y3/2) 断面：灰(Hue5Y6/1) 内面：オリーブ黒(Hue5Y3/2)	緻密 内外面とも施釉。	良好	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ

表２８．宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ２－３）出土土器観察表（その５）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
52	表土	現代陶器 備前焼？	壷	外面：黒褐(Hue5YR2/2) 断面：灰褐(Hue5YR6/2) 内面：灰褐(Hue5YR5/2)	緻密 外面のみ施釉	良好	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
53	表土	現代陶磁器	椀	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 内外面とも施釉。	良好	
54	表土	現代陶磁器	盃 (猪口)	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 内外面とも施釉。	良好	
55	表土	現代陶磁器 赤絵	湯飲 茶碗	外面：赤色(PANTONE173U) 青色(PANTONE284U) 白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 内外面とも施釉。	良好	
56	表土	現代陶磁器 赤絵	湯飲 茶碗	外面：赤色(PANTONE173U) 白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 内外面とも施釉。	良好	
57	表土	現代陶磁器 西洋食器	高台皿	外面：黄緑(PANTONE359U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：黄緑(PANTONE359U)	緻密 内外面とも施釉。	良好	
58	表土	現代陶磁器 口禿	花瓶	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 口唇部をのぞき、 内外面とも施釉。	良好	上下逆で高台の可能製もあるが花瓶の口縁として作図した。
59	表土	現代陶磁器	湯飲 茶碗	外面：青色(PANTONE294U) 茶色(PANTONE159U) 白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU) 赤黒(Hue2.5YR1.7/1)	緻密 内外面とも施釉。 内面に一部、鉄釉が垂れ赤黒色を呈する。	良好	
60	表土	現代陶磁器	湯飲 茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 内外面とも施釉。	良好	
61	表土	現代陶磁器	湯飲 茶碗	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 内外面とも施釉。 釉厚は外面が厚い。	良好	
62	表土	現代陶磁器	徳利	外面：青白色(PANTONE5595U) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 外面のみ施釉	良好	
63	表土	現代陶磁器	盃	外面：白色(PANTONE5665U) 断面：白色(PANTONE5665U) 内面：白色(PANTONE5665U)	緻密 内外面とも施釉。	良好	

表29．宮ノ前第2遺跡第3次調査（MY2－3）出土土器観察表（その6）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
64	表土	現代陶磁器	植木鉢	外面：釉：赤褐(Hue2.5YR4/6) 露胎：赤褐(Hue2.5YR4/8) 断面：露胎：赤褐(Hue2.5YR4/8) 内面：露胎：赤褐(Hue2.5YR4/8)	密（径1～2mmの長石・石英若干含む。） 法量：口径16.0cm 器高2.7＋αcm	良好	外面のみ施釉
65	表土	白磁	壷 or 水注	外面：灰白(Hue10Y8/1) 断面：灰白(Hue10Y8/1) 内面：灰白(Hue10Y8/1)	緻密	良好	外面のみ施釉 磨滅著しい。
66	表土	現代陶磁器	把手破片	外面：緑(PANTONE356U) 断面：灰(Hue7.5Y6/1) 内面：緑(PANTONE356U)	緻密	良好	
67	表土	陶磁製品	土錘 or 水注注口	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 法量：長さ4.7＋αcm 幅1.4cm 孔径0.8cm 重量：8.99g	良好	
68	表土	陶磁製品	ガイシ	外面：白色(PANTONE CoolGray IU) 断面：白色(PANTONE CoolGray IU) 内面：白色(PANTONE CoolGray IU)	緻密 法量：直径4.6cm 孔径1.4cm 厚さ1cm 重量：33.88g	良好	側面のみ施釉。
69	表土	近代瓦	軒平瓦	外面：黒(Hue2.5GY2/1) 断面：灰白(Hue5Y8/1) 内面：黒(Hue2.5GY2/1)	密	良	内面に布目痕。
70	表土	近代瓦	平瓦	外面：黒(Hue2.5GY2/1) 断面：灰白(Hue5Y8/1) 内面：黒(Hue2.5GY2/1)	密（径1～2mmの石英わずかに含む。）	良	側面はヘラ切り。 1枚作り。
71	表土	近代瓦	平瓦	外面：黒(Hue2.5GY2/1) 断面：灰白(Hue5Y8/1) 内面：黒(Hue2.5GY2/1)	密	良	
72	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい褐(Hue7.7YR5/3) 断面：にぶい褐(Hue7.7YR6/3) 内面：にぶい褐(Hue7.7YR6/3)	密（径1～2mmの石英・長石・カクセン石・白雲母若干混。）	良好	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
73	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい橙(Hue7.5YR6/4) 断面：にぶい橙(Hue7.5YR6/3) 内面：にぶい橙(Hue7.5YR6/3)	緻密（白雲母若干混）	良好	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
74	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：黒褐(Hue5YR2/2) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：黒(Hue5YR1.7/1)	粗（径1～2mmの石英やや多い。）	まあ良	外面：ナデ 内面：ナデ
75	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：橙(Hue2.5YR6/6) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	密（径1～2mmの石英・長石・白雲多い。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
76	黒色土	土師器	甕	外面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	粗（径1mm未満の石英・白雲母やや多い。）	良	外面：ナデ 内面：縦方向のケズリ

表30．宮ノ前第2遺跡第3次調査（MY2－3）出土土器・瓦観察表（その7）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
77	黒色土	弥生土器 須玖式丹塗	壷	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：にぶい橙(Hue2.5YR6/3) 内面：橙(Hue2.5YR7/6)	密	良	外面：上部はヨコナデ、下部はミガキ。丹塗り。 内面：ナデ
78	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：赤褐(Hue2.5YR4/8) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	密（径1mm前後の石英・カクセン石・白雲母多い。）	良	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ
79	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：明赤褐(Hue2.5YR5/6) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/8) 内面：黒(HueYR1.7/1)	密（白雲母若干含む。）	ムラ有り	外面：上部はナデ下部は横方向に条痕。 内面：ナデ
80	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい褐(Hue7.5YR5/3) 断面：灰褐(Hue7.5YR5/2) 内面：黒褐(Hue7.5YR3/1)	密	良	外面：ナデ 内面：ナデ
81	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：橙(Hue5YR6/6) 断面：橙(Hue5YR6/8) 内面：黒(Hue5YR1.7/1)	密	良	外面：ナデ 内面：ナデ
82	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：赤褐(Hue5YR4/6) 断面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4) 内面：明赤褐(Hue2.5YR5/6)	やや粗（径1～2mmの石英・白雲母多い。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
83	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：暗赤褐(Hue5YR3/3) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：黒褐(Hue5YR2/1)	密（白雲母わずかに混。）	ムラ有り	外面：条痕文 内面：ナデ
84	黒色土	弥生土器	甕	外面：にぶい橙(HueYR6/4) 断面：にぶい橙(HueYR5/3) 内面：灰褐(Hue5YR4/2)	緻密	良	外面：ナデ 内面：ナデ
85	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：にぶい橙(Hue5YR6/4) 断面：明赤褐(Hue5YR5/6) 内面：黒(HueYR1.7/1)	密（径1mm前後の長石極わずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
86	黒色土	縄文土器	深鉢	外面：黒(HueYR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4)	密（径1～2mmの石英・長石・白雲母を若干含む。）	良	外面：ナデ 内面：ヨコナデ
87	黒色土	縄文土器	深鉢 平底 底部	外面：極暗赤褐(Hue5YR2/3) 断面：明赤褐(Hue2.5YR5/8) 内面：黒(Hue5YR1.7/1)	やや粗（径2～3mmの石英・、径1mm未満の白雲母目立つ。）	やや甘	外面：ナデ 内面：ナデ 指押え。
88	黒色土	弥生土器	甕	外面：灰赤(Hue2.5YR4/2) 断面：橙(Hue2.5YR6/6) 内面：にぶい赤褐(Hue2.5YR5/4)	密（径1mm前後の石英・カクセン石・白雲母若干含む。）	良好	外面：ナデ 内面：ナデ
89	黒色土	弥生土器	甕	外面：橙(Hue2.5YR6/8) 断面：橙(Hue2.5YR6/8) 内面：橙(Hue2.5YR6/6)	密（径1～2mmの長石を若干含む。）	良	外面：縦方向ハケ目。（３条/cm） 内面：横方向ハケ目。（５条/cm）

表３１．宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ２－３）出土土器観察表（その８）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	色調	胎土	焼成	調整
９０	黒色土	弥生土器 中溝式 刻目突帯	甕	外面：橙(Hue2.5YR6/6) 断面：赤黒(Hue2.5YR1.7/1) 内面：にぶい橙(Hue2.5YR6/4)	密（白雲母多い。）	まあ良	外面：刻目突帯 ハケ目状ヨコナデ （３条/cm） 内面：ヨコナデ
９１	黒色土	弥生土器	甕	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3) 赤色顔料：赤(PANTONE173U 断面：灰褐(Hue5YR5/2) 内面：褐灰(Hue5YR4/1)	密（径1～2mmの白雲母・石英多く含む。）	良	外面：ハケ目（９条/cm） 内面：ナデ
９２	黒色土	土師器	甕	外面：灰褐(Hue5YR6/2) 断面：橙(Hue5YR6/6) 内面：にぶい橙(Hue5YR6/4)	密（径1～2mmの石英を若干含む。）	良	外面：右下がりの粗い平行叩き （３条/cm） 内面：ヨコナデ
９３	黒色土	土師器	坏蓋	外面：黒(Hue5YR1.7/1) 断面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 内面：黒褐(Hue5YR2/1)	緻密	良好	外面：ミガキ （10条/cm） 内面：ミガキ （10条/cm）
９４	黒色土	須恵器	甕	外面：灰(HueN5/0) 断面：灰褐(Hue5YR6/2) 内面：紫灰(Hue5RP5/1)	密（径1mm未満の長石わずかに含む。）	良	外面：縦方向の平行叩き 内面：上部は横方向の平行叩き、下部は同心円工具による青海波叩き。
９５	ＳＤ０４	弥生土器	甕	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 断面：明赤褐(Hue5YR5/8) 内面：黒褐(Hue5YR3/1)	密	やや甘	外面：ナデ 内面：ナデ
９６	ＳＤ０４	土師器	壷or甕	外面：にぶい赤褐(Hue5YR5/4) 断面：灰褐(Hue5YR4/2) 内面：にぶい赤褐(Hue5YR5/3)	密	良	外面：ヨコナデ 内面：ナデ
９７	ＳＤ０４	縄文土器	深鉢	外面：灰褐(Hue5YR4/2) 断面：黒(Hue5YR1.7/1) 内面：黒(Hue5YR1.7/1)	密（径1～2mmの石英・白雲母含む。）	良好	外面：上部はヨコナデ、下部はナデ 内面：ナデ
９８	ＳＤ０４	縄文土器	深鉢	外面：橙(Hue5YR6/6) 断面：橙(Hue5YR7/6) 内面：橙(Hue5YR6/6)	密（径2～5mmの石英、径1mm前後の長石をわずかに含む。）	良	外面：ナデ 内面：ナデ
９９	ＳＤ０４	須恵器	壷or甕	外面：灰(HueN6/0) 釉：灰オリーブ(Hue7.5Y4/2) 断面：紫灰(Hue5RP6/1) 内面：灰灰(HueN6/0)	緻密	良好	外面：ナデ 自然釉有り。 内面：ヨコナデ
１００	ＳＤ０４	土師器	椀	外面：橙(Hue2.5YR6/8) 断面：橙(Hue2.5YR6/6) 内面：橙(Hue2.5YR6/8)	緻密	良好	外面：ミガキ （５条/cm） 内面：ミガキ （６条/cm）
１０１	ＳＰ０５	須恵器	坏身	外面：青灰(Hue5B5/1) 断面：青灰(Hue5B5/1) 内面：青灰(Hue5B5/1)	緻密 法量：口径11.2cm 器高2.7＋αcm	良好	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ

表３２．宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ２－３）出土土器観察表（その９）

図面番号	出土土層・遺構	遺物名	器種	法量・重量・材質・色調	備考
１０２	黒色土	打製石器	スクレーパー	法量：6.4cm×4.45cm×1.3cm 重量：43.59g 材質：泥岩 色調：表面：明緑灰(Hue7.5GY7/1) 割れ：緑灰(Hue10GY6/1)	
１０３	ＳＤ０４	打製石器	スクレーパー横型石匙	法量：2.3+αcm×2.5+αcm×0.8cm 重量：4.03g 材質：チャート 色調：暗灰(HueN3/0) ～灰(HueN6/0)	
１０４	黒色土	打製石器	スクレーパー横型石匙	法量：2.2+αcm×2.3+αcm×0.9g 重量：3.99g 材質：チャート 色調：灰白(HueN7/0)	
１０５	表土	打製石器	剥片	法量：2.4+αcm×2.0cm×0.6cm 重量：2.89g 材質：チャート 色調：灰(HueN4/0) ～灰(HueN6/0)	スクレーパーとして使用された可能性有り。
１０６	黒色土	獣歯		法量：2.5cm＋α×1.0cm×1.0cm 重量：3.69g 色調：明赤褐(HueYR5/6) ～にぶい橙(Hue5YR7/4)	
１０７	黒色土	銅銭	寛永通寳(文銭)	法量：直径2.5cm 孔径0.55cm 厚さ縁0.15cm 厚さ文字0.1cm 厚さ文字なし0.05cm 重量：3.16g 色調：緑(PANTONE555U)	「寳」の字と「通の」字の間にヒビが入って変形している。
１０８	黒色土	鉄製品	鉄製穂摘具？	法量：5.8cm×4.0cm×0.7cm 錆におおわれており、形態は不明。 重量：16.89g 色調：地金：黒褐(Hue5YR2/1) 錆：橙(Hue5YR6/8)	欠損しているが、弧状部分は刃部の形態をしている。

表３３．宮ノ前第２遺跡第３次調査（ＭＹ２－３）出土石器・獣歯・金属器観察表

図　版

図版１～１２　　宮ノ前第２遺跡（第２次調査）

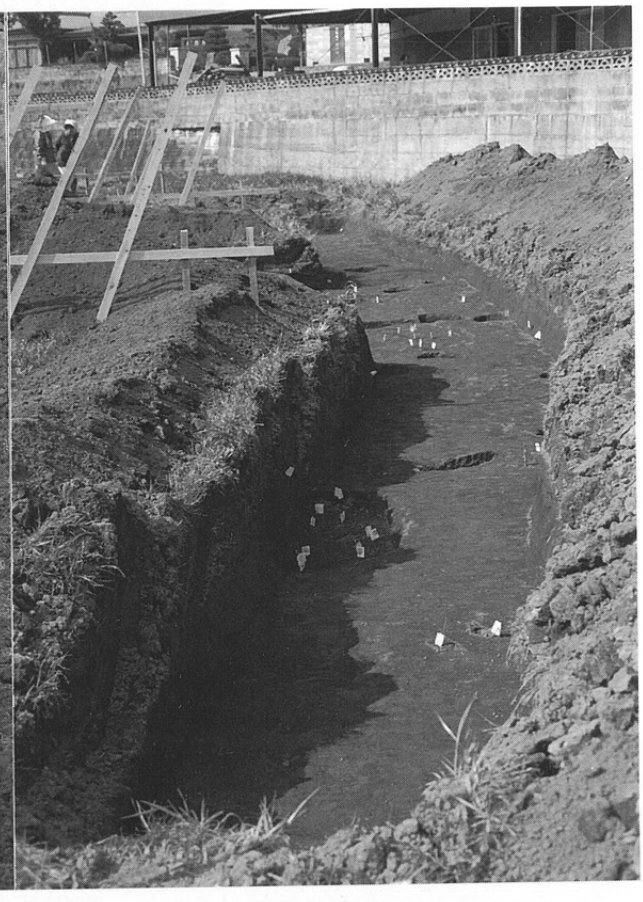
図版１３～２４　宮ノ前第２遺跡（第３次調査）

図版２５～２６　今狩平横穴墓群第２号横穴墓

図版 1

調査区遺構面確認状況
（南から）

調査区遺構面確認状況
（南から）



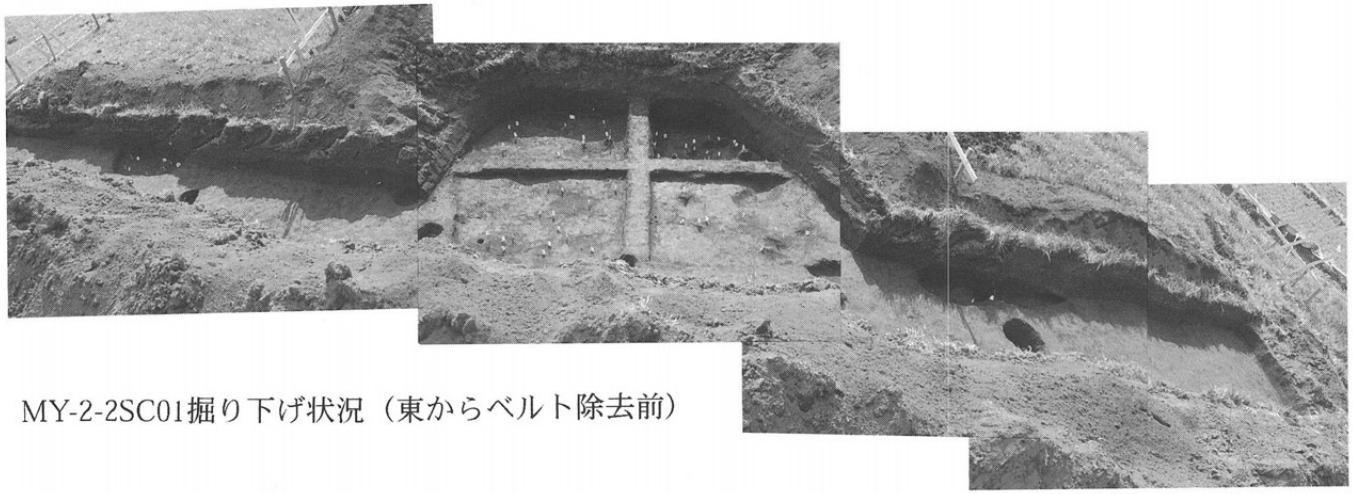
調査区遺構面確認状況
（南から）

図版２

MY-2-2SC01検出状況
（拡張前）

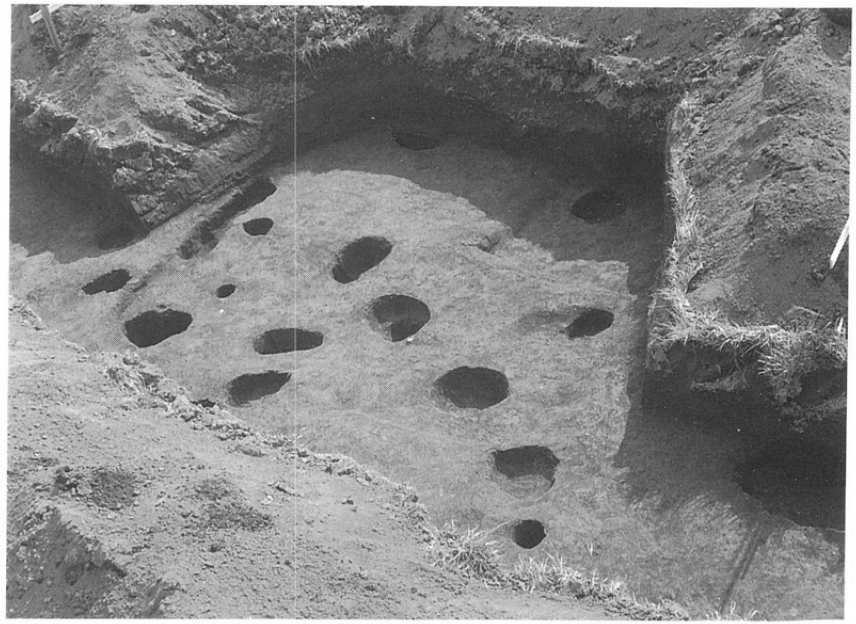
MY-2-2SK02検出状況
（拡張前）

霜柱立つ発掘現場
（西から）



MY-2-2SC01掘り下げ状況（東からベルト除去前）

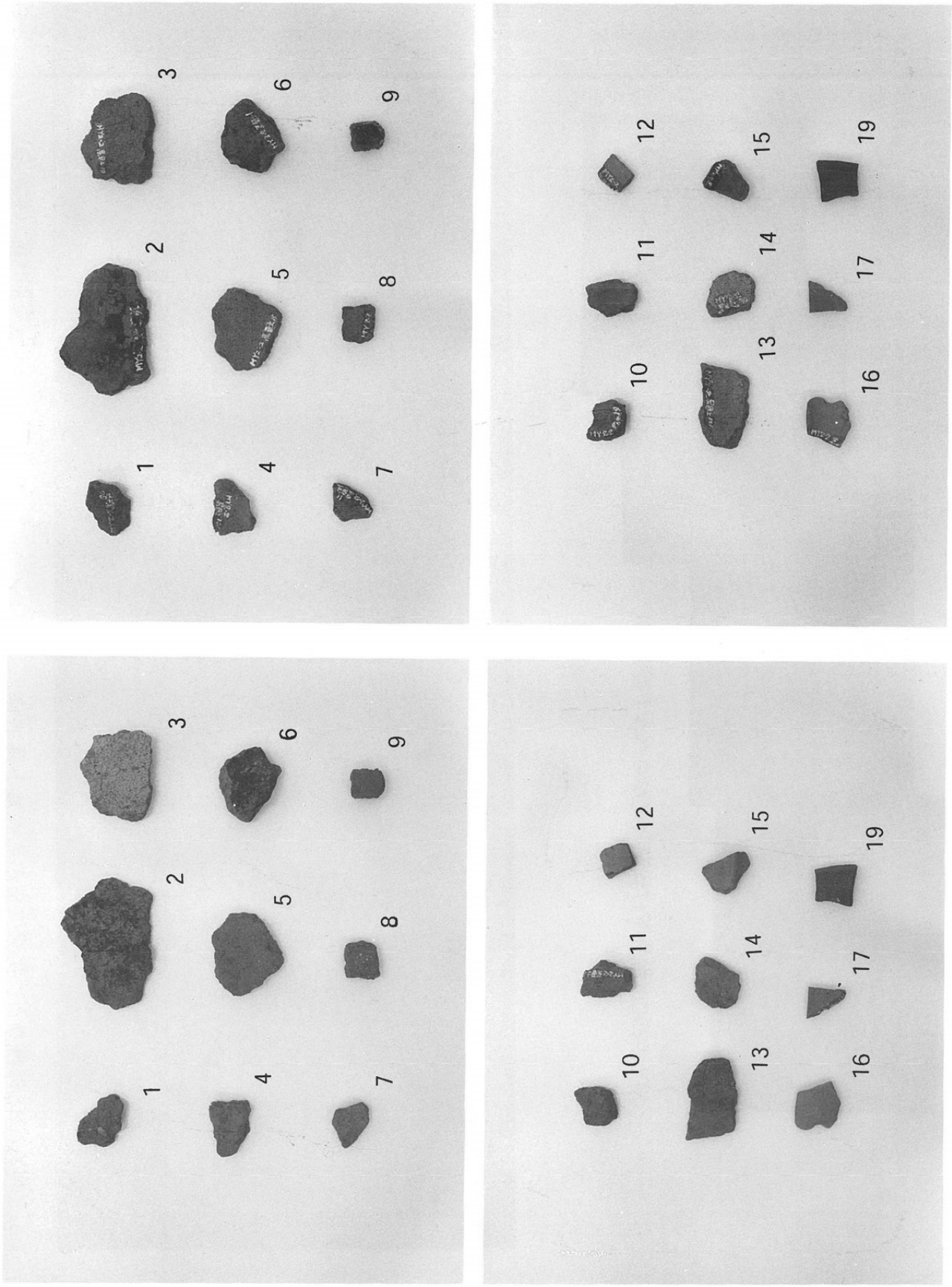
MY-2-2SC01掘り下げ状況（東からベルト除去後）



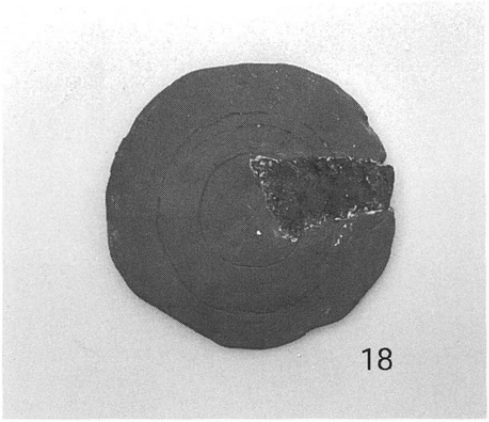
MY-2-2SC01完掘状況（東から）

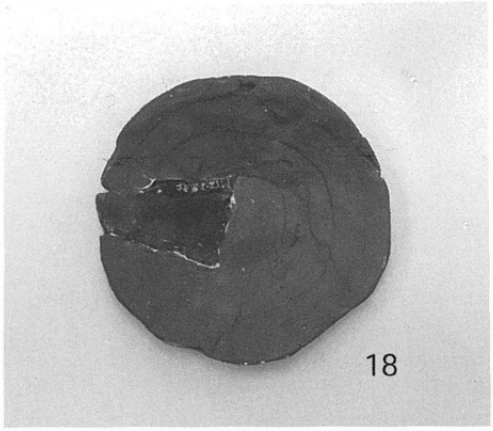
図版3

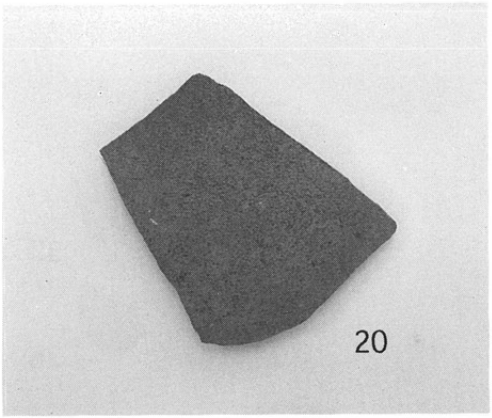
図版４

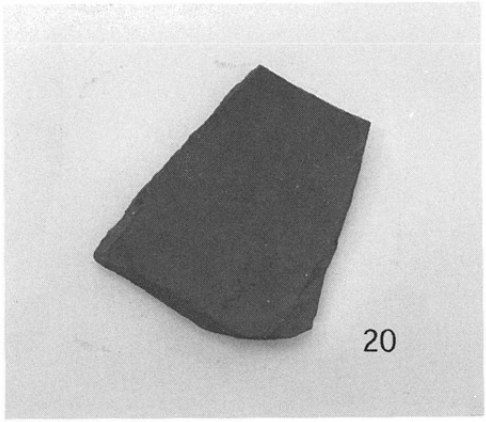


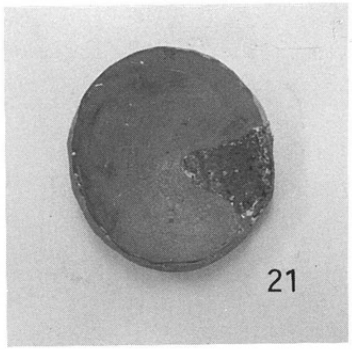
図版 5

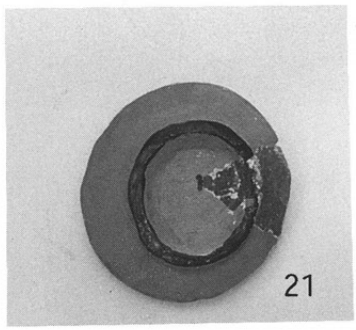


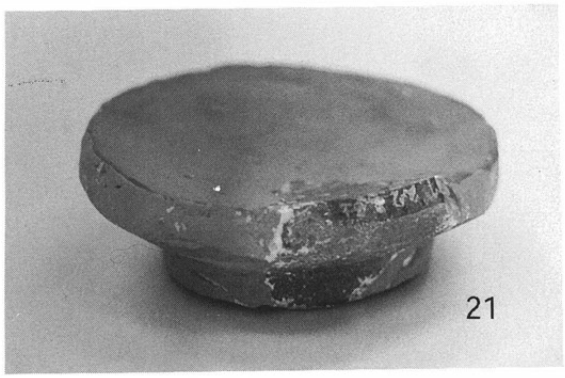




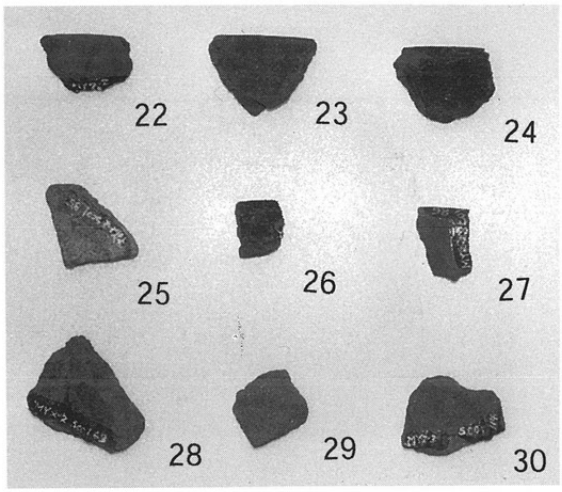


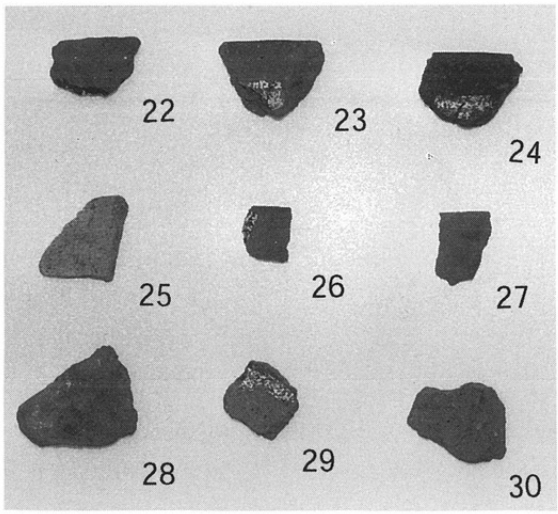


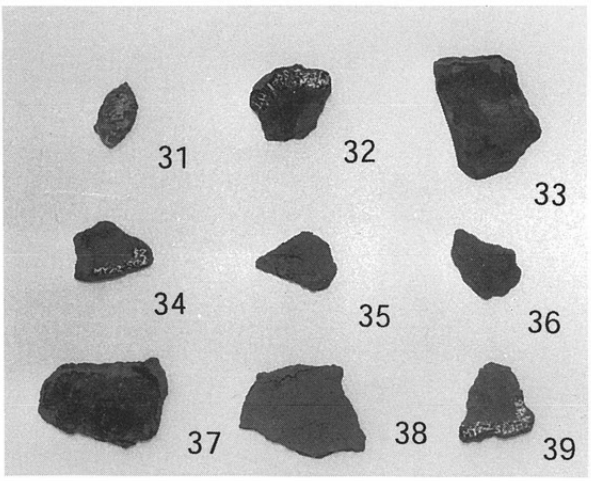


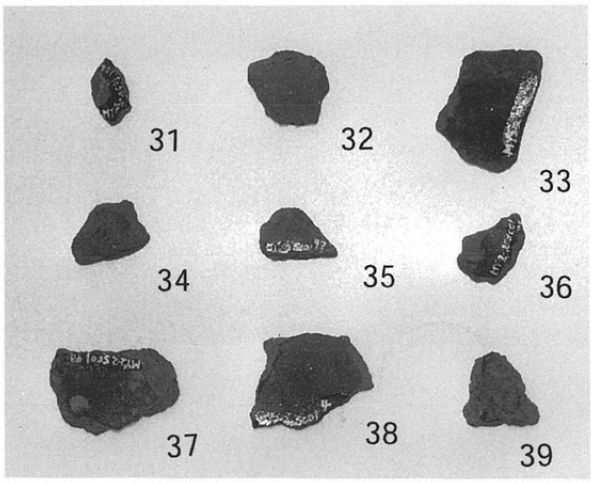


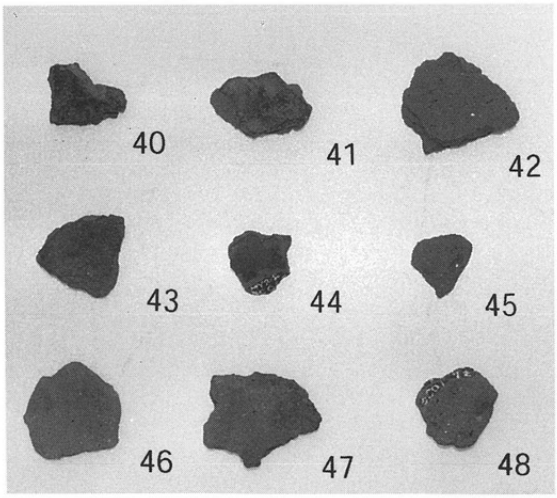
図版6

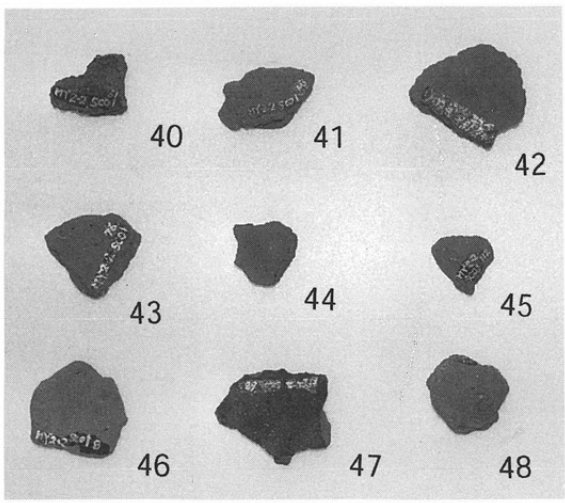

22
23
24
25
26
27
28
29
30


22
23
24
25
26
27
28
29
30

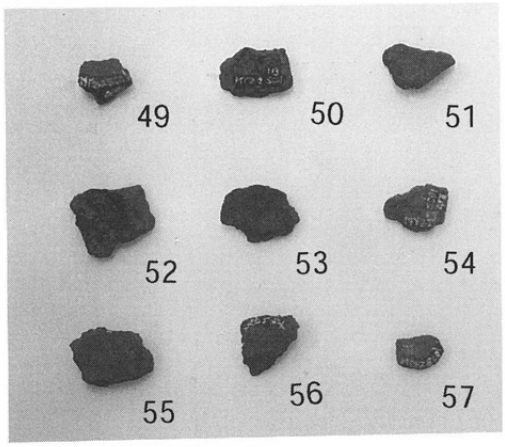

31
32
33
34
35
36
37
38
39

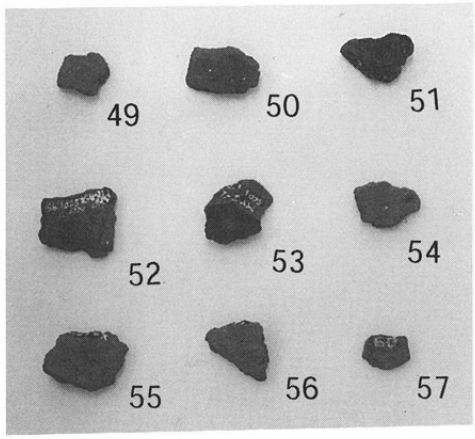

31
32
33
34
35
36
37
38
39

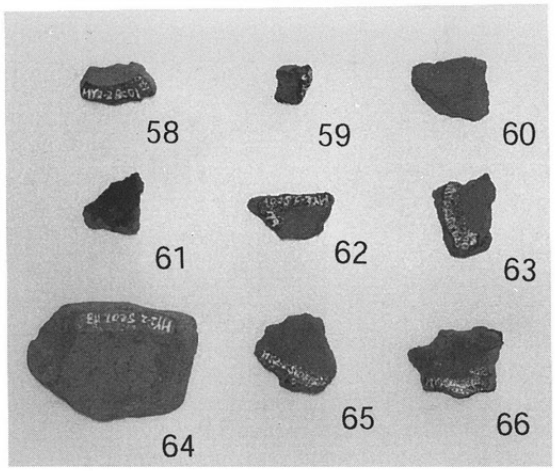

40
41
42
43
44
45
46
47
48

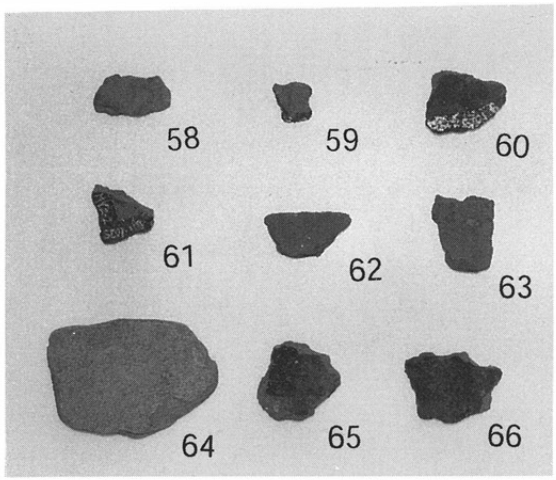

40
41
42
43
44
45
46
47
48

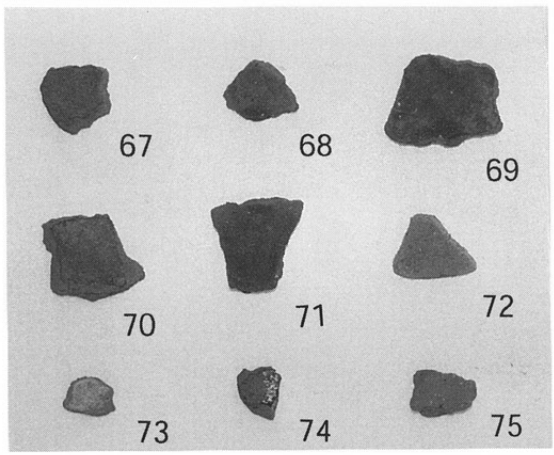
図版 7

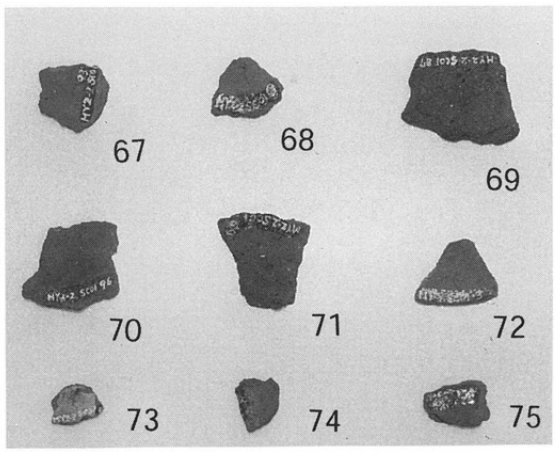

49
50
51
52
53
54
55
56
57


49
50
51
52
53
54
55
56
57

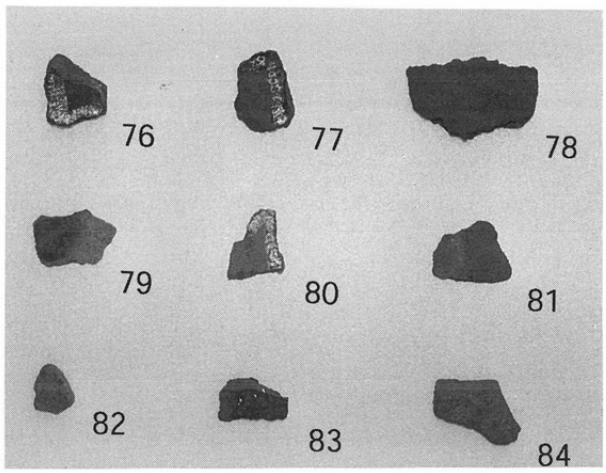

58
59
60
61
62
63
64
65
66

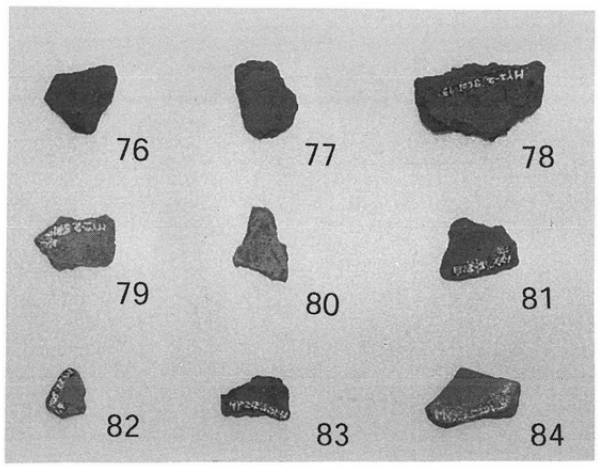

58
59
60
61
62
63
64
65
66

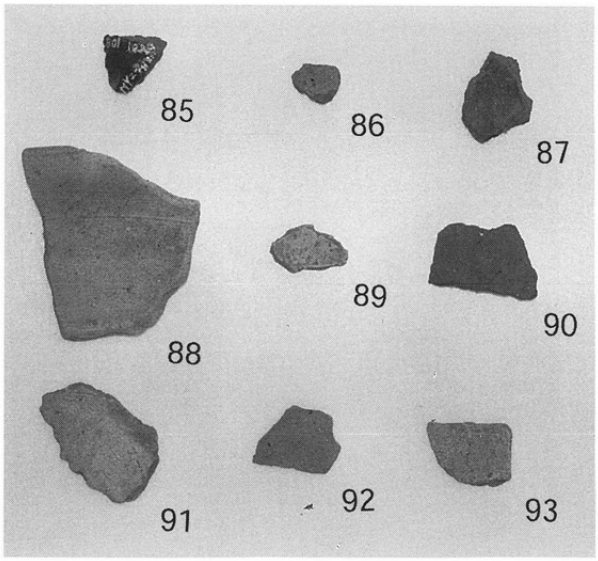

67
68
69
70
71
72
73
74
75

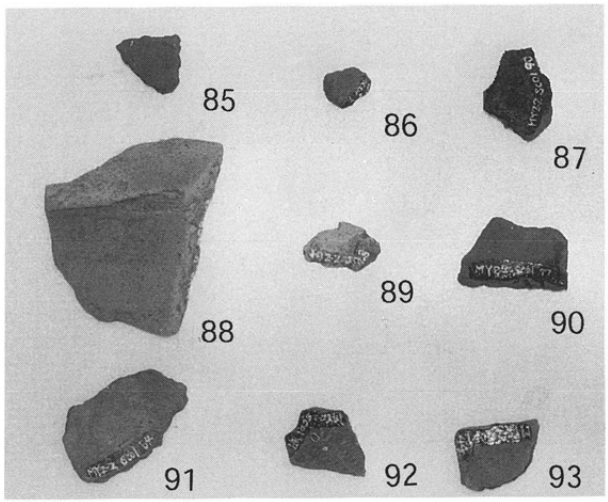

67
68
69
70
71
72
73
74
75

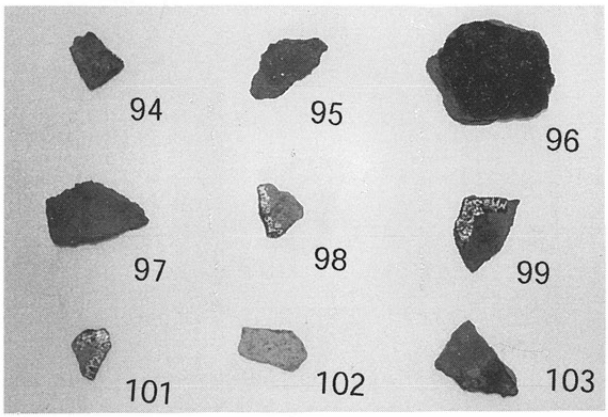
図版８

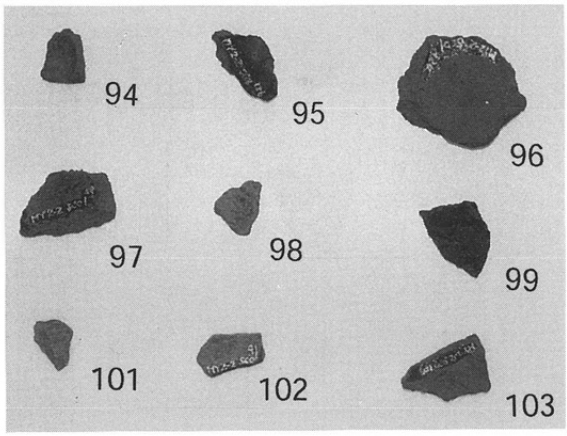

76
77
78
79
80
81
82
83
84


76
77
78
79
80
81
82
83
84

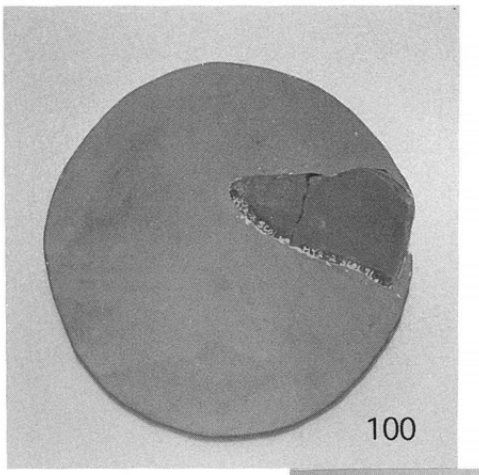

85
86
87
88
89
90
91
92
93

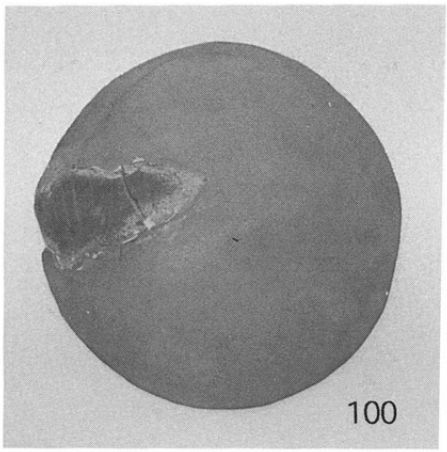

85
86
87
88
89
90
91
92
93

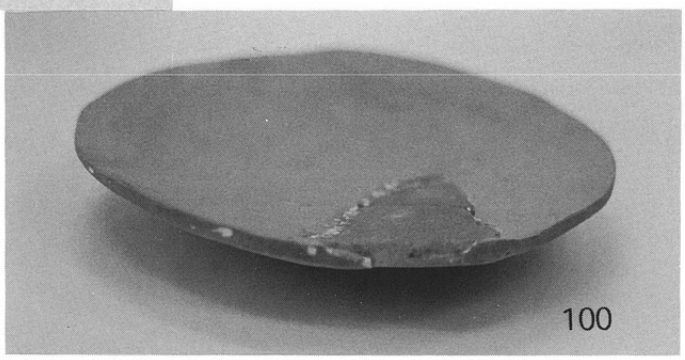

94
95
96
97
98
99
101
102
103

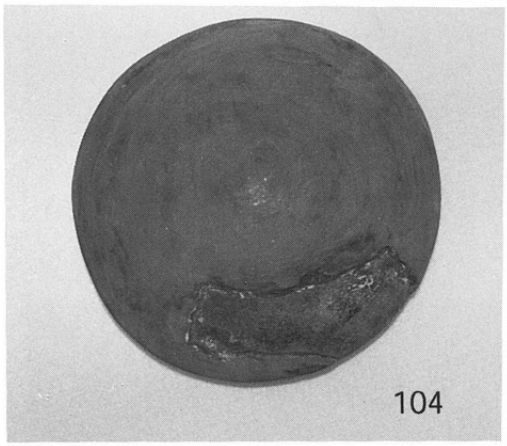

94
95
96
97
98
99
101
102
103

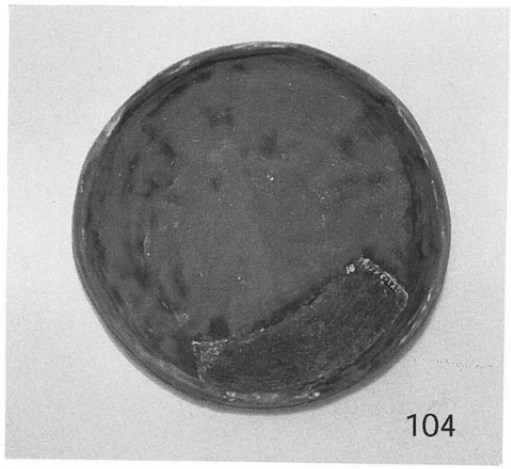
図版 9


100


100

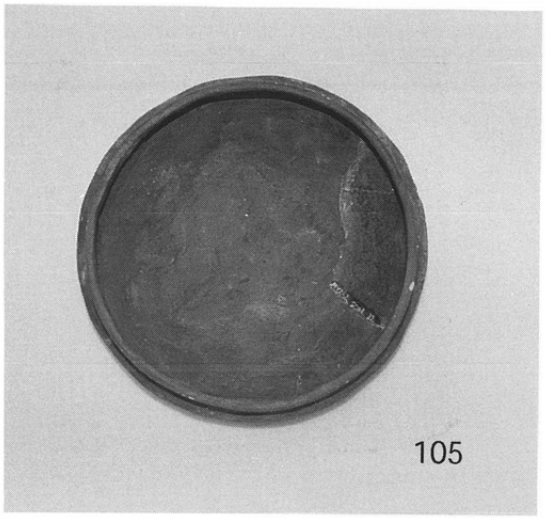

100

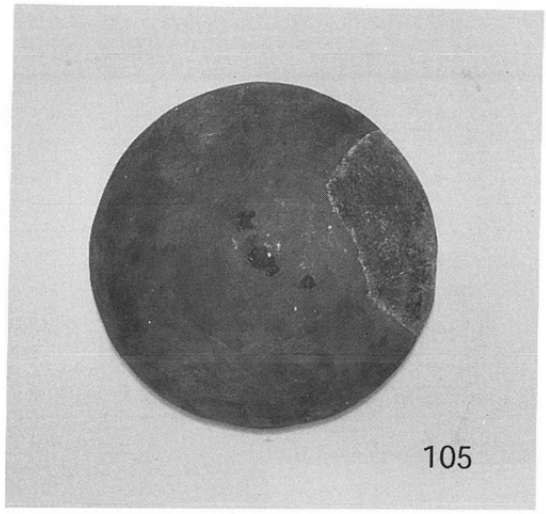

104


104

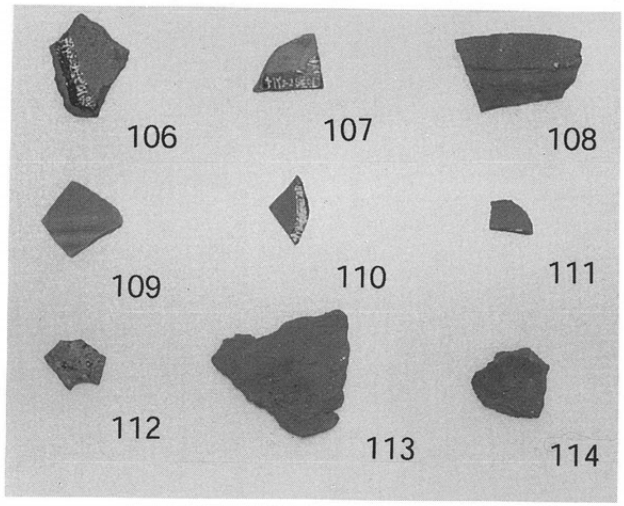
104

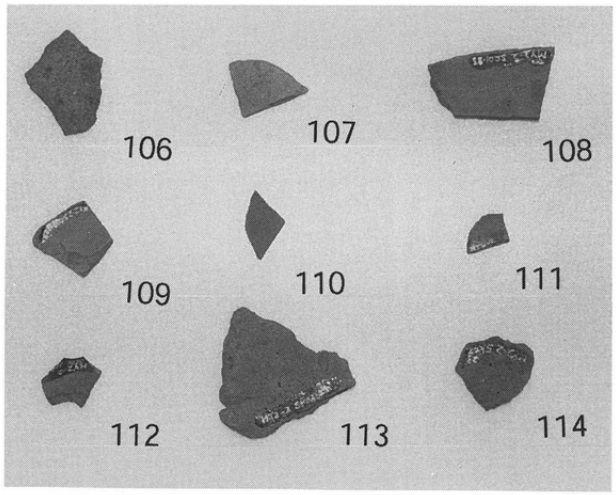
図版１０


105

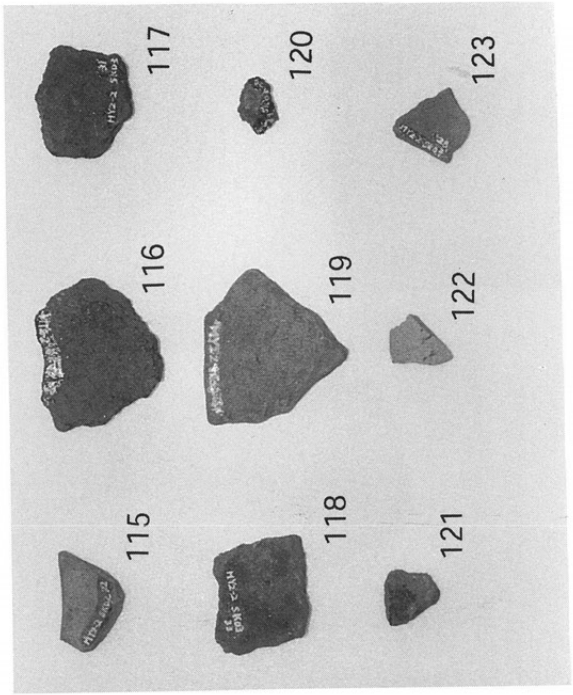

105

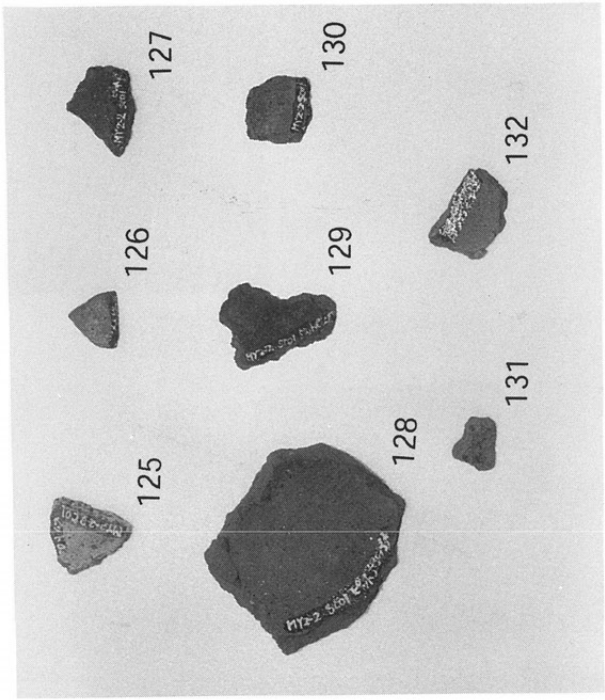
105

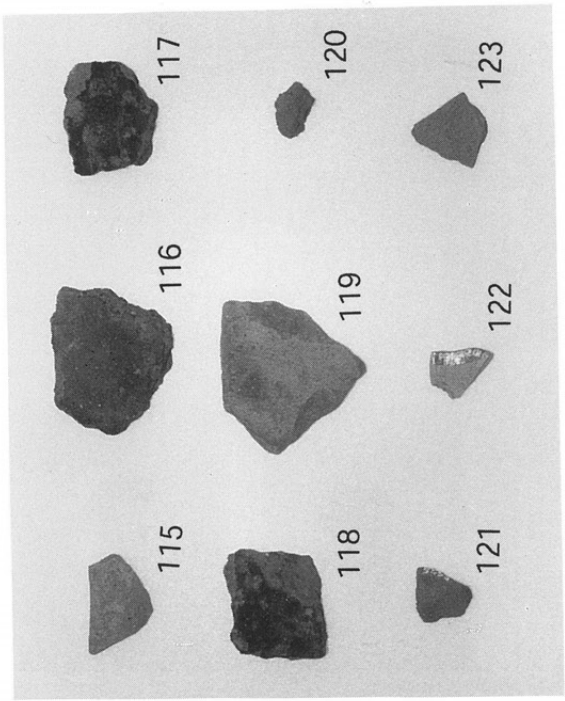

106
107
108
109
110
111
112
113
114

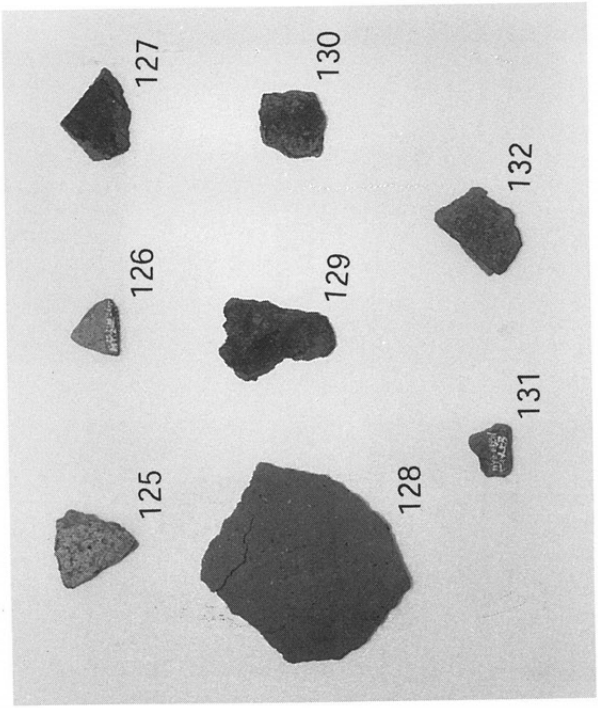

106
107
108
109
110
111
112
113
114

図版１１

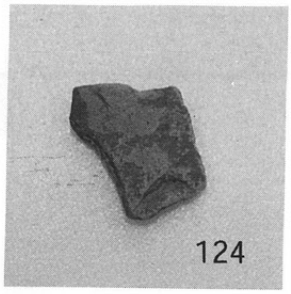

115
116
117
118
119
120
121
122
123

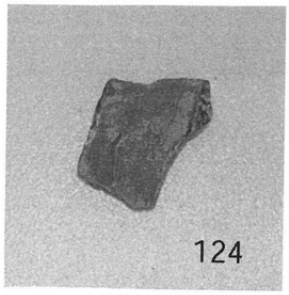

125
126
127
128
129
130
131
132

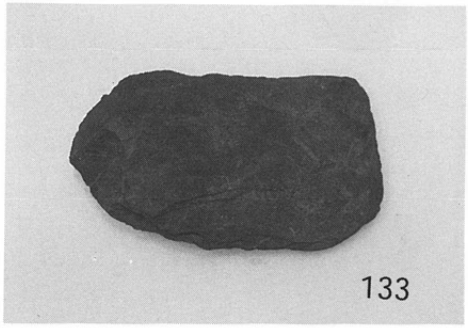

115
116
117
118
119
120
121
122
123

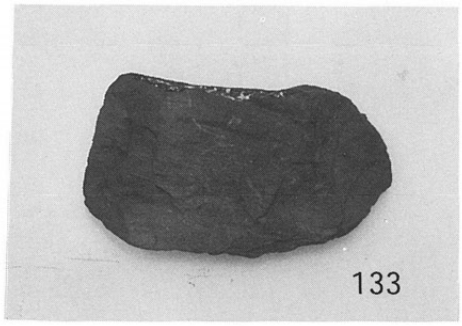

125
126
127
128
129
130
131
132

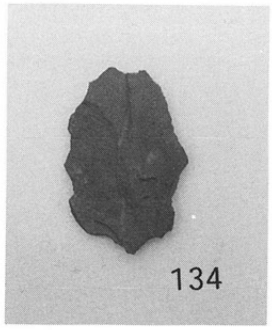
図版１２

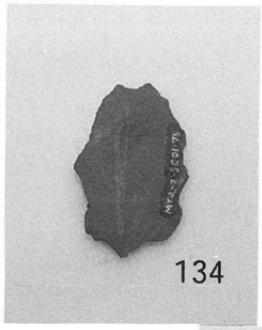

124

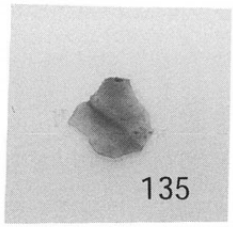

124

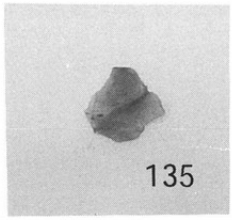

133

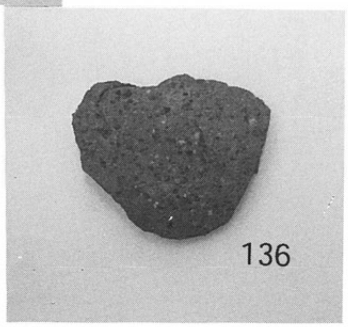

133

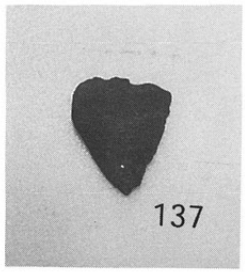

134


134


135


135


136

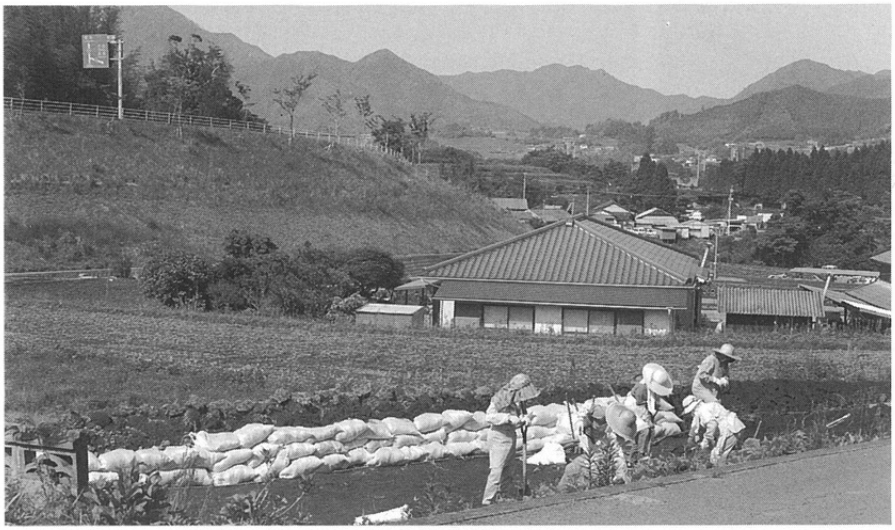

137

137

138

138

図版１３

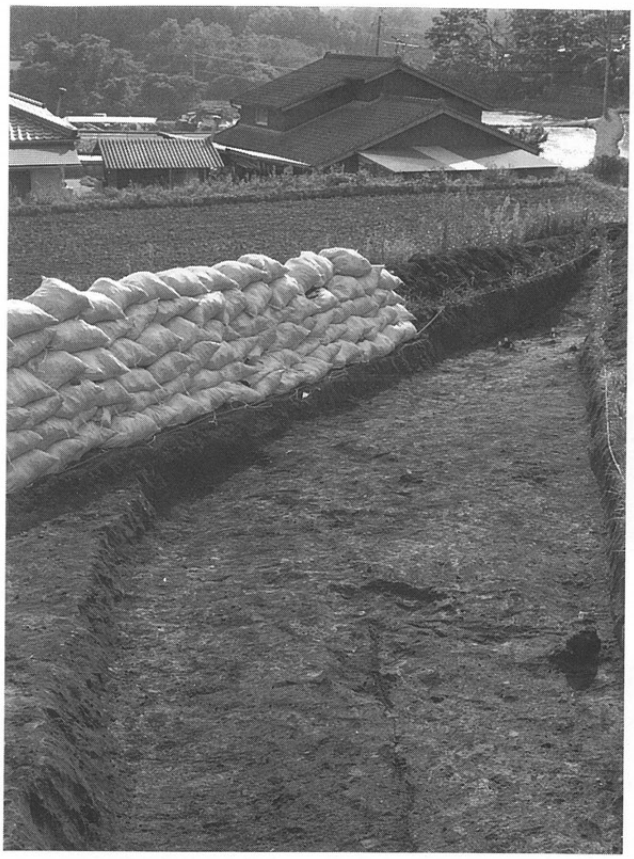


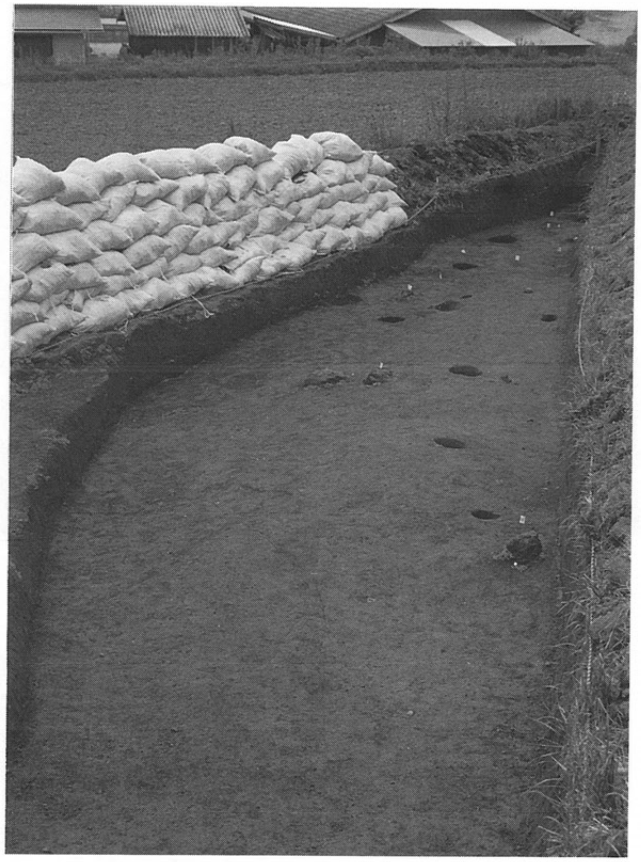
発掘調査作業風景
（Ａ区北東から）

発掘調査作業風景
（Ａ区西から）

発掘調査作業風景
（Ａ区東から）

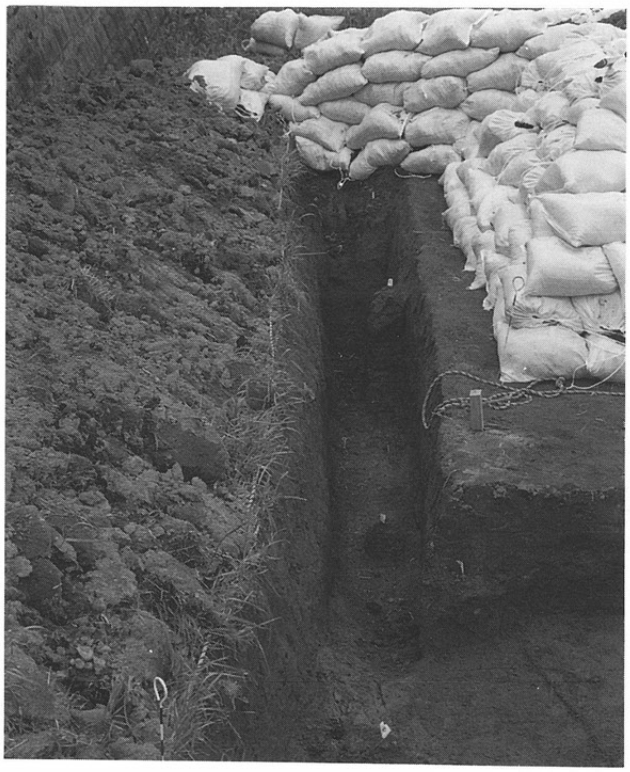
図版１４





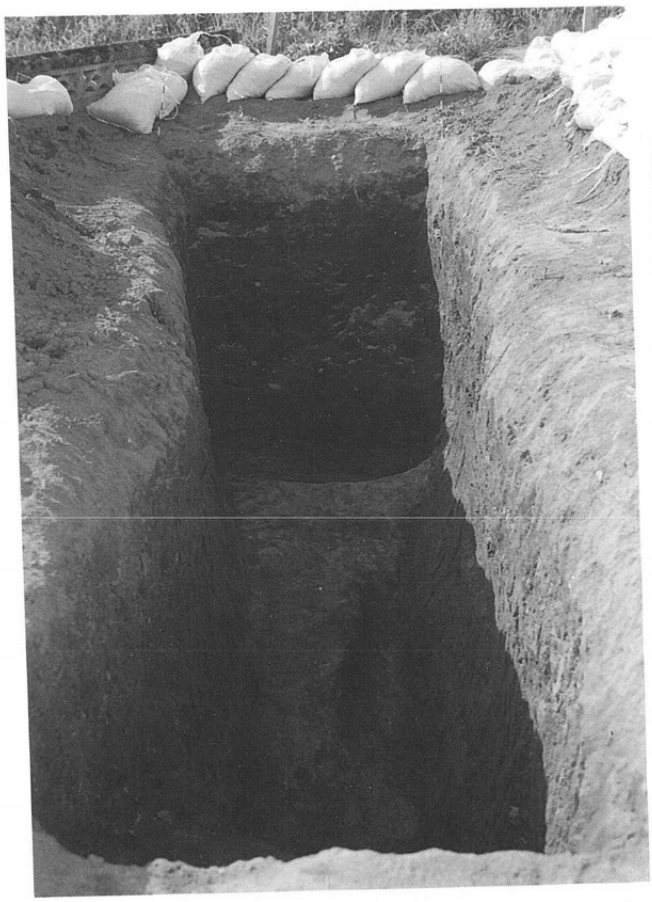
左上　遺構検出面検出時
（Ａ区東から）

右上　遺構検出面完掘後
（Ａ区東から）

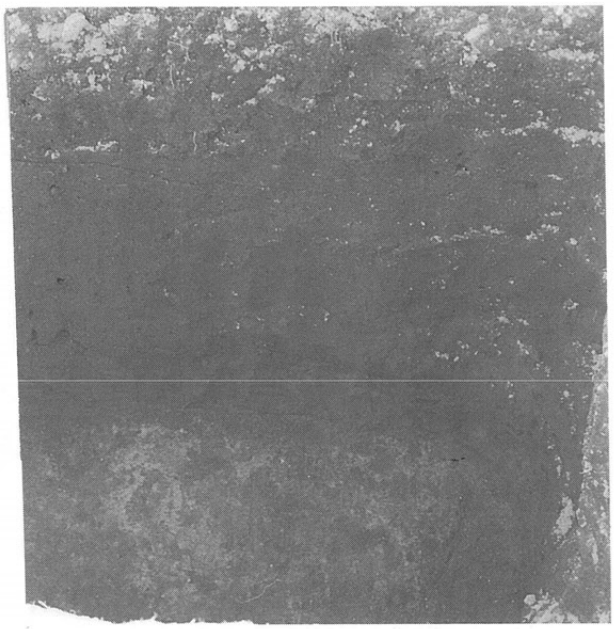


Ａ区溝（ＭＹ2-3ＳＤ01）
（北から）

図版１５



B区近景（南から）

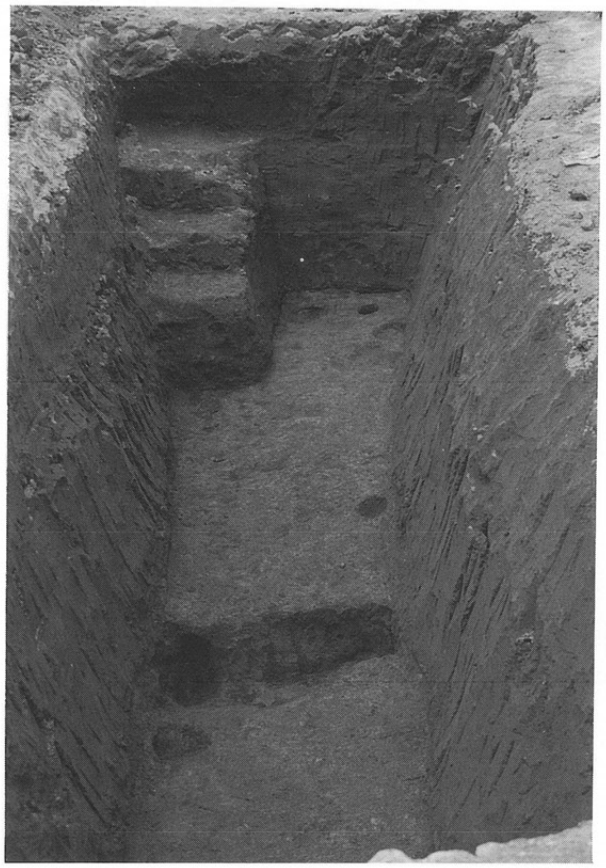


ＭＹ2-3ＳＤ02・ＭＹ2-3ＳＤ03東から

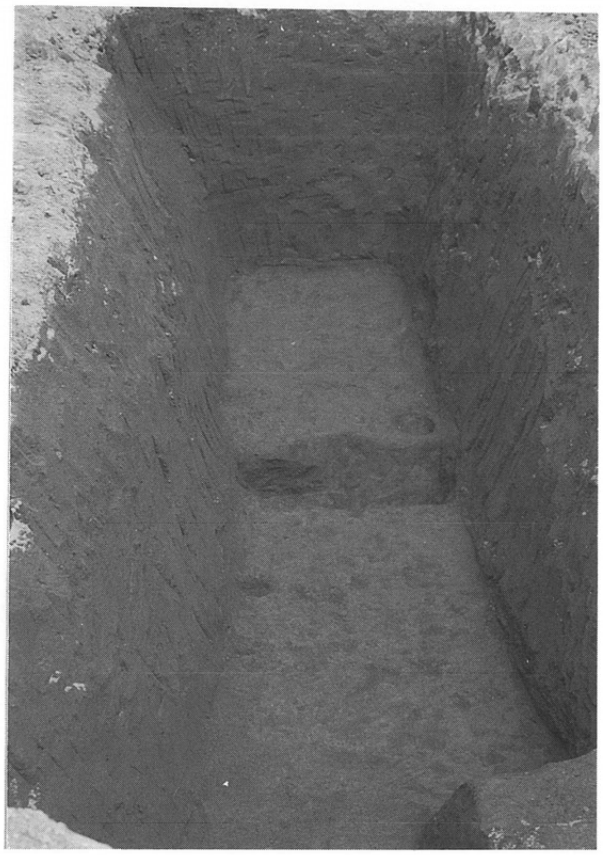
ＭＹ2-3ＳＤ02・ＭＹ2-3ＳＤ0南から
Ｃ区近景（南から）

図版１６

Ｃ区近景（南から）

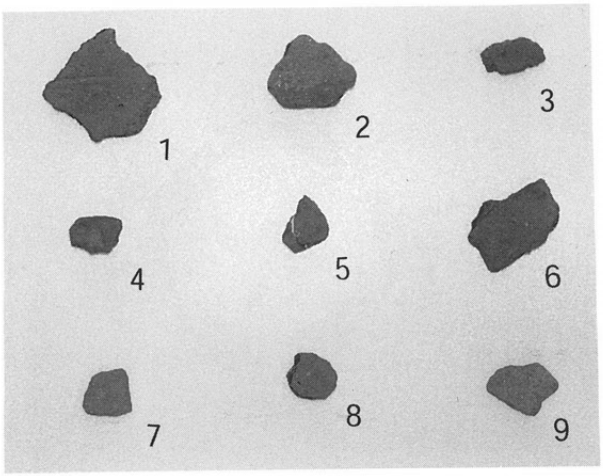


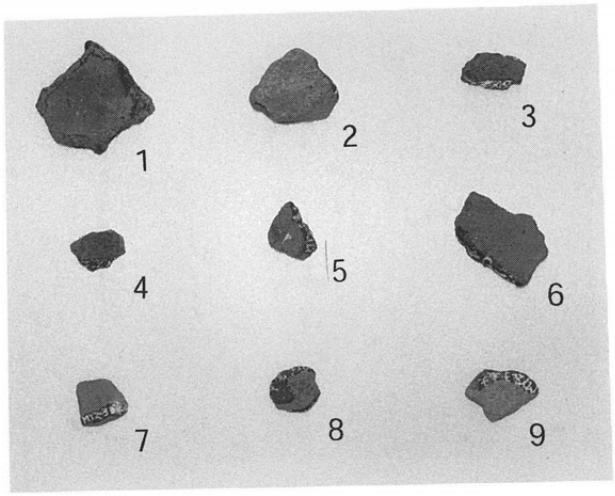
Ｃ区（北から）

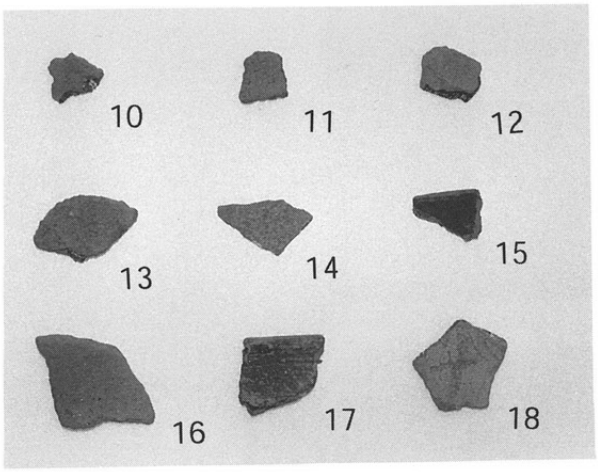


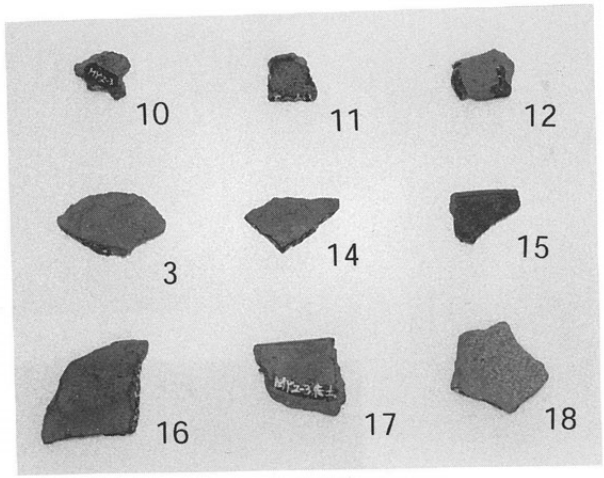
Ｃ区（南から）

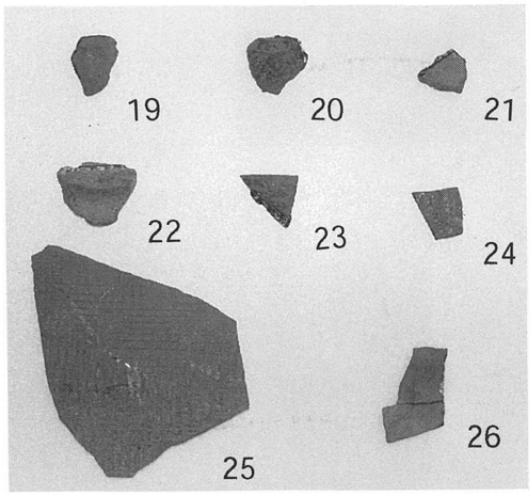
図版１７

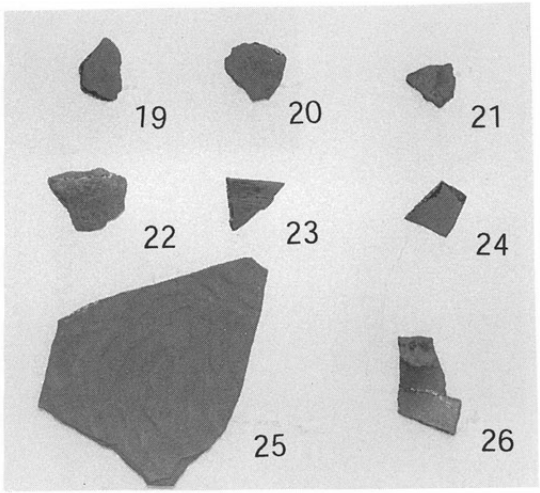

1
2
3
4
5
6
7
8
9


1
2
3
4
5
6
7
8
9

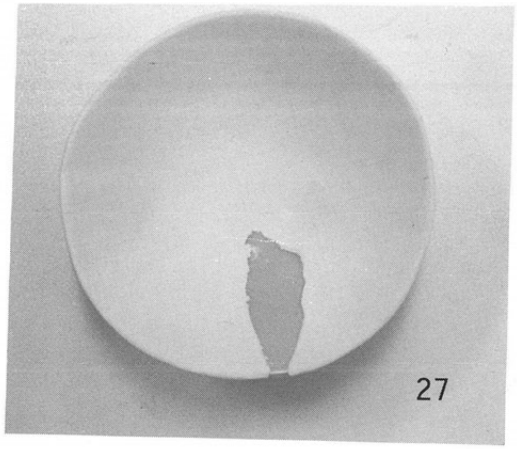

10
11
12
13
14
15
16
17
18

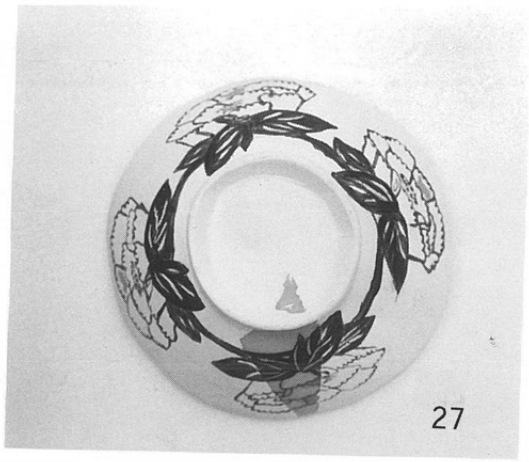

10
11
12
3
14
15
16
17
18

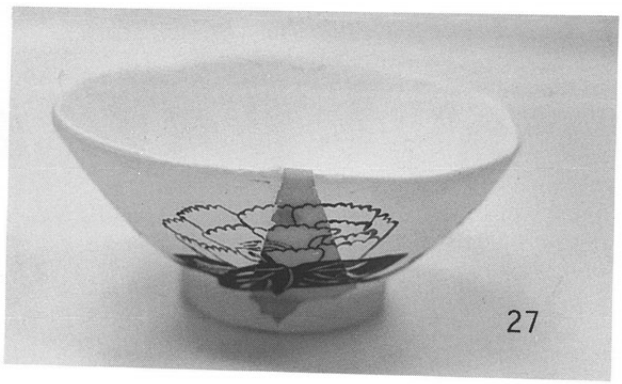

19
20
21
22
23
24
25
26

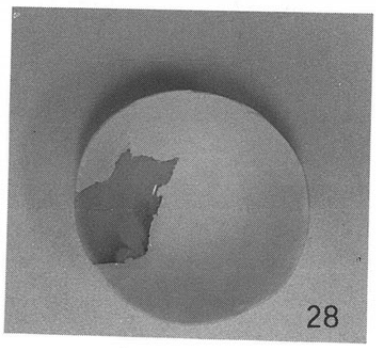

19
20
21
22
23
24
25
26

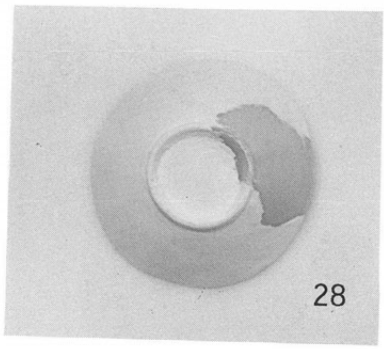
図版１８

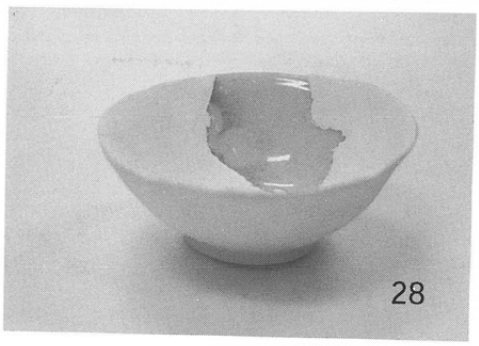

27

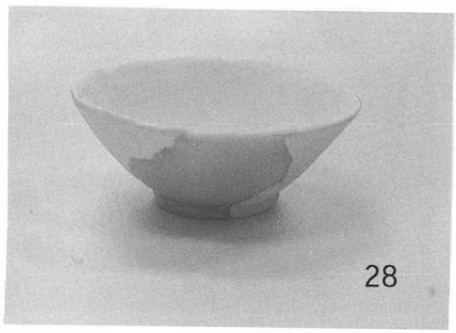

27

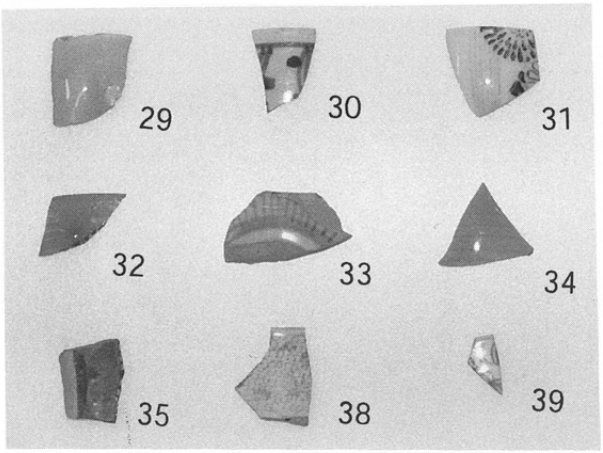

27

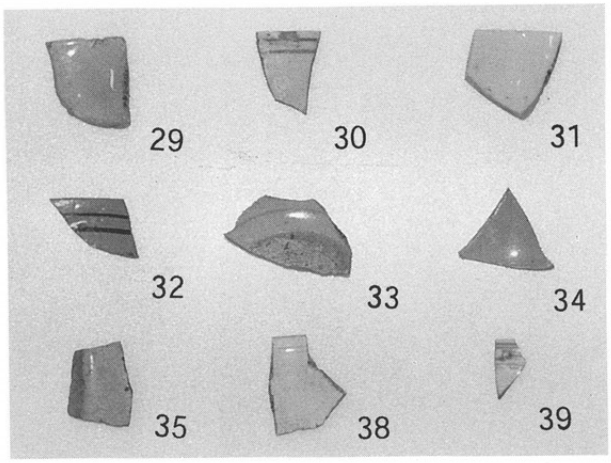

28

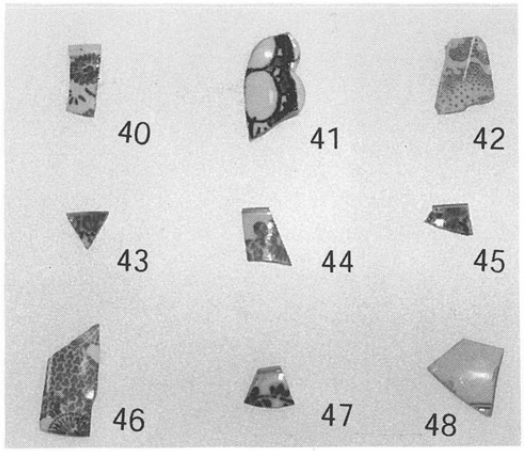

28

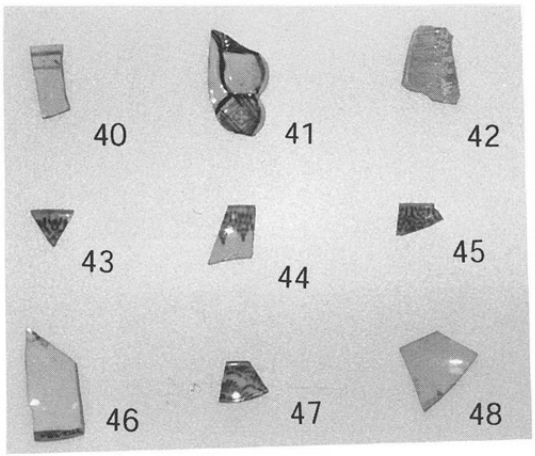

28

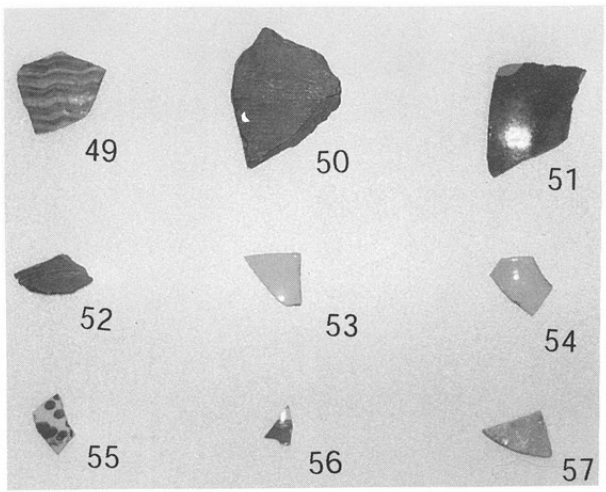

28

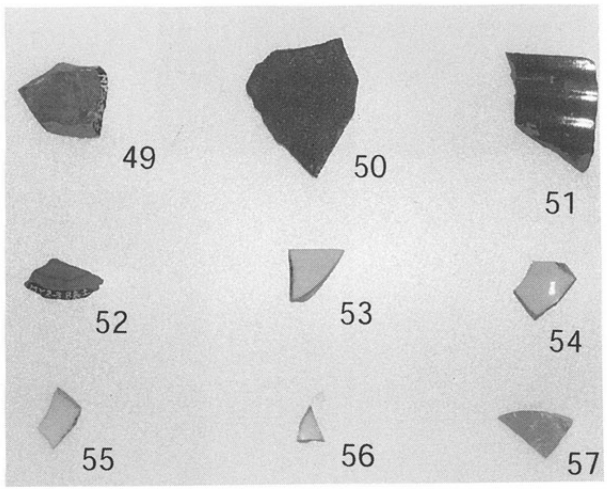

29
30
31
32
33
34
35
38
39


29
30
31
32
33
34
35
38
39

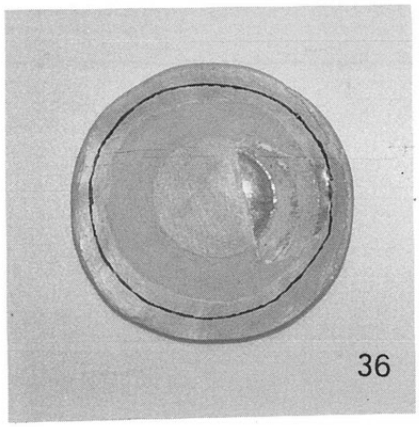

40
41
42
43
44
45
46
47
48

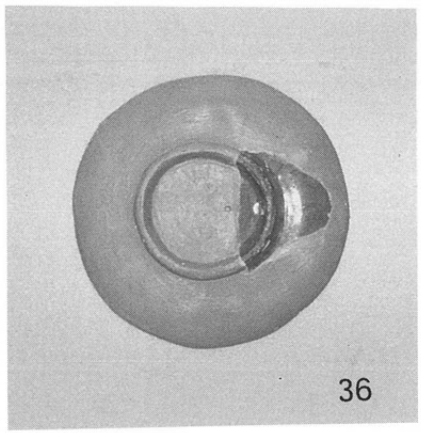

40
41
42
43
44
45
46
47
48

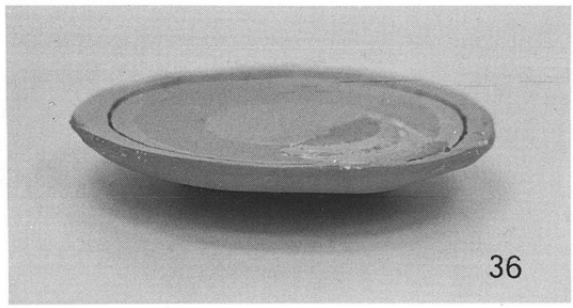

49
50
51
52
53
54
55
56
57

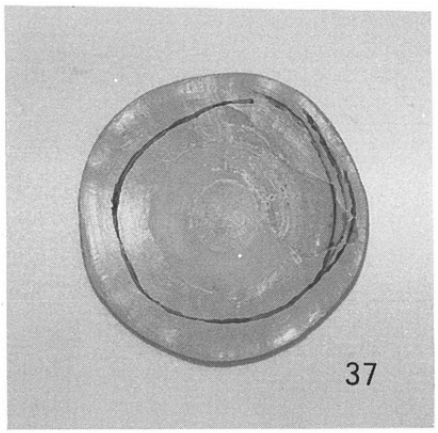

49
50
51
52
53
54
55
56
57

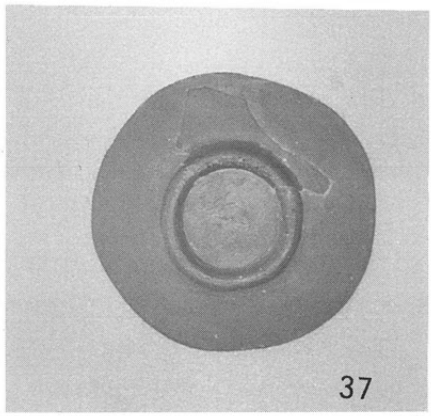
図版２０

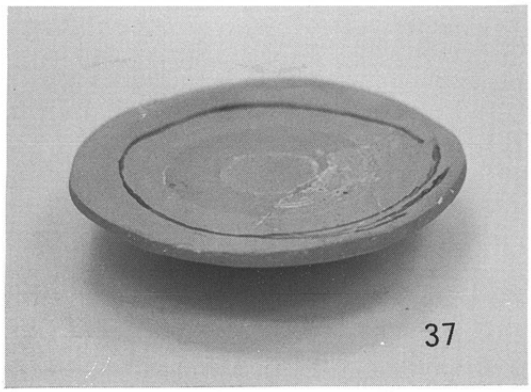




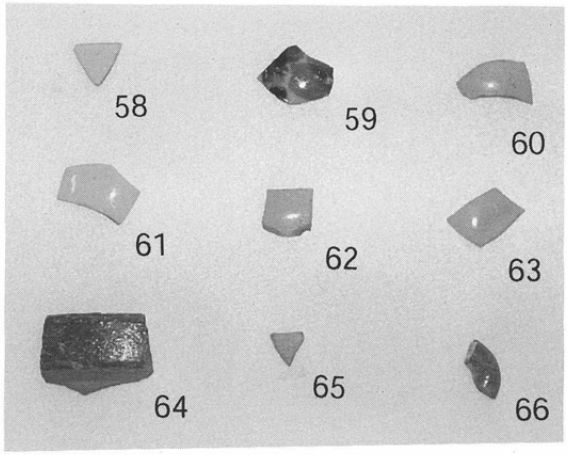


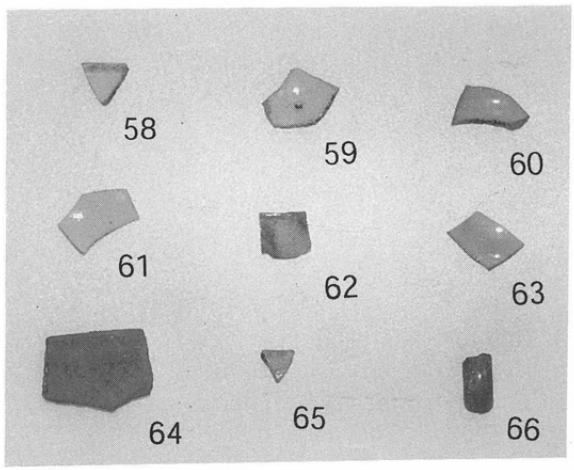


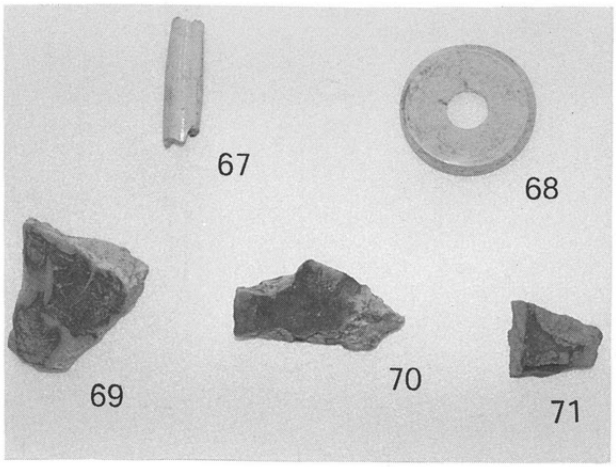


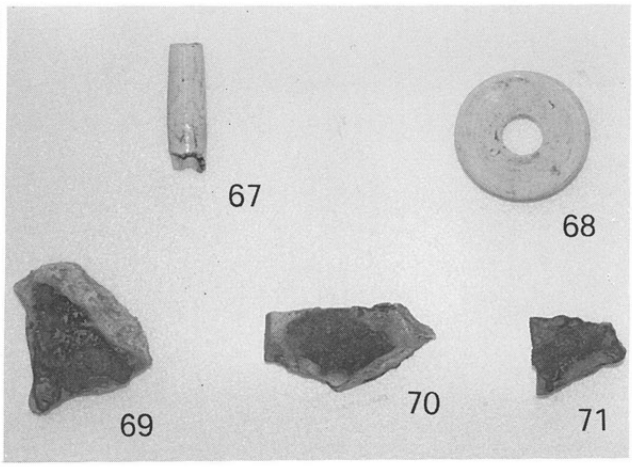


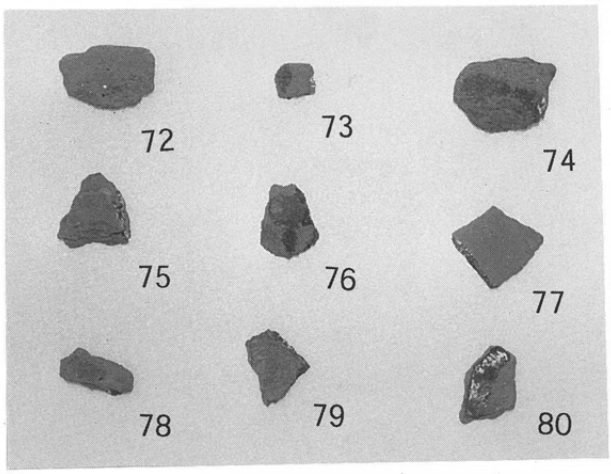
図版２１

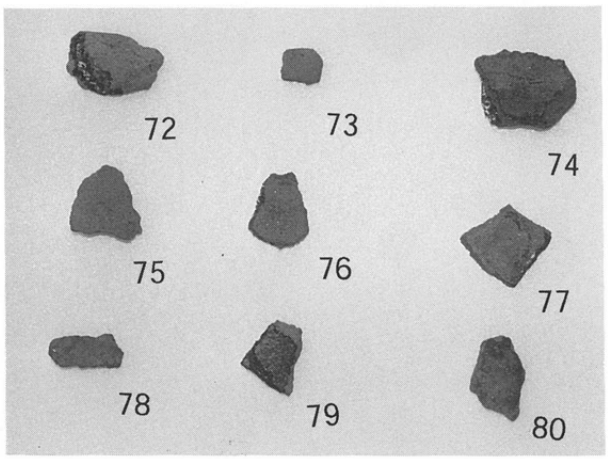

58
59
60
61
62
63
64
65
66


58
59
60
61
62
63
64
65
66

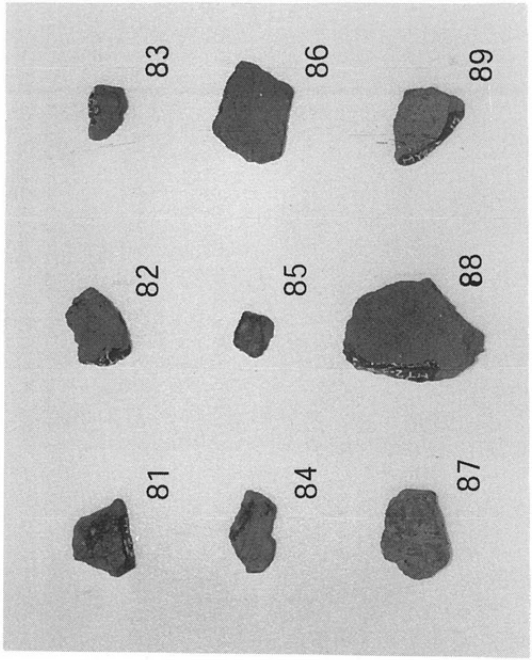

67
68
69
70
71

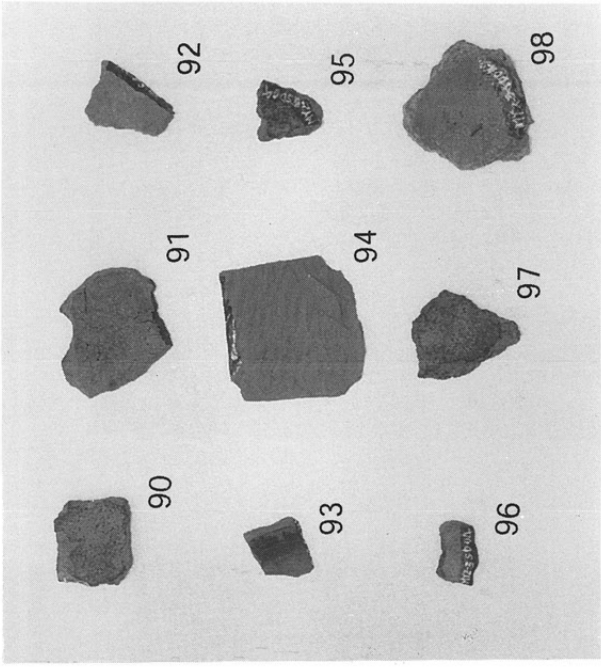

67
68
69
70
71

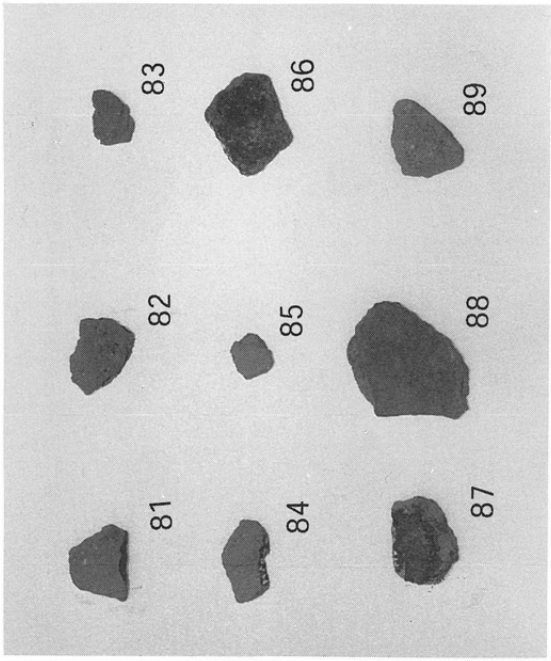

72
73
74
75
76
77
78
79
80

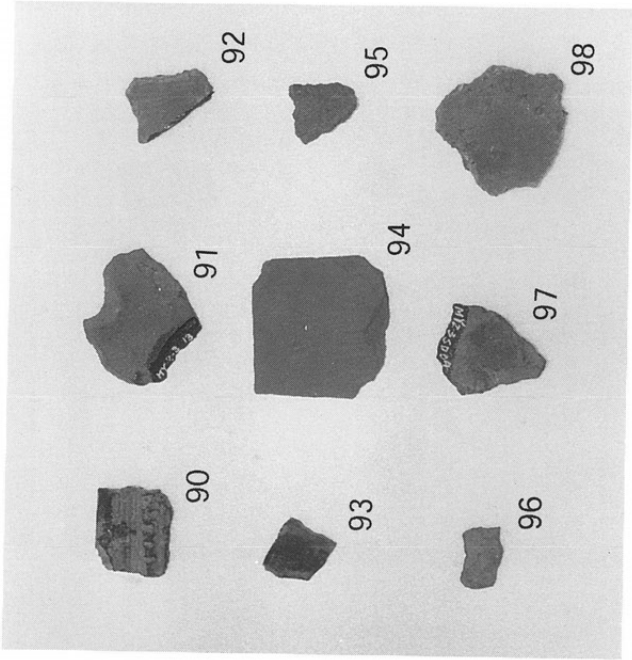

72
73
74
75
76
77
78
79
80

図版２２

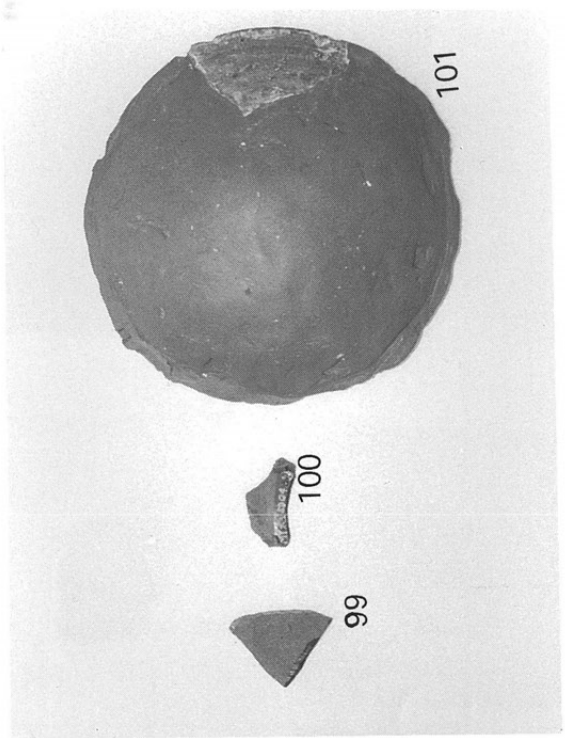

81
82
83
84
85
86
87
88
89

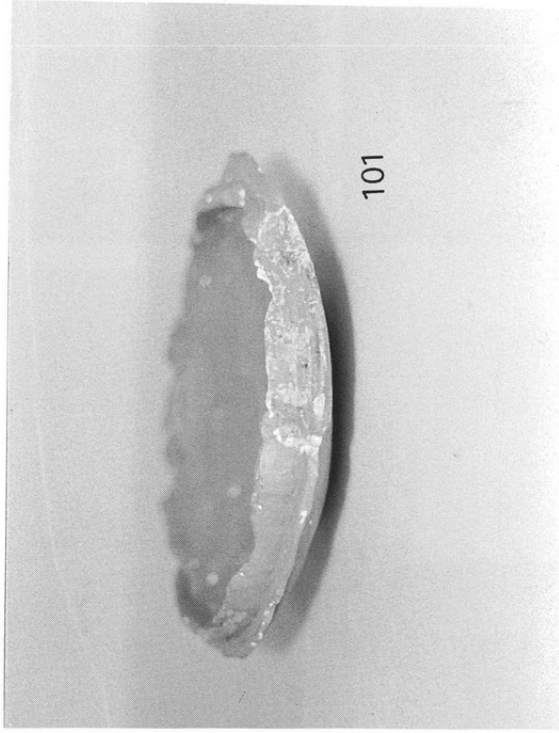

90
91
92
93
94
95
96
97
98

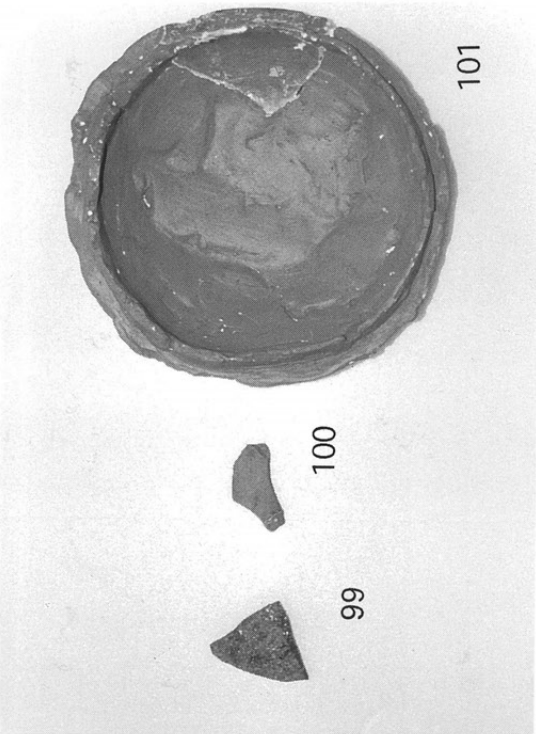

81
82
83
84
85
86
87
88
89


90
91
92
93
94
95
96
97
98

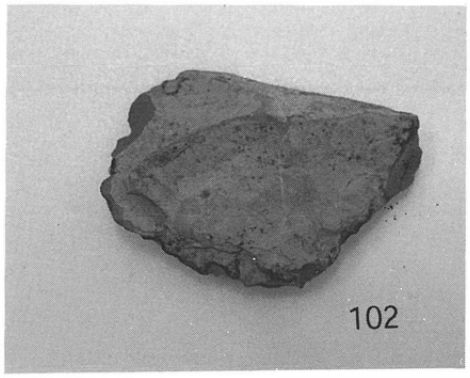
図版２３

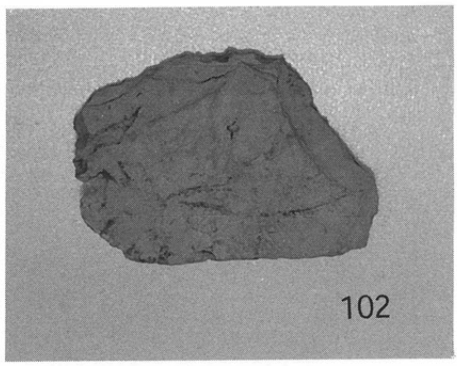


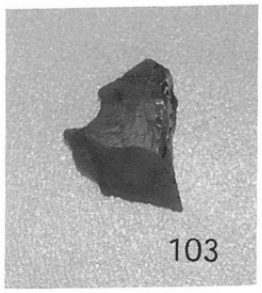


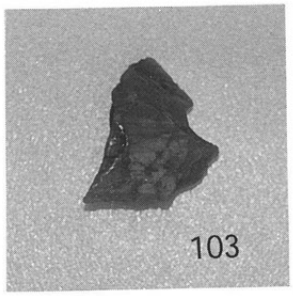


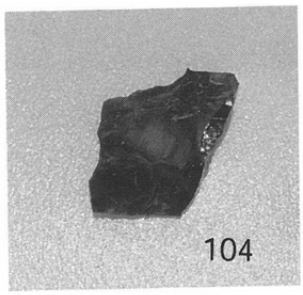
図版２４

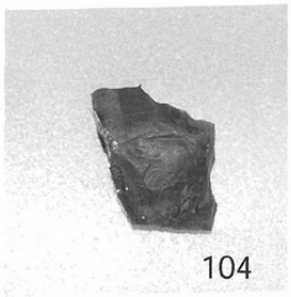


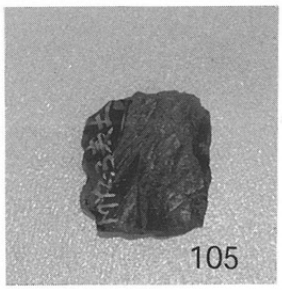


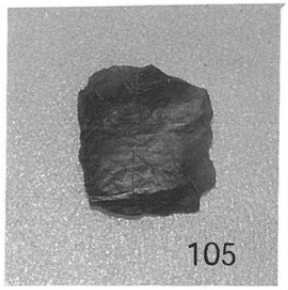


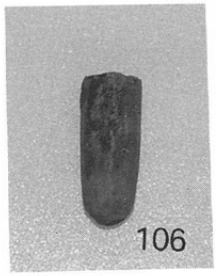


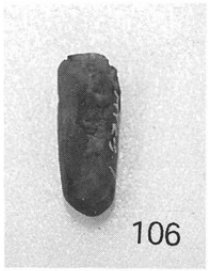


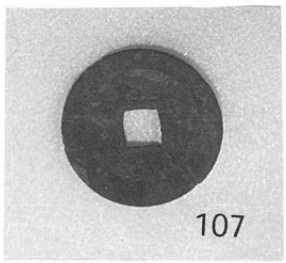


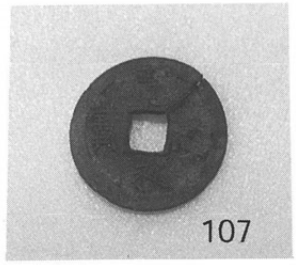


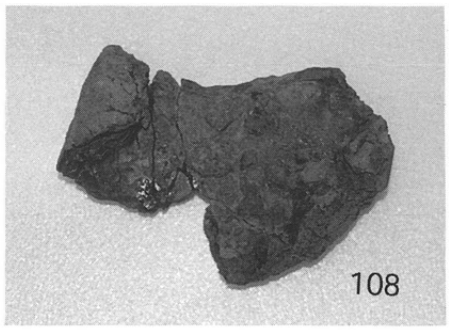


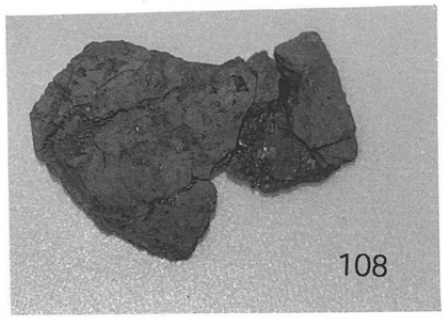










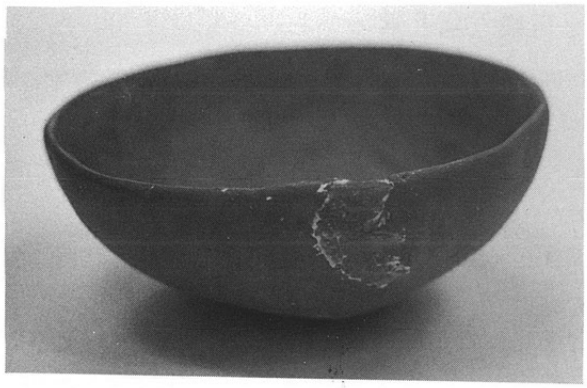


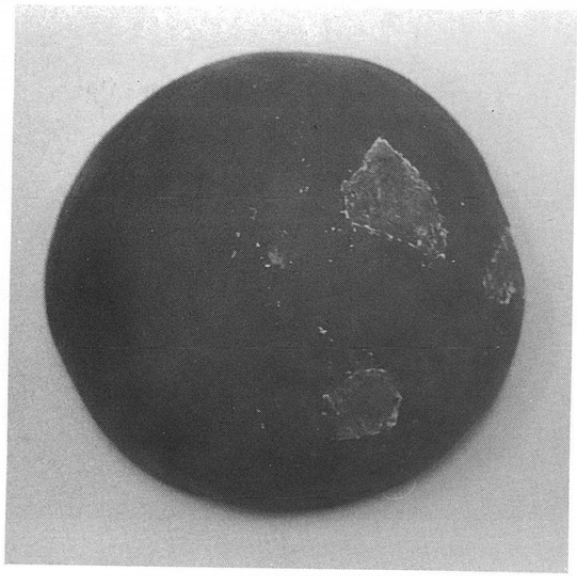
今狩平横穴墓群２号横穴墓近景

閉塞石表面

閉塞石裏面

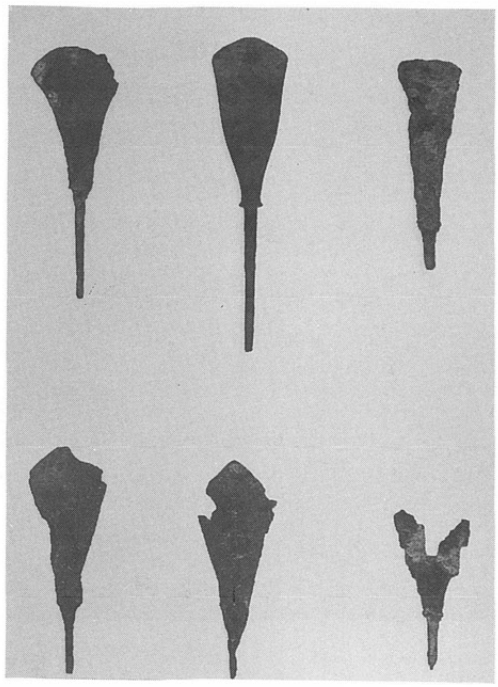
図版２６





今狩平横穴墓群２号横穴墓流出土中採集の土師器

梶原平横穴墓に建つ甲斐有雄翁の供養塔



伝・梶原平横穴墓出土の鉄鏃

抄録

ふりがな	みやのまえだい２いせき・いまがりびらだい２ごうよこあなぼ
書名	宮ノ前第２遺跡（第２次調査・第３次調査）・今狩平第２号横穴墓
シリーズ名	高千穂町文化財調査報告書
シリーズ番号	第11集
編著者名	緒方俊輔
編集機関	高千穂町教育委員会
所在地	〒882-1192　宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13番地
発行年月日	西暦1999年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みやのまえ だい２いせき 宮ノ前第２遺跡 だい２じちょうさ 第２次調査	にしうすきぐん 西臼杵郡 たかちほちょう 高千穂町 おおあざみたい 大字三田井 あざみやのまえ 字宮ノ前	45441	1047	32° 42′ 30″	131° 45′ 34″	平成５年 ３月９日～ １１日	40㎡	町道猿渡線 建設
みやのまえ だい２いせき 宮ノ前第２遺跡 だい３じちょうさ 第３次調査	にしうすきぐん 西臼杵郡 たかちほちょう 高千穂町 おおあざみたい 大字三田井 あざみやのまえ 字宮ノ前	45441	1047	32° 42′ 29″	131° 46′ 14″	平成６年 ５月12日～ ３０日	120㎡	町道猿渡線 建設
いまがりびら だい２ごう よこあなぼ 今狩平２号横穴墓	にしうすきぐん 西臼杵郡 たかちほちょう 高千穂町 おおあざたばる 大字田原 あざいまがりびら 字今狩平	45441		32° 45′ 14″	131° 20′ 30″	平成６年 5月31日 ～６月２日	2㎡	自然災害 （崖崩れ）

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物
宮ノ前第２遺跡 第２次調査	集落	古墳時代後期	竪穴住居跡１	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 製塩土器 石包丁 鉄製ベルト状金具
宮ノ前第２遺跡 第３次調査	集落	古墳時代後期 歴史時代	ピット 溝	縄文土器 弥生土器 土師器 須恵器 製塩土器 近現代陶磁器 寛永通宝
今狩平第２号 横穴墓	横穴墓	古墳時代終末	横穴墓	閉塞石 土師器

最後に、南国宮崎県とは言え、夏は暑く冬は寒い(^^;)中、ご尽力いただきました作業員の皆様にこの紙面をお借りして感謝申し上げます。有り難うございました。m(_)m。

【発掘調査作業】
宮ノ前第２遺跡（第２次調査・第３次調査）
伊木ツル子・内倉ヒサ子・上村綾子・木村セツ・興梠絹代・佐藤慶子・長友妙子・奈須ヨシ子・成田マスミ・都啓子
今狩平２号横穴墓
伊木ツル子・長友妙子・成田マスミ・都啓子
【整理作業】
伊木ツル子・都啓子・鎌田次郎（現在、西郷村教育委員会）（平成６年度）・甲斐ミチ子・矢野真由美・平山弥生（別府大学文学部文化財学科学生）（平成９年度）・甲斐静雄・永岡豊満・飯干美喜子（平成１０年度）

高千穂町文化財調査報告書第１１集
「宮ノ前第２遺跡（第２・３次調査）
今狩平横穴墓群　第２号横穴墓」

【編集・発行】
〒882-1192　宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井13番地
高千穂町教育委員会　社会教育課　文化財係
【印刷】
〒882-1101　宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井721番地
川辺印刷所
【発行年月日】
平成１１（西暦１９９９）年３月３１日